

講義概要

I . 全学共通

全学融合科目

授業科目名	知の技法入門	開講時期	1 年次・通年	必修／選択／自由	必修 (全学科)
担当教員名	前田 樹海 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	学問の追求の場である大学教育の導入として、学生が主体的かつ能動的に取り組む基盤づくりを目指す。学生の創造性を培うべく、全学科を越えた学びの機会を設置することで、各々の資格取得に励む学生たちの学問的・人間的交流を図り、自らの専門性を確立する土台を培い、少人数制教育を通して学問の基礎を学ぶことを目的とする。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	教員紹介・グループ間交流				前田 樹海 金井 Pak 雅子 浅田 庚子 西村 桂一 梶原 祥子 笹木 正悟
2	同上				
3	「救命救急法」を体験する				
4	同上				
5	「AED 操作法」				
6	同上				
7	日本科学未来館見学（プレゼンテーション技法）				
8	同上				
9	図書館見学（文献の検索法など）				
10	同上				
11	食の安全性と日本の実態について学ぶ				
12	食育の実践				
13	講義とディスカッション（1）				
14	同上				
15	講義とディスカッション（2）				
16	同上				
17	講義とディスカッション（3）				
18	同上				
19	講義とディスカッション（4）				
20	同上				
21	講義とディスカッション（5）				
22	同上				
23	講義とディスカッション（6）				
24	同上				
25	講義とディスカッション（7）				
26	同上				
27	講義とディスカッション（8）				
28	同上				
29	講義とディスカッション（9）				
30	同上				
教科書	特に指定しない				
参考書等	その都度提供する				
成績評価基準	授業への出席・発言内容・提出物などを通して、総合的に判断する。				
受講上の 注意事項	1. 事前学習は必ず行うこと。 2. グループメンバー同士、互いに協力し合うこと。				

全学融合科目

授業科目名	人とのつながりの技法	開講時期	1 年次・通年	必修／選択／自由	必修 (全学科)
担当教員名	島田 将夫 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	思いやりの心を育みつつ、人と人との親和共栄・協力連携・理解発展をよりよく進展させる技法を身につけるための演習を行う。特に、社会・職業生活での対人コミュニケーションにおいて重要とされる、自己を覚知しようとする働きかけ、そして他者の様々な立場や思いを親身に理解しようとする働きかけ、この双方向の働きかけが積極的にできる心的態度の育成を目標とする。現実に即した説明、報告、面接、依頼、交渉などの演習を通じて、人と人との満たされた関係性のなかで育まれる至福感を体験させる。				
回	テ　　マ　　および　　内　　容				担当教員名
1	グループ間交流				島田 将夫 西村 桂一 山下 雅子 徳安 秀正 野口 京子 林 さとみ 平田 美和 山本かおる 北島 泰子
2	食育と健康について				
3	グループ間交流				
4	同上				
5	コミュニケーション技法①				
6	同上				
7	コミュニケーション技法②				
8	同上				
9	国際福祉機器展見学				
10	同上				
11	本の読み方技法①				
12	同上				
13	本の読み方技法②				
14	同上				
15	文章の書き方技法①				
16	同上				
17	文章の書き方技法②				
18	同上				
19	論文の読み方・クリティーク技法①				
20	同上				
21	論文の読み方・クリティーク技法②				
22	同上				
23	インタビュー技法①				
24	同上				
25	インタビュー技法②				
26	同上				
27	ロールプレイ技法				
28	同上				
29	ロールプレイ技法と 1 年間の振り返り				
30	同上				
教科書	特に指定しない				
参考書等	その都度提示する				
成績評価基準	授業への出席・発言内容・提出物などを通して、総合的に判断する。				
受講上の 注意事項	1．事前学習は必ず行うこと。 2．グループメンバー同士、互いに協力し合うこと。				

共通基礎科目（自然の科学）

授業科目名	生き物の科学 (生物学)	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	松山 善亮	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、生物学の基本的事項を学習する。医学は生物学を基礎としているだけに生物学の基本的事項の理解は医学全般を学習する上で重要である。特に基礎医学の内容と深く関わる事項について学習し、医学の理解の促進をはかる。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	生物の多様性	地球上には多種多様な生物が存在する。それらの生物に共通している特徴や、多様な生物の体系的な分け方について解説する。			松山 善亮
2	生体分子	生物を構成する元素やそれらからなる分子、重要な役割を担っている高分子の構造について解説する。			
3	細胞の構造 (1)	生物の構成単位は細胞である。生物界間で異なる細胞の特徴や構造について解説する。			
4	細胞の構造 (2)	細胞内に存在する細胞内小器官の機能や構造、その成り立ちについて解説する。			
5	細胞分裂	体細胞は分裂により増殖する。また生殖細胞は分裂により生じる。これら細胞分裂のメカニズムについて解説する。			
6	発生と分化	個体は様々な機能を持つ細胞の集まりである。それら多様な組織が一つの細胞から生じてくる機構について解説する。			
7	代謝	動物は呼吸によって、植物は光合成によって生きるためのエネルギーを得ている。このような代謝の機構を解説する。			
8	遺伝 (1)	子は親の形質を持つ。このような遺伝の機構、メンデルの法則について解説する。			
9	遺伝 (2)	メンデルの法則によらない形質の遺伝が存在する。その例とメカニズムについて解説する。			
10	遺伝子とその働き (1)	個体の設計図である DNA を修復、複製、維持する機構について解説。			
11	遺伝子とその働き (2)	DNA はまずに転写され、その後 RNA はタンパク質に翻訳される。その機構について解説する。			
12	恒常性の維持 (1)	生物は様々な変化する環境の中で生きているが、高等生物の体内環境は一定に保たれている。この維持機構について解説する。			
13	恒常性の維持 (2)	ウイルスや病原菌に対する防御機構である免疫機能について解説する。			
14	適応と進化	生物誕生から40億年。生物は進化し続けてきた。進化が起こる理由、そのメカニズムについて解説する。			
15	定期試験	定期試験および授業のまとめ			
教科書	必要な図や表は授業時にプリントで配布するので教科書は使用しません。生物学の包括的な理解のため、高校生物学の教科書を利用してください。				
参考書等	『生物学入門』 石川 統（東京化学同人）2001、『生物学』 石川統：守隆夫（東京化学同人）2008				
成績評価基準	出席点と数回行うレポート、最終日の試験の結果				
受講上の 注意事項	教科書、参考書についての説明を一回目の授業時に行います。				

共通基礎科目（自然の科学）

授業科目名	物質の反応 (化学)	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	荒井 裕一郎	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、生命活動の基本となる化学物質の変化を理解するための基礎となる、有機化学と無機化学について学習する。特に有機化学では核酸、タンパク質、脂肪酸など、生理学、生化学、臨床薬学などの学習に不可欠な生体分子の化学構造と性質を理解するために必要な基本的な知識を習得する。また、生体中では金属イオンが、種々の生化学・生理学反応に関わっているので、無機化学ではそれらの金属イオンの関る反応の基本について学習する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	基礎的な諸概念				荒井裕一郎
2	化学反応				
3	原子核と核反応				
4	周期律と原始の電子構造				
5	結合：イオン結合				
6	結合：共有結合				
7	結合：一部イオン結合で一部共有結合				
8	酸化－還元反応				
9	酸－塩基反応				
10	集合状態と細分状態				
11	化学エネルギー論と反応速度				
12	有機化学				
13	無機化学				
14	生物化学				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『大学生のための基礎シリーズ 3 化学入門』 下井 守、村田 滋 著（東京化学同人）				
参考書等					
成績評価基準	定期試験の成績に出席状況や受講態度などを加味して総合的に評価する。				
受講上の 注意事項					

共通基礎科目（自然の科学）

授業科目名	物質の科学 (物理学)	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	王 鳳英	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、生命現象を物理学の側面から理解できるような基礎を固めるために、物理学の基本的事項を学習する。主として物理学と生物学の接点のうちから比較的重要だと思われるものを取り上げ、具体的に運動の法則・仕事・エネルギーを重点とした力学、電気現象と生体での電気活動、熱力学の入門、光学の基礎と顕微鏡などの内容を設ける。又、授業を行う上で受講者の専門分野の特徴を配慮し、概念や原理、更に例題の解答をやさしいところから丁寧に解説していく。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	ガイダンス	物理学の概要と医療に活かされた物理学の事例を紹介する。			王 鳳英
2	ストレスと力	ストレスの概念から力の概念を導出し、力の合成と分解、力の釣り合いなどを学習する。			
3	力のモーメントとその応用	力のモーメント、人体のバランスと人体中のテコについて講義する。			
4	運動の形	変位、速度と加速度などの概念について解説する。			
5	ニュートンの運動の法則	ニュートンの運動の法則とその人体における応用を紹介する。			
6	仕事とエネルギー	仕事とエネルギーの定義、エネルギー保存の法則とその応用の講義をする。			
7	「気」から電気を見る	東洋医学の「気」の概念から「電気」を提起し、電荷と電荷に働く力、電界（場）と電気力線などを紹介する。			
8	電位と電圧とは何か	電位と電圧の概念、等電位面などを紹介する。			
9	電流、抵抗とツボの電気測定	経穴の電気測定を具体的な事例として、電流・電気抵抗とオームの法則を解説する。			
10	人体、経絡と電気	人体の電気的特性と電気の医療への応用を紹介する。			
11	医用光学基礎	光、光の反射と屈折、光の分散、レンズによる像などを紹介する。			
12	人の眼と医療用光学機器	人の眼の構造、近視・遠視・乱視の矯正、顕微鏡などの原理			
13	レーザーとレーザー治療	レーザーとレーザー治療について紹介する。			
14	体の熱エネルギーとダイエットの話	熱力学の第一法則、基礎代謝測定の物理的原理、カロリーの計算について講義する。			
15	毫鍼・艾灸の物理化学的特性の検討	講師本人の研究を紹介する。			
教科書	『看護と医療技術者のためのぶつり学』 横田俊昭（共立出版）2003				
参考書等	『新物理学入門』 大槻義彦（学術図書出版社）1999				
成績評価基準	出席とレポートにより、総合的に評価する。				
受講上の 注意事項					

共通基礎科目（自然の科学）

授業科目名	分子遺伝学	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	岩崎 秀雄	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、分子レベルでの遺伝現象の解明を通じ、医療や新薬の開発など人類の福祉や新しい生命科学等への応用が期待される分子遺伝学について、その基礎から最先端の研究動向までを分かりやすく講義、紹介する。また、動植物の様々な振る舞いが、遺伝子間の複雑なネットワークを介した働きかけによってはじめて体現されることを、サーカディアンリズム（体内時計）や形作りなどの例を取り上げながら理解させることを講義目標とする。				

共通基礎科目（人間と社会）

授業科目名	法学 (日本国憲法)	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	河野 久	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本講義は、法学の基礎的知識と日本国憲法の機能及び憲法秩序についての基礎的理解の習得を目的とし、併せて法的思考力の涵養を図る。講義では、理解に資するため、判例および実例を多様する。 まず、法規範の性質、法令の成立過程、各種法令とその機能、判例の機能等を総論的に学習し、法と社会生活及び日常生活との深い関わりを認識する。日本国憲法については、憲法の意味、基本原理、統治機構等を始め、憲法を体系的に学習し、憲法が国民生活に果たす役割や国家の機能と国民の関係についても考察する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	法の意味、法令の種類、機能および成立過程				河野 久
2	法の解釈、法と裁判、裁判基準				
3	近代国家と憲法、日本国憲法の特徴				
4	権力分立（統治機構）＝立法、行政、司法				
5	基本的人権＝個人の尊重、幸福追求権、公共の福祉、精神的自由権				
6	基本的人権＝精神的自由権、参政権、				
7	犯罪と刑罰、人身の自由				
8	家族と法＝夫婦、親子、相続				
9	契約の自由＝原則と例外				
10	財産＝財産権の保障と制約				
11	損害賠償＝民事責任、刑事責任、無過失責任				
12	環境保護				
13	労働者の権利、労働基本権				
14	生存権の保障				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書		『法学入門 有斐閣双書 第6版』 末川 博（有斐閣）2009			
参考書等					
成績評価基準		試験によるが、受講態度も評価する。			
受講上の 注意事項		予習と復習をすること。欠席したときは、理由を記載した文書を提出すること。			

共通基礎科目（人間と社会）

授業科目名	哲学 (生命倫理学)	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	早川 正祐	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30 時間
授業の目的 および 到達目標	ケアとは何か、ケアすることとはいかなることなのか—本講義では、ケアを特徴づける重要な要素である「他者の受容（他者を受け容れること）」ということについてまずは考えてみたい。ここでの受容は、他者を操作・統制するといった他者の優位に立つ態度とは異なる。しかし他方で、他者に従属・寄生するといった受動的な態度とも異なっている。そこで「受容」という要素をどう捉えるかが問題になる。この問題を考え、ケアする／される者としての人間のありかたをいくらか理解した上で、生命倫理の問題にも触れていく。				

共通基礎科目（人間と社会）

授業科目名	心理学概論	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	山下 雅子	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	人間の心と行動の仕組みについて基本的な知識を得るとともに、人間理解への行動科学的なアプローチについて学ぶことを目的とする。内容としては、情報を得るための感覚・知覚の働き、思考や記憶を司る認知の働き、環境刺激が心や行動に与える影響の仕組み、情動・動機づけの仕組み、知能や人格などの個人差のあらわれ方、そして対人認知や集団の中の個人の社会的行動等の各分野における基本的な知見に関する研究について学び、適宜簡単なワークを取り入れて理解を深める。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	ガイダンスおよびテスト				山下 雅子
2	心理学の研究法 1 研究法の基礎				
3	心理学の研究法 2 個人差の研究法				
4	行動の基礎 1 レスポンデント条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習				
5	行動の基礎 2 学習の成立過程				
6	認知の心理学 1 記憶の分類				
7	認知の心理学 2 記憶の機能				
8	認知の心理学 3 思考、日常認知				
9	知覚の心理学 感覚、知覚の基礎				
10	発達の心理学 1 発達の諸相				
11	発達の心理学 2 認知的発達				
12	社会の心理学 1 推論、リスクの心理学				
13	社会の心理学 2 個と個の心理学				
14	社会の心理学 3 状況の力、集団の心理学				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『心理学をつかむ Textbooks tsukamu』 今井久登：平林秀美（有斐閣）2009				
参考書等	『あたりまえの心理学：心理学入門』 安齊順子：野村康治（文化書房博文社）2007 『心理学 第3版』 鹿取広人：杉本敏夫（東京大学出版会）2008 『行動の基礎：豊かな人間理解のために』 小野浩一（培風館）2005 なお、レポートのための参考書については授業内で指示する。				
成績評価基準	授業初回のテスト（10%）、定期試験（50%）、レポート（20%）、平常点（20%）を目安に総合的に評価する。				
受講上の 注意事項	第1回の講義時に教科書指定範囲（予定では unit 3 および unit25）のテストを行う。このテストは成績評価の対象となるため、あらかじめ十分な予習が必要である。初回テストについての詳細や変更は後学期開講前に掲示板等で告知する。				

共通基礎科目（人間と社会）

授業科目名	社会保障の基礎	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修（看護） 選択（鍼灸・柔整）
担当教員名	田中 潤	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	主に社会保険により医療や老後の所得、介護などを保障する社会保障制度の機能と役割を理解する。当該科目では、保健医療福祉専門職の実践に必要な各制度のしくみを当該目的に照らし考察することを通じて、全体像から社会保障の基礎を学ぶ。少子・高齢化に伴う給付の拡大、世代間の負担の公平性、健康づくり・予防の推進、給付の見直しと効率化、高齢者医療の見直し、介護サービスの市場化と質の向上、財源および公費負担のあり方などの課題を探り、持続可能な社会保障の構築に向けた政策に関する理解を深める。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	社会保障の理念と体系	社会保障の理念と概念・歴史、社会保障制度の持続可能性、少子高齢化と社会保障給付費の増加、体系と各制度の概要等			田中 潤
2	介護保険制度（1）	制度創設の経緯、制度改正の留意点、介護保険財政と保険料、介護給付と予防給付、食費・居住費の原則自己負担化等			
3	介護保険制度（2）	介護予防への重点的な取組等、地域包括ケアの推進と新たなサービス体系、準市場化と質の向上、事業者規制等			
4	年金保険制度（1）	制度の概要、高齢期の公的年金の位置付け、マクロ経済スライドの導入、将来の保険料水準の固定等			
5	年金保険制度（2）	基礎年金の国庫負担割合の引上げ、厚生年金・国民年金の現状と課題、年金財政の現状と課題、年金資金の運用等			
6	医療保険制度（1）	制度の体系と沿革、予防の重視と医療費適正化の総合的な推進、利用者負担・食費・居住費の一部自己負担化等			
7	医療保険制度（2）	新たな医療保険制度の創設、療養病床の再編成、医療費の動向、医療提供体制、診療報酬制度、健康行政等			
8	労働保険制度（1）	労働者災害補償保険制度の概要、過労死・過労自殺、通勤災害保護の拡大等			
9	労働保険制度（2）	雇用保険制度の概要、保険事故、失業等給付と雇用保険二事業等			
10	生活保護	公的扶助の意義、生活保護制度の現状、根拠ある生活保護基準、公平・公正な運用、きめ細かな自立支援等			
11	社会福祉サービスと社会手当	高齢者福祉、障害者福祉と障害者自立支援法、児童福祉、児童手当等、少子化対策の課題、福祉の人材確保対策等			
12	社会保険と民間保険	社会保険の仕組み、民間保険の仕組みと種類・機能等			
13	社会保障の機能と財政	社会保障の機能、経済・財政とのバランス、厳しい財政状況下での制度の持続可能性等			
14	社会保障の現状と課題	社会保障給付の伸びの抑制、安全網としての水準確保、世代間の公平性の確保、社会保障の財源等			
15	定期試験	定期試験および授業のまとめ			
教科書	『新・社会福祉士養成講座 12 社会保障』 福祉士養成講座編集委員会（中央法規出版）				
参考書等	授業でその都度指定する。				
成績評価基準	定期試験（60%）、授業への参加（20%）、課題レポート（20%）を目安に、総合的に評価する。				
受講上の 注意事項	社会保障の課題に関する時事解説は、新聞やテレビなどで取上げられることが少なくないため、常に関心を持ち注目しておくこと。これにより、政策の形成や体系を理解する上で役に立つ。				

共通基礎科目（人間と社会）

授業科目名	人間形成論	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	平成22年度以降就任予定	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	ヒトは、ひたすら無力な存在として生まれくるが、一人の人間として現実の社会の中で生き、その跡としての文化を残す。このような主体である一人一人の人間はどのようにして形成され、変化してゆくのだろうか。動物としてのヒトの特徴の基礎の上に、発達してゆく存在として人間をとらえ、教育学や心理学、社会学の視点から、ヒトが人間になり、衰え死に至る過程を明らかにし、人間として生きる意味を多面的に分析・考察する。これにより、人間存在を能動的にとらえ、自覚的に自己形成できる専門職育成の基礎を養う。自分を含めひとりの人間がどのようにしてつくられ、変転してゆくのかの基本的なありようが把握でき、いくつかの側面からの分析が出来るようになることを目標とする。				

共通基礎科目（人間と社会）

授業科目名	医療史	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	東郷 俊宏	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、ヒポクラテスに始まる西洋医学の歴史について、特に医学史上重大なトピック（Vesarius による解剖学の体系化、W. Harvey による血液循環説の発見、Bernard によるホメオスタシスの提唱、H. Selye によるストレス学説の発見など）、および我が国に西洋医学が伝来し、受容されてきた過程（近世における蘭学の発展過程）などに焦点を絞りながら講述する。講義にあたっては、史実の羅列に終始するのではなく、「病のとらえ方」が時代によってどのように変遷したかを講義し、現代医学がどのような歴史的背景を持ち、今日まで人々の保健衛生に貢献してきたかを理解させる。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	オリエンテーション（医学史を学ぶ意義 人の身体をみるということ）				東郷 俊宏
2	人の身体へのまなざし（『看護覚え書き』から） 1				
3	人の身体へのまなざし（『看護覚え書き』から） 2				
4	西洋医学史（ヒポクラテスから中世まで）				
5	ルネッサンスとヴェサリウス（近代解剖学のあけぼの）				
6	ウィリアム・ハーヴェイと血液循環説				
7	ハンス・セリエと汎適応症候群（ストレス学説） 1				
8	ハンス・セリエと汎適応症候群（ストレス学説） 2				
9	近世医学史 1（大航海時代 アルメイダ）				
10	近世医学史 2（江戸初期 ケンペル）				
11	近世医学史 3（江戸中期 ツェンベリー）				
12	近世医学史 4（江戸後期 シーボルト）				
13	近代医学史 5（明治維新と近代的医療制度の確立）				
14	まとめ				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	特になし				
参考書等	講義で随時指導する				
成績評価基準	出席状況・レポート（1～2 回）・定期試験を総合的に判定				
受講上の 注意事項					

共通基礎科目（人間と社会）

授業科目名	ボランティア論	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	必修（看護） 選択（鍼灸・柔整）
担当教員名	横山 貴美子	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目においては、特に、福祉関連団体、機関、施設等でのボランティア活動の現状と意義、目的等を学び、実際のボランティア体験を通して、ボランティアのあり方を考える。講義のなかで、地域の各種ボランティア活動者を招いて、それぞれの活動の現状や課題を聴き、ボランティアの意義や目的等を学ぶ。それを踏まえたうえで、ボランティア体験を行い、「活動計画⇒体験⇒振り返り」という一連の演習を通して活動のあり方を具体的に考える。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	オリエンテーション	本授業の目的や流れを理解する。過去のボランティア体験をふまえ、自身のボランティア観を整理する。			横山貴美子
2	ボランティアの歴史と現状	諸外国、日本のボランティアの歴史と現状を理解する。			
3	ボランティア体験学習 （事前準備　その１）	ボランティア活動への理解を深めるために、活動の一つである話し相手ボランティアの体験学習を実施する。その事前準備として本ボランティアの歴史と現状を理解する。			
4	ボランティア体験学習 （事前準備　その２）	体験学習に必要なコミュニケーション技術について理解を深める。			
5	ボランティア体験学習 （事前準備　その３）	体験学習の具体的な内容や方法について理解し、準備を行う。			
6	ボランティア体験学習 （振り返り）	体験を通して学習したことを整理する。			
7	社会福祉ボランティアからの メッセージ	話し相手ボランティアを実際に行っている活動者から活動の現状と課題を聴く。			
8	社会福祉ボランティアを支える 専門職からのメッセージ （その１　社会福祉協議会）	話し相手ボランティアを支える専門職からみたボランティアの現状と課題を聴く。			
9	社会福祉ボランティアを支える 専門職からのメッセージ （その２　施設職員）	話し相手ボランティアを支える専門職からみたボランティアの現状と課題を聴く。			
10	ボランティア活動の内容(1)	国際交流ボランティアの現状と課題を理解する。			
11	ボランティア活動の内容(2)	安全・防災ボランティアの現状と課題を理解する。			
12	ボランティア活動の内容(3)	文化・教育・学習ボランティアの現状と課題を理解する。			
13	ボランティア活動の内容(4)	保健・医療・福祉ボランティアの現状と課題を理解する。			
14	ボランティア活動の今後の展望	NPO、NGO とボランティア活動			
15	レポート作成	講義・演習を通し、理解したこと、考えたことを基に、ボランティア観を整理する。			
教　科　書		特に指定なし			
参考書等		『ボランティア論』 川村匡由（ミネルヴァ書房）、適宜資料を配布			
成績評価基準		出席（60点）　体験学習振り返りレポート（20点）　最終レポート（20点）			
受講上の 注意事項					

共通基礎科目（人間と社会）

授業科目名	健康の創造 (体育理論)	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	高橋 康輝	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	健康で活力のある生活を営むために必要な諸条件を理解し、自ら実践する能力を身につけることは、将来、医療関係に進む学生にとって最も重要である。その上、自らが社会全体の健康度を高めるために貢献する人材であることを念頭に置き、健康増進の知識と技術を啓蒙する能力を養う。また健康を創造する手段のひとつである体育・スポーツという領域における事象を科学的に理解するため、具体的な事象をシステマチックに考察し、体育・スポーツについての理解を深める。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	オリエンテーション（健康の概念と健康の創造）				高橋 康輝
2	健康と安全管理				
3	健康な生活を送るために（生活習慣病予防の観点から）				
4	健康な生活を送るために（メンタルヘルスの観点から）				
5	健康な人に健康を伝える難しさ（行動変容）				
6	誰でも楽しめるスポーツレクリエーション				
7	誰でもわかる運動生理学（エネルギー供給 筋肉の科学）				
8	美しいボディーコントロール（動き・姿勢の科学 体形維持の理論）				
9	運動を学習するということのメカニズム				
10	子供の健全な発育発達に適した体育・スポーツ				
11	高齢者および障害者福祉政策の概念				
12	体力維持と生涯スポーツ				
13	マネジメントの概念（ヘルスマネジメント スポーツマネジメント）				
14	健康指導のための情報収集とデータ活用法				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	資料を配布するので、特に必要としない。				
参考書等	資料を配布するので、特に必要としない。				
成績評価基準	出席日数、受講態度、課題、試験の成績で総合的に評価する。				
受講上の 注意事項	(1) 演習科目のため、出席は重要である。 (2) 場合によっては、運動着や運動靴が必要となる時があるが、必要な時には事前に報告する。				

共通基礎科目（人間と社会）

授業科目名	健康スポーツ (体育実技)	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	必修（鍼灸） 選択（柔整・看護）
担当教員名	徳安 秀正	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では基礎体力の増進に加え、各種目の体育競技を行い、体育を通じて心と身体を鍛える。各種目の基本的技術の習得、各種目のルールについて学習し、楽しく競技（ゲーム）することを目的とする。個人競技、団体競技の特性を理解し、自主性と協調性の向上をはかり、精神力を身につけさせる。体育を通じて、ルールを守り礼儀正しく行動することの大切さを理解し、社会において健康で心豊かな生活がおくれることを目標とする。1 年前期に開講し、前半は体育館やトレーニングルームを使用して基礎体力の増進や室内競技を行い、後半を屋外を含む各種競技にあてる。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	ガイダンス（授業内容、目的、評価内容）				徳安 秀正
2	体操・ストレッチング				
3	健康運動としてのジョギング・ウォーキング				
4	ウォーキングの特性と指導方法				
5	ジョギング・ウォーキングの運動強度と効果				
6	ジョギングの特性と指導方法				
7	ジョギング・ウォーキングの運動強度と効果②				
8	レクリエーションスポーツ				
9	球技（基礎知識と技能練習）				
10	球技（運動ゲーム）				
11	球技（基礎知識と技能練習）				
12	球技（運動ゲーム）				
13	球技（基礎知識と技能練習）				
14	レクリエーションスポーツ（運動ゲーム）				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	特になし				
参考書等	特になし				
成績評価基準	定期試験のほか、出席状況および授業態度を総合的に評価する。				
受講上の 注意事項	・屋外、屋内の専用シューズを用意すること ・運動できる体育着に着替えること ・途中休憩の時間を入れるので、水分補給をすること				

共通基礎科目（言語とコミュニケーション）

授業科目名	英語 I	開講時期	1 年次・前学期	必修/選択/自由	必修（鍼灸） 選択（柔整・看護）
担当教員名	島田 将夫	授業形態	演習	単位数/時間数	1 単位/30 時間
授業の目的 および 到達目標	実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検や TOEIC などに即応できる英語運用能力を養成する演習を行う。各種英語検定において頻度率約90パーセントを占める基礎語彙約3000語を含む100語程度の英語文章60課題が滑らかに暗誦できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練には ICT（インターネット等）を活用する。音読サイトトランスレーションやリテンションの技法を援用し、英語を英語で直接理解することを体得させる。				

回	テ ー マ	内 容	担当教員名
1	訓練の心得、目的、目標	基本文章の音読・暗誦を基礎訓練として位置づけることの意義ならびに様々な外国語学習方法との関連付けを明示する	島田 将夫
2	音読の技法 (予備訓練 1)	英語文章（課題 1～10）を題材にして、音素や音節や韻律などを習熟するための音読訓練方法を体得する	
3	音読サイト・トランスレーションの技法（予備訓練 2）	英語文章（課題 1～10）を題材にして、音読サイトトランスレーションの技法を援用した音読訓練方法を体得する	
4	リテンションの技法 (予備訓練 3)	英語文章（課題 1～10）を題材にして、リテンション（再構成）の技法を援用した音読訓練方法を体得する	
5	人間・生活	人間・生活の領域における話題から選定した英語文章（課題11～15）を題材とした包括的な音読訓練	
6	社会問題	社会問題の領域における話題から選定した英語文章（課題16～20）を題材とした包括的な音読訓練	
7	政治・社会	政治・社会の領域における話題から選定した英語文章（課題21～25）を題材とした包括的な音読訓練	
8	経済・社会	経済・社会の領域における話題から選定した英語文章（課題25～30）を題材とした包括的な音読訓練	
9	教育	教育の領域における話題から選定した英語文章（課題31～35）を題材とした包括的な音読訓練	
10	医療	医療の領域における話題から選定した英語文章（課題36～40）を題材とした包括的な音読訓練	
11	歴史・文化	歴史・文化の領域における話題から選定した英語文章（課題41～45）を題材とした包括的な音読訓練	
12	科学・技術	科学・技術の領域における話題から選定した英語文章（課題46～50）を題材とした包括的な音読訓練	
13	環境問題	環境問題の領域における話題から選定した英語文章（課題51～55）を題材とした包括的な音読訓練	
14	国際問題	国際問題の領域における話題から選定した英語文章（課題55～60）を題材とした包括的な音読訓練	
15	定期試験	英語文章（課題 1～60）の訓練成果の総合発表	

教科書	1. 『キクタンリーディング〈advanced〉6000：聞いて読んで覚えるコーパス英単語』 田島亮：木村麗（アルク）2007〈全学科〉 2. 『モリー先生との火曜日』 ミッチ・アルボム（講談社インターナショナル）2005〈全学科〉 3. 『原文看護覚え書』 フローレンス・ナイティンゲール：薄井坦子（現代社（新宿区））2001〈看護学科〉
参考書等	1. 『英語学習のための情報リテラシーブック』 西納春雄（大修館書店）2005 2. 『鍼灸師・柔道整復師のための医学英語』 中村清：中村辰三（医道の日本社）2004
成績評価基準	出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、訓練量、訓練達成度
受講上の 注意事項	外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

共通基礎科目（言語とコミュニケーション）

授業科目名	英語Ⅱ	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	島田 将夫	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検や TOEIC などが高成績が期待できる英語運用能力を養成する演習を行う。各種英語検定において頻度率約94パーセントを占める基礎語彙約5000語を含む150語程度の英語文章60課題が滑らかに暗誦できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練には ICT（インターネット等）を活用する。シャドーイングやリピーティングの技法を援用し、英語を自然な速度で直接理解することを体得させる。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	訓練の心得、目的、目標	自然な速度で文章を直接理解することの意義ならびに、音読訓練の目的と目標を明示する			島田 将夫
2	レシテーションの技法 (予備訓練 1)	英語文章（課題 1～10）を題材にして、レシテーション（朗読）を容易にこなすための音読訓練方法を体得する			
3	シャドーイングの技法 (予備訓練 2)	英語文章（課題 1～10）を題材にして、シャドーイング（追い読み）の技法を援用した音読訓練方法を体得する			
4	リピーティングの技法 (予備訓練 3)	英語文章（課題 1～10）を題材にして、リピーティング（繰り返し多読）の技法を援用した音読訓練方法を体得する			
5	人間・生活 (1)	人間・生活の領域における話題から選定した英語文章（課題11～15）を題材とした包括的な音読訓練			
6	人間・生活 (2)	人間・生活の領域における話題から選対した英語文章（課題16～20）を題材とした包括的な音読訓練			
7	社会問題	社会問題の領域における話題から選定した英語文章（課題21～25）を題材とした包括的な音読訓練			
8	政治・経済	政治・経済の領域における話題から選定した英語文章（課題25～30）を題材とした包括的な音読訓練			
9	教育・医療	教育・医療の領域における話題から選定した英語文章（課題31～35）を題材とした包括的な音読訓練			
10	歴史・文化	歴史・文化の領域における話題から選定した英語文章（課題36～40）を題材とした包括的な音読訓練			
11	科学・技術	科学・技術の領域における話題から選定した英語文章（課題41～45）を題材とした包括的な音読訓練			
12	環境問題	環境問題の領域における話題から選定した英語文章（課題46～50）を題材とした包括的な音読訓練			
13	国際問題	国際問題の領域における話題から選定した英語文章（課題51～55）を題材とした包括的な音読訓練			
14	情報・技術	情報・技術の領域における話題から選定した英語文章（課題55～60）を題材とした包括的な音読訓練			
15	定期試験	英語文章（課題 1～60）の訓練成果の総合発表			
教科書	1. 『キクタン リーディング【Super】12000』（アルク）〈全学科〉 2. 『モリー先生との火曜日』 ミッチ・アルボム（講談社インターナショナル）2005 〈全学科〉 3. 『原文看護覚え書』 フローレンス・ナイティンゲール：薄井坦子（現代社（新宿区））2001 〈看護学科〉				
参考書等	1. 『英語学習のための情報リテラシーブック』 西納春雄（大修館書店）2005 2. 『鍼灸師・柔道整復師のための医学英語』 中村清：中村辰三（医道の日本社）2004				
成績評価基準	出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、訓練量、訓練達成度				
受講上の 注意事項	外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。				

共通基礎科目（言語とコミュニケーション）

授業科目名	英語コミュニケーション (英会話)	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	島田 将夫 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	音声を中心とした英語運用能力を養成する演習を行う。日常の基本対話のみに留まらず、ショートスピーチや作品として完成度の高い文章の読み語りが自然な発話速度でできるようになることを目標とする。発話のしくみの基本や異文化間コミュニケーションの原則が体得できるよう、映画等の映像と音声を活用して、リスニングとシャドーイングの訓練を行う。さらに、学生相互が直接に心を通いあわせることができる競技ディベート形式の英語ミニ討論を通じて、英語による自己表現の技法を磨く訓練を行う。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	Getting Acquainted	introducing someone / family / likes, preferences, favorite things / names and nicknames			島田 将夫 John Pak
2	Experiences	talking about experiences / talking about the past / school life / ghost stories			
3	Sport & Leisure	talking about sport and leisure activities / sport rules			
4	Shopping & Money	asking to borrow something / asking for a recommendation / large numbers /money and time			
5	Food	talking about food / describing Japanese food / Hawaiian food			
6	Travel	talking about travel / making travel plans / checking into a hotel / making a complaint / languages			
7	Movies & Television	talking about movies / describing what a movie is about / talking about television			
8	Work	talking about part-time jobs/career plans /interviewing for a job / good and bad points of occupations			
9	Health	talking about health and lifestyle / giving advice / exercise and fitness / ways to prevent colds			
10	Love & Marriage	talking about love and marriage / describing people / inviting someone for a date / giving suggestions			
11	Music & Books	talking about music and books / talking about your favorite music artist			
12	Culture & Places in Japan	talking about culture and places in Japan / describing Japanese things / expressing opinions / prefectures			
13	World Problems	talking about the environment / agreeing and disagreeing / earthquakes / world problems			
14	Review	careful and overall review of important points			
15	Final Exam	students' chance to demonstrate what they learned			
教科書	『Let's Chat!』 John Pak (EFL Press)				
参考書等	1. 『英語学習のための情報リテラシーブック』 西納春雄（大修館書店）2005 2. 『看護英会話入門』 植木武：ドレル・トーン（医学書院）2004 3. 『原文看護覚え書』 フローレンス・ナイティンゲール：薄井坦子（現代社（新宿区））2001 4. 『鍼灸師・柔道整復師のための医学英語』 中村清：中村辰三（医道の日本社）2004				
成績評価基準	出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、訓練量、訓練達成度				
受講上の 注意事項	外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。				

共通基礎科目（言語とコミュニケーション）

授業科目名	中国語Ⅰ	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	弘兼 加奈子	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、近年の国際社会において、その重要度が増している中国語の基本を学習する。中国語Ⅰは、初級段階の中国語の授業科目である。中国語をマスターするための基礎づくりと位置づけ、発音や初歩的な文法、および簡単な会話の習得を目標とする。特に発音の学習にウェットをおき、日常的な挨拶や基礎的な語彙を学びつつ、平易な文章の読み書きができるよう練習を行う。また、文章の基本的な構造を学ぶとともに、身近なことをテーマとした簡単な会話が、より自然な形でできるように反復練習を行う。				
回	テ　　ー　　マ　　　　お　　よ　　び　　　　内　　　　容				担当教員名
1	簡体字、ピンインについての説明。中国語の声調と母音について。				弘兼加奈子
2	複母音、子音について。				
3	軽声、声調変化、r 化。				
4	挨拶の文。発音の復習。				
5	判断を表す動詞。人称代名詞。				
6	“ma” を使った疑問文。“也” “都” を使った文。				
7	形容詞述語文。疑問詞 (1) (shei, henme, na)				
8	中間試験。“的” の用法。				
9	反復疑問文。選択疑問文。				
10	疑問詞 (2) (ji, duoshao)				
11	助数詞				
12	時間、時刻の表し方。				
13	存在を表す文				
14	年月日、曜日の表し方。				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『ぶうとんほあ：はじめての中国語』 八木章好：こう麗媚（朝日出版社）2002				
参考書等					
成績評価基準	中間試験と定期試験の成績、および教場での平常評価により総合的に判断する。				
受講上の 注意事項	「中国語Ⅱ」を履修するためには、「中国語Ⅰ」の単位修得を必要とする				

共通基礎科目（言語とコミュニケーション）

授業科目名	中国語Ⅱ	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	弘兼 加奈子	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、近年の国際社会において、その重要度が増している中国語の基本を学習する。 「中国語Ⅰ」の成果を継承し、基本的な文法やより実践的な会話の習得を目標とする。発音の練習、基本的なパターン練習を通して、基礎的な文法に対する理解を深め、また初歩的な会話から発展させ、日常生活に必要な実践的な会話ができるように、ヒアリング、書き取り、および応用的な会話練習などを取り入れ、反復練習を行う。				
回	テ　　ー　　マ　　および　　内　　容				担当教員名
1	疑問詞 (3) (nar, zenme)				弘兼加奈子
2	前置詞				
3	完了の表現				
4	文末の“了”				
5	進行、持続の表現				
6	経験を表す表現				
7	動詞を重ねる構文				
8	中間試験。動詞を並べる構文				
9	助動詞 (1)「～したい」の表現				
10	助動詞 (2)「～できる」の表現				
11	補語 (1) 程度や状態を表す表現				
12	補語 (2) 結果を表す表現				
13	比較の表現				
14	復習				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『ぶうとんほあ：はじめての中国語』 八木章好：こう麗媚（朝日出版社）2002				
参考書等					
成績評価基準	中間試験と定期試験の成績、および教場での平常評価により総合的に判断する。				
受講上の 注意事項	「中国語Ⅱ」を履修するためには、「中国語Ⅰ」の単位を修得済みであること				

共通基礎科目（言語とコミュニケーション）

授業科目名	韓国語Ⅰ	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	白 銀實	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	韓国語は朝鮮半島を中心に話されている言葉で、日本語と大変よく似ている。語順も同じで、共通する単語も多く、日本人にとって最も簡単で、学びやすい外国語と言われている。本講座は韓国語に初めて接する入門者のための韓国語講座である。ハングル文字の仕組みや発音、基礎的な韓国語の文法を習得した上で、簡単な日常会話ができることを目的とする。単なる言葉の習得だけではなく、韓国文化の紹介をまじえて、韓国・韓国語の理解を深めていく。				
回	テ ィ マ および 内 容				担当教員名
1	ガイダンス				白 銀實
2	ハングルとは	ハングル五十音表を覚える			
3	激音に慣れる	韓国文化紹介（食べ物）			
4	パッチムに慣れる	韓国文化紹介（食べ物）			
5	母音 1	あいさつ			
6	母音 2	自己紹介（短文）			
7	母音 3	あいさつ			
8	母音 4	あいさつ	韓国文化紹介（衣服）		
9	母音 5, 6	自己紹介（長文）			
10	子音 1, 2	助詞	韓国文化紹介		
11	子音 3	濃音			
12	疑問文	韓国文化紹介			
13	疑問文	韓国文化紹介			
14	疑問文				
15	定期試験および授業のまとめ				
教 科 書		『つたえる韓国語：読む・聞く・話すハングル 入門編』 増田忠幸（三修社）2007			
参考書等		『日本語便利辞典』（小学館）2004／『朝鮮語辞典』（小学館）1993			
成績評価基準		出席20%＋平常点30%＋試験50% 授業回数の 3 分の 1 を超える欠席は成績評価の対象としない。			
受講上の 注意事項		言葉を習得する上で、必ず復習することが望ましい。 「韓国語Ⅱ」を履修するためには「韓国語Ⅰ」の単位修得を必要とする。			

共通基礎科目（言語とコミュニケーション）

授業科目名	韓国語Ⅱ	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	選択 (全学科)
担当教員名	白 銀實	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	韓国語は朝鮮半島を中心に話されている言葉で、日本語と大変よく似ている。語順も同じで、共通する単語も多く、日本人にとって最も簡単で、学びやすい外国語と言われている。最近韓流の波に乗って、韓国および韓国語に興味を抱いている日本人も多く見受けられるようになったが、本講座は単なる興味だけで飛びつくのではなく、しっかり韓国語の文法を理解し、韓国語の読む力、つまり、読解力を高めていくことを目標とする。 また言語背景となる文化的な事柄にも触れ、より効果的な言語習得のための工夫を凝らしていく。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	ガイダンス				白 銀實
2	疑問文・平叙文	韓国文化紹介			
3	疑問文・意志形	韓国文化紹介			
4	疑問文・否定文				
5	漢数字をおぼえる	韓国文化紹介			
6	過去形				
7	固有数詞をおぼえる	韓国文化紹介			
8	日常会話の文型				
9	命令形・尊敬形	韓国文化紹介			
10	形容詞				
11	尊敬形	韓国文化紹介			
12	文型				
13	文型	韓国文化紹介			
14	文型				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『つたえる韓国語：読む・聞く・話すハングル 入門編』 増田忠幸（三修社）2007				
参考書等	『日本語便利辞典』（小学館）2004／『朝鮮語辞典』（小学館）1993				
成績評価基準	出席20%＋平常点30%＋試験50% 授業回数の3分の1を超える欠席は成績評価の対象としない。				
受講上の 注意事項	韓国語Ⅰの履修者のみ受講すること。必ず復習することが望ましい。				

共通基礎科目（情報処理と研究の基礎）

授業科目名	情報リテラシー I	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	必修 (全学科)
担当教員名	細井 良三 他	授業形態	演習（共同）	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	ケア実践の基礎となるデータの収集、整理、情報化、表現、発信に資する代表的なツールとして、コンピュータおよびアプリケーション（ワードプロセッサ、スプレッドシート、データベース、サーチエンジン、プレゼンテーションの各アプリケーション）の基本的な使用方法を習得するとともに、それらを自ら発展させ応用するための技法について理解を深める。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	情報とコミュニケーション				細井 良三 前田 樹海 21年度以降 就任予定者1名
2	コンピュータの基本機能・基本操作・データファイルの構成・アプリケーション				
3	ワードプロセッサ（WORD）：基本操作－1（文字列の検索・置換・移動・コピー）				
4	ワードプロセッサ（WORD）：基本操作－2（罫線・図形・写真）				
5	ワードプロセッサ（WORD）：文書ファイルの管理・例題文章作成				
6	インターネット：ブラウザー・メール・サーチエンジン・医療情報検索				
7	スプレッドシート（EXCEL）：基本操作－1（データ入力・計算式・グラフ）				
8	スプレッドシート（EXCEL）：基本操作－2（関数・図形・写真）				
9	スプレッドシート（EXCEL）：基本操作－3（データベース・分析ツール・応用）				
10	スプレッドシート（EXCEL）：例題データ分析・分析結果レポート作成（WORD 使用）				
11	プレゼンテーション（PowerPoint）：基本操作－1（スライド画面・文字入力）				
12	プレゼンテーション（PowerPoint）：基本操作－2（表・図形・写真・動画）				
13	プレゼンテーション（PowerPoint）：基本操作－3（スライド表示の技法）				
14	プレゼンテーション（PowerPoint）：課題スライド作成・発表				
15	試験（授業の一環として行う。）				
教科書	『医療・福祉系のための情報リテラシー：Windows Vista・Office 2007』 樺沢一之：寺島和浩（共立出版）2009				
参考書等	『かんたん Word2007』 技術評論社編集部（技術評論社）2008 『かんたん Excel2007』 技術評論社編集部（技術評論社）2008 『かんたん PowerPoint2007』 技術評論社編集部（技術評論社）2008				
成績評価基準	成績評価は、授業の中で実施するワードプロセッサ、スプレッドシートを使用してのデータ分析・レポートの作成、およびそのプレゼン手ションスライドをもって評価する。				
受講上の 注意事項	医療の専門職として、入力・分析・表示の正確性を最重要視する。したがってブラインドタッチ等の入力速度を涵養する技能の演習は行わない。				

共通基礎科目（情報処理と研究の基礎）

授業科目名	情報リテラシーⅡ	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修 (全学科)
担当教員名	前田 樹海 他	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	情報リテラシーⅠで学習したアプリケーションをひとつの手段として利用しながら、質の高い情報の取捨選択、データの可視化と要約、効果的な表現および情報発信を実現するための方法を身に付けること、およびそれらの方法を自分自身で構築し自己評価するのに必要なメタ認知能力と批判的思考能力を涵養することを当該科目の学習目標とする。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	情報とは	オリエンテーション／情報の性質／情報の流れ			前田 樹海 細井 良三 21年度以降 就任予定者1名
2	質の高い情報の取捨選択技法(1)	メディアリテラシー			
3	質の高い情報の取捨選択技法(2)	情報メディアの種類と特性			
4	質の高い情報の取捨選択技法(3)	情報検索の種類と特徴			
5	質の高い情報の取捨選択技法(4)	情報検索の方法と応用			
6	質の高い情報の取捨選択技法(5)	情報の評価			
7	データの可視化と要約技法(1)	データ・情報・知識			
8	データの可視化と要約技法(2)	さまざまな可視化			
9	データの可視化と要約技法(3)	量的データの可視化と要約			
10	データの可視化と要約技法(4)	質的データの可視化と要約			
11	効果的な表現および情報発信技法(1)	メタ認知とクリティカルシンキング			
12	効果的な表現および情報発信技法(2)	論理的思考			
13	効果的な表現および情報発信技法(3)	知的財産権と情報プライバシー権			
14	効果的な表現および情報発信技法(4)	さまざまな情報発信ツール			
15	定期試験	最終試験および授業評価			
教科書					
参考書等		『エッセンシャル看護情報学』 太田勝正：前田樹海（医歯薬出版）2006 『キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版』日経 BP ソフトプレス：辰巳丈夫（日経 BP ソフトプレス）2008			
成績評価基準		小テスト、課題への取り組み、および最終試験の成績により判定する。			
受講上の 注意事項		教科書は特に定めない。参考文献等については適宜紹介する。			

共通基礎科目（情報処理と研究の基礎）

授業科目名	研究の基礎	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修（柔整・看護） 選択（鍼灸）
担当教員名	前田 樹海	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	ケア実践の基盤となるエビデンスを適切に生成、活用、流通する手段として研究を位置づけた上で、研究を行なうのに必要な論理的思考および論理的な文章作成のトレーニングを交えながら、研究倫理、クリティーク、基本的な研究デザインについて理解を深めることを通じて、学習者が教員からアドバイスを得ながら研究計画書を作成できることを当該科目の学習目標とする。				

Ⅱ．保健医療学部

1.

鍼灸学科

専門基礎科目（医学教養）

授業科目名	医学概論	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	林 洋 他	授業形態	講義 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、生命現象の成り立ちや生命の尊厳、健康概念の成立および医学の目的・使命、医哲学、医療システム、医学と社会との関係等について学習する。加えて現代の医学、医療システムが抱える様々な問題点を取り上げ、将来の医学・医療において医療従事者に求められているのは何かを主体的に考える能力を涵養する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	オリエンテーション				林 洋 東郷 俊宏
2	世界の医学 1 （ギリシャ医学・アラビア医学）				
3	世界の医学 2 （中国医学・インド医学）				
4	近代医学の成立 1 （ルネッサンスと科学革命）				
5	近代医学の成立 2 （病理学：ウィルヒョウとコッホ）				
6	近代医学の成立 3 （ホメオスタシス：ベルナールとキャノン）				
7	近代医学の成立 4 （神経科学の誕生：ラモニ・カハール）				
8	現代日本の医療 1 （医療と社会）				
9	現代日本の医療 2 （医療従事者と医療・福祉施設）				
10	現代日本の医療 3 （医療経済）				
11	現代日本の医療 4 （医療保険と介護サービス）				
12	健康概念について（日本における健康概念の系譜・健康の定義）				
13	身体へのまなざし（三木成夫の世界から）				
14	医療の倫理（ヒポクラテスの誓い、Informed Consent、Paternalism、医療における「物語（Narrative）」の意味）				
15	定期試験および試験のまとめ				
教科書	なし				
参考書等	『医療概論』（医歯薬出版）1991 『新医学概論』（産業図書）2003 『国民衛生の動向、2008年』 厚生統計協会（厚生統計協会）2008 『平凡社新書「健康」の日本史』 北澤一利（平凡社）2000				
成績評価基準	レポート（中間） 筆記試験（期末）				
受講上の 注意事項	なし				

専門基礎科目（医学教養）

授業科目名	関係法規	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	河野 久	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸業務に関係のある法規について学習する。具体的には、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律およびその付属法令を学習する他、医師法、医療法、薬事法、その他の医療従事者の業務に関する法規等について、その基本的内容と特色について学習する。講義においては、種々の事例や判例を用いて理解を深め、業務の遂行に必要にして十分な法知識を習得することを目標とする。				

専門基礎科目（医学教養）

授業科目名	生命医療倫理学	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	林 洋 他	授業形態	講義（共同）	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、バイオエシックスについての基本的な考え方について学習する。特に医療倫理の歴史的発展、代表的な倫理綱領、具体的な倫理的行為、インフォームドコンセント、QOL の考え方等について学習する。また、現代の医療においては、遺伝子技術を駆使した再生医療をはじめ、出生前診断、生殖医療、臓器移植、臨床試験における倫理問題など、医療者の倫理問題が大きくクローズアップされていることを受けて、各テーマごとに実際の事例を取り上げ、医療従事者、患者、マスコミがそれぞれの立場からどのような言説を展開しているかを比較検討し、将来の医療のなかで求められる倫理とは何かを考える。 （林 洋・東郷俊宏）				

専門基礎科目（医学教養）

授業科目名	東洋医学の歴史と思想	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	東郷 俊宏	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、まず、東アジア（中国、日本、朝鮮半島）における東洋医学の理論、概念の歴史的変遷を主要な文献（『黄帝内経』、『難経』、『傷寒論』、『千金方』、『東醫宝鑑』、『啓迪集』など）をとりあげながら概観する。そして中国に起源を有する伝統医学が、それぞれの国における社会制度や文化状況に応じて、どのように独自の展開をして今日の中医学、韓医学、漢方医学に至っているかを理解する。また昨今の鍼灸医療の国際化に鑑み、欧米への鍼灸医療の普及の歴史、およびこれらの国での東洋医学の受容状況についても講義する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	オリエンテーション（東洋医学の世界観）				東郷 俊宏
2	古代中国における医学（経脈説の成立）				
3	中国医学書の世界 1（古代：『黄帝内経』『難経』『傷寒論』）				
4	中国医学書の世界 2（隋唐期：『千金方』『外台秘要方』）				
5	中国医学書の世界 3（宋～明代） 朝鮮半島における医学				
6	近世日本の伝統医学 1（中国医学書の流入と受容）				
7	近世日本の伝統医学 2（鍼灸流派の成立と展開）				
8	近世日本の伝統医学 3（古方派・後世方派、養生について）				
9	近代日本における伝統医学 1（明治期～戦後における医療制度の変遷と伝統医学）				
10	近代日本における伝統医学 2（脚気論争）				
11	近代日本における伝統医学 3（西洋医学の流入と伝統医学）				
12	近現代中国における伝統医学（中医学の成立と発展）				
13	欧米における東洋医学の普及				
14	本草書の系譜・総括				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	指定しない				
参考書等	『あじあブックス 漢方の歴史―中国・日本の伝統医学』 小曾戸洋（大修館書店）1999 『岩波新書 鍼灸の挑戦―自然治癒力を生かす』 松田博公（岩波書店）2005				
成績評価基準	定期試験・レポート（1～2回）・出席状況を総合的に判定する				
受講上の 注意事項					

専門基礎科目（医療教養）

授業科目名	社会鍼灸学	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	藤井 亮輔	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸と社会とのかかわりについての基本的な視点を学習する。具体的には、疾病構造の変化や急速な社会の高齢化を背景とした医療を取り巻く諸問題、鍼灸療法を含めた新たな社会医療システムの必要性などを理解する基礎として、医療保障システム（一元的医療と多元的医療）、西洋医学と伝統医療、患者の捉え方、病気の意味論等を学習した上で、社会科学の観点から、鍼灸医療の業態と市場規模、医療保健介護領域における鍼灸療法の役割と展望等について学習・討論し、現代社会が求める鍼灸師の基本的資質を養う。				

専門基礎科目（医学教養）

授業科目名	統合医療論 (代替医療)	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	東郷 俊宏 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、種々の補完・代替医療（鍼灸、漢方、サプリメント、マッサージ、温泉療法、アロマセラピー、音楽療法など）について、それぞれの目的、適応症、方法、効果などについて学習するとともに、将来現代医学と併用して統合医療を実践する際に必要な事項について学んでいく。特に諸外国における補完・代替医療および統合医療の実践状況と我が国のそれとを比較し、我が国における医療の在り方について考えさせる。また、それぞれの項目については、グループに分かれて、それぞれテーマを決めて発表し、討論する。 (東郷俊宏・佐治順子)				

専門基礎科目（医学教養）

授業科目名	臨床心理学	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	山口 創	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、発達段階を追って、心理的不適応や不適応行動についての理解を深め、さらに心理的アセスメントや種々の心理療法の技法についても学習することを目標とする。心理的不適応については、特に心身の問題を絡めて統合的な視点から学習する。また心理療法についても、単なる言葉によるカウンセリングだけではなく、動作療法やボディ・ワーク、さらには最近注目されているマインドフルネスといった、身体にはたらきかけるアプローチについても同時に学んでいく。				

専門基礎科目（医学教養）

授業科目名	医療人のための英語 (医学英語)	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	島田 将夫	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、基礎的な英文医学用語を習得するための演習を行う。習得対象となる医学用語を含む英文原著を集中的に繰り返し読み、その和訳文のみを参照すれば、直ちに原文の英語を再現できるようになることを目標とする。音読サイトトランスレーションとリテンションを援用した訓練技法を用いて、自然な音律での原文の音読訓練と、原文の意味内容の要点をおさえた文章把握をする訓練を繰り返し行うことにより、英語文化圏における医療人の医療に対する考え方をよりよく理解するための英語運用能力を養う。				

専門基礎科目（医療教養）

授業科目名	カウンセリング入門	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	茶園 暁美	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、カウンセリングの本質と効果について学習する。よい援助関係の条件とは何か、傾聴、受容などカウンセリングに必要な基本的態度をロールプレイを通して実践的に学習する。その上でクライアントとカウンセラーという二者間の関係性について考察し、カウンセラーに求められる資質について学ぶ。幼少期から老年期まで各ライフステージを通過する上で課されている発達課題や、様々な心理療法、面接技法なども取り入れ、効果的なカウンセリングの用法を学習する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	カウンセリングとは				茶園 暁美
2	カウンセリングの目的				
3	カウンセリングの歴史				
4	発達理論と発達課題について				
5	自己理解について				
6	コミュニケーションについて				
7	ストレスが身体に及ぼす影響について				
8	リラクゼーション方法について				
9	カウンセラーの基本的態度について				
10	カウンセリング技法と実践				
11	カウンセリング技法と実践				
12	カウンセリング技法と実践				
13	カウンセリング技法と実践				
14	カウンセリング技法と実践				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書					
参考書等		『総説カウンセリング心理学』 福島脩美（金子書房）2008 『講談社現代新書〈1091〉 ヘルピングの心理学』（講談社）1992 『図解雑学 臨床心理学』（ナツメ社）2002			
成績評価基準		カウンセリングの基礎知識と基本的態度の習得度を評価基準とする。			
受講上の 注意事項		ロールプレイでは、カウンセラー役やクライアント役など、それぞれの役になりきることが重要です。			

専門基礎科目（医学教養）

授業科目名	中薬学概論	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	戴 昭宇	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、日本の漢方臨床でもよく使われる生薬を取り上げ、それらの薬効と応用について中医学の立場から学習する。主な生薬についてはできるだけ実物又は画像データで観察させ、それぞれの基原と特徴を認識させる。中薬学（漢方）と鍼灸学の臨床は共通した診断学の基盤をもっていること、また「薬食同源」といわれるように、薬物と食物の発見は本来同源とされてきたことをふまえ、中薬学の基本的な理論、および薬食兼用素材の概要（効能効果・運用方法）について中心に学ぶ。講義にあたっては、薬草園などの見学を通じて薬用植物に対する知識をより深められるように配慮する。				

専門基礎科目（医学教養）

授業科目名	中医方剂学 (処方学)	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	戴 昭宇	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、症例を通して病証を診断させ、それに適した方剤を処方することができる基本的な臨床能力を身につけさせる。特に日常遭遇する症例を呈示して病証を判定させ、適切な方剤、処方の方法を理解させる。方剤は、日本の医療保険に収載されている漢方エキス製剤を基本に据えながら、それぞれの効能効果と適応などについて学習する。また喘息やアトピー性疾患、偏頭痛などの疾患、症例を取り上げ、個々のケースに適した方剤の選択又は関連した薬食兼用素材による保健機能食品の運用についても、最新の知見を紹介しつつ講義する。				

専門基礎科目（医学教養）

授業科目名	中医栄養学 (薬膳)	開講時期	4 年次・後学期	必修/選択/自由	選択
担当教員名	和田 暁	授業形態	講義	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、患者の病証や個性特性、ならびに季節・環境、風土にも配慮した、オーダーメイドな弁証施膳の理論と実践について学習する。また、薬膳料理のメニューを各自で作成し発表会を行う。西洋に起源を有する近代栄養学と異なり、中医学では「薬食同源」と言われるように、薬物と食物は本来同源である。生薬と同じく、食物も性味帰経、補瀉調和の効能がある。鍼灸師としてこうした食物に対する知識を持つことは、患者の食生活と疾病の関係を理解する上でも、また患者の病証を考慮に入れた食事指導をしていく上でも大切である。				

専門基礎科目（医学教養）

授業科目名	鍼灸経営論	開講時期	4 年次・後学期	必修/選択/自由	選択
担当教員名	鳥海 一哉	授業形態	講義	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、施術所を経営するための基本的な事項について学習する。経営学の基礎、医療保険制度、税金の仕組み、広告、施術所の設計・デザイン、マーケティングなどについて学習する。加えて最近のインターネット上における施術所の提示の仕方などについても紹介し、経営に対する意識を喚起する。また、施術所を開業している鍼灸師による経営の実際について聴講し、討論する。				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	人体構造学Ⅰ (総論・組織)	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	小泉 政啓	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、人体の正常構造を理解させるため、系統解剖学を学習する。ここでは系統解剖学のうち、骨学（関節を含む）・靱帯学・筋学・神経学などの運動器系に関連する組織器官について主に学習する。また、人体構造の発生・細胞・組織等の基本構造、解剖学の基準となる正位と身体の区分、関節運動の用語等についても学習する。特に骨、筋および神経系については、系統的に学ばせるだけでなく、運動器の機能作用からみたそれらの関係性についても取り上げながら、理解を深めさせる。このようにして、鍼灸師にとって重要な人体の構造の基本を理解させる。				
回	テ　　マ	内　　　容			担当教員名
1	解剖学序論 1	解剖学とは？ 解剖学の歴史。			小泉 政啓
2	解剖学序論 2、細胞・組織 1	解剖学的な人体の区分、体位、方向。細胞の構造。細胞分裂。			
3	細胞・組織 2	組織の種類。上皮・結合・筋・神経組織			
4	発生学総論	細胞分裂。初期発生（外胚葉、中胚葉、内胚葉の分化）。			
5	骨格系総論	骨の種類、基本的構造、発生・成長。骨の連結の種類と構造。			
6	筋系総論	筋組織の構造。筋の種類、一般的形態、分類、作用の種類。			
7	神経系総論 1	神経系の構成、神経細胞、神経興奮の伝達、中枢神経概論。			
8	神経系総論 2	脳・脊髄総論、末梢神経系概論、脳神経・脊髄神経総論。			
9	体幹の骨 1	椎骨、脊柱。			
10	体幹の骨 2	胸郭（胸骨・肋骨）、骨の連結と靱帯。			
11	体幹の筋と神経 1	頸部の筋と頸神経叢、胸部の筋と肋間神経。			
12	体幹の筋と神経 2	横隔膜、腹部の筋、尿管管。			
13	体幹の筋と神経 3	会陰の筋（骨盤出口筋）と陰部神経叢、背部の筋			
14	(中間試験)	中間試験および授業のまとめ			
15	上肢の骨 1	上肢帯・自由上肢の骨、上肢の関節と靱帯 1。			
16	上肢の骨 2・筋と神経 1	上肢の関節と靱帯 2、上肢の筋の区分。			
17	上肢の筋と神経 2	腕神経叢、上肢帯の筋、上腕の筋。			
18	上肢の筋と神経 3	前腕の筋、手の筋。			
19	下肢の骨 1	下肢帯・自由下肢の骨、下肢の関節と靱帯 1。			
20	下肢の骨 2・筋と神経 1	下肢の関節と靱帯 2、下肢の筋の区分。			
21	下肢の筋と神経 2	腰仙骨神経叢、下肢帯の筋、大腿の筋。			
22	下肢の筋と神経 3	下腿の筋、足の筋。			
23	頭の骨	頭蓋骨の構成、骨の連結。			
24	頭の筋と神経	頭部の筋と脳神経			
25	脊髄	脊髄の一般的形態、内部構造。			
26	脳 1	脳の区分、延髄、橋、小脳、中脳、間脳、大脳			
27	脳 2	機能領域、基底核、脳の血管、脳室、脳脊髄液。			
28	自律神経系	自律神経系総論、交感神経、副交感神経。			
29	伝導路	伝導路総論、反射路、下行性伝導路、上行性伝導路。			
30	(定期試験)	定期試験および授業のまとめ			
教科書	『解剖学』（社）東洋療法学校協会 編／河野邦雄・伊藤隆造 ほか著（医歯薬出版）2006				
参考書等	『分担解剖学：総説・骨学・靱帯学・筋学、第 1 巻』（金原出版）1985 『分担解剖学 脈管学・神経系 第 2 巻（改訂第11版）』（金原出版）1984 『分担解剖学 感覚器学・内臓学 第 3 巻（改訂第11版）』（金原出版） 『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〈1〉解剖生理学』（医学書院）2009 『骨学実習の手びき（第 4 版）』（南山堂）1992 『リハビリテーション解剖アトラス』 佐藤達夫・坂本裕和（医歯薬出版）2006				
成績評価基準	「中間試験」+「定期試験」の総合成績 および 出席率。 なお、授業中適宜行なうミニテストの成績も考慮に加える。				
受講上の 注意事項	複雑な人体構造を少しでも理解しやすくするため、講義では図を多用し、実際に自らの手で描くことにより理解をしてもらう。また、適宜模型などを使用する。そのため、欠席によるデメリットは大きいことを明記しておく。				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名		人体構造学Ⅱ	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名		小泉 政啓	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標		本科目では、人体の正常構造を理解させるため、系統解剖学を学習する。ここでは系統解剖学のうち、循環器系（心臓と血管・リンパ系）・呼吸器系・消化器系・泌尿生殖器系・感覚器系などの組織器官について主に学習する。内臓器の構造を知することは、疾患の理解や刺鍼の際の重要な手がかりとなるため、鍼灸師にとっても非常に重要である。そのため、人体模型や立体映像等を用いて3次元的なイメージをつけさせ、個々の器官組織の構造機能だけでなく、各器官組織の関係性を学習させることによって、鍼灸師にとって必要な、人体の構造の基本を理解させる。				
回	テ　　マ	内　　　容				担当教員名
1	内臓総論	内臓の区分、内臓を包む膜、消化管の構造				小泉 政啓
2	頭頸部の呼吸器	鼻腔、口蓋、咽頭、喉頭。				
3	胸部の呼吸器	気管・気管支、肺、呼吸、肺の血管。				
4	循環器系総論	循環路の概要、血管の構造、血液。				
5	心臓 1	心臓の位置、心膜、心臓外景・内景。				
6	心臓 2	刺激伝導系、心臓の血管。				
7	体幹の動脈系	大動脈弓、胸大動脈、腹大動脈、総腸骨動脈と枝。				
8	上肢・下肢の動脈系	鎖骨下動脈から手の動脈、外腸骨動脈から足の動脈。				
9	頭部の動脈系	外頸動脈とその枝、内頸動脈とその枝、椎骨動脈。				
10	体幹・上肢・下肢の静脈系	皮静脈、鎖骨下静脈から手の静脈、外腸骨静脈から足の静脈。				
11	頭部の静脈系	内頸静脈とその枝、顔面の静脈。				
12	血液循環	成人の循環路、胎児期の循環路。				
13	リンパ系 1	リンパ系総論、全身のリンパ管、リンパ節				
14	リンパ系 2	脾臓、胸腺。				
15	(中間試験)	中間試験および授業のまとめ				
16	消化器 1	概観、消化管の血管、口腔、咽頭、食道。				
17	消化器 2	胃、小腸、大腸。				
18	消化器 3	肝臓、胆嚢、膵臓。				
19	泌尿器	腎臓、尿管、尿の生成、膀胱、尿道。				
20	女性生殖器	子宮、卵管、卵巣、外生殖器。				
21	男性生殖器	精巣、精巣上体、精嚢、前立腺、外生殖器、精子の形成。				
22	発生 1	卵巣周期、月経周期、受精、着床、初期発生と胎盤形成。				
23	発生 2	初期発生と胎盤形成、胎児の発生。				
24	内分泌器 1	内分泌とは。下垂体、松果体、甲状腺				
25	内分泌器 2	上皮小体、副腎、膵臓、卵巣、精巣。				
26	感覚器 1	皮膚				
27	感覚器 2	嗅覚器、味覚器。				
28	感覚器 3	視覚器（眼球およびその付属器）、光の感受。				
29	感覚器 4	平衡聴覚器、音の伝達。				
30	(定期試験)	定期試験および授業のまとめ				
教 科 書		『解剖学』（社）東洋療法学校協会 編／河野邦雄・伊藤隆造 ほか著（医歯薬出版）2006				
参考書等		『分担解剖学：総説・骨学・靱帯学・筋学、第1巻』（金原出版）1985 『分担解剖学 脈管学・神経系 第2巻（改訂第11版）』（金原出版）1984 『分担解剖学 感覚器学・内臓学 第3巻（改訂第11版）』（金原出版） 『系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〈1〉解剖生理学』（医学書院）2009 『リハビリテーション解剖アトラス』 佐藤達夫：坂本裕和（医歯薬出版）2006				
成績評価基準		「中間試験」+「定期試験」の総合成績 および 出席率。 なお、授業中適宜行なうミニテストの成績も考慮に加える。				
受講上の 注意事項		複雑な人体構造を少しでも理解しやすくするため、講義では図を多用し、実際に自らの手で描くことにより理解をしてもらう。また、適宜人体模型などを使用する。そのため、欠席によるデメリットは大きいことを明記しておく。				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	人体構造学Ⅲ	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	木村 明彦	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、顔面部・頭頸部・体幹部（胸腹部および肩背腰部）・上肢・下肢の局所解剖について学習する。特に骨各部の名称・関節、筋の名称・起始停止・走行・作用・その筋を支配する運動神経とその神経根、血管系の名称・走行、各所を支配する知覚神経およびデルマトームについて、人体模型や立体映像等を用いて理解を深めさせる。特に体表から観察できる局所解剖については、鍼灸師として臨床上重要な事項であるので3次元的なイメージをつけさせながら重点的に学習し、触診や刺鍼等に活かすことができるよう配慮する。				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	人体の構造学実習	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	小泉 政啓 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、人体を構成する諸器官構造および顕微構造を医学標本・教材（各種模型など）を用いて総合的・立体的に学ぶ。とくに、運動器解剖学（頭・上肢・下肢・体幹の骨、関節、靭帯、筋、神経、血管）、神経解剖学（脳と脊髄、末梢神経系）、内臓解剖学（心臓、肺、肝臓、腎臓など）について理解を深める。さらに、人体を構成する最小単位である細胞およびその集団である組織について顕微鏡解剖学実習（組織学実習）を行う。また、人体における各内臓器・筋骨などの運動器・神経血管系等の位置や各器官の関係性などをあらゆる角度から観察し、教科書の内容を確かめることによってを参照にしながら人体の局所構造の理解を深める。また、各器官の体表からの深さや危険部位への実際の刺鍼等を想定し、刺鍼の危険性を十分に理解させ、鍼灸師として臨床上必要な触診や刺鍼に活かせるよう、学習させる。 （小泉 政啓・成瀬 秀夫・木村 明彦）				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	人体機能学Ⅰ (植物機能)	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高野 一夫 他	授業形態	講義（共同）	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、生理学の植物性機能について学習する。植物性機能とは、生物の生命維持に必須な機能であり、血液、循環、呼吸、消化、排泄、代謝、内分泌などがこれに含まれる。そしてこれらは、内臓機能ともいわれる。この内臓機能は、自律神経およびホルモンによる調節を受けるので、これらの調節系を含め、植物性機能として取り扱う。ここでは、自律神経およびホルモン調節を含めた、内臓機能の基本的知識に重点をおき、これらを理解させる。到達目標：人体機能学Ⅰで学習した基本的生理学用語を説明でき、生体に生じた基本的な生理学的現象を説明できる。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	生理学とは、ホメオスターシスの維持				高野 一夫 小原 一男
2	細胞の構造と働き 1（細胞構成成分の働き）				
3	細胞の構造と働き 2（体液組成とその働き）				
4	細胞の構造と働き 3（細胞内の物質代謝と細胞内外の物質移動）				
5	血液 1（血液成分とその機能 1）				
6	血液 2（血液成分とその機能 2）				
7	血液 3（血液凝固と血液型）				
8	血液 4（免疫）				
9	循環 1（心臓の構造とその機能）				
10	循環 2（心電図）				
11	循環 3（血管の構造とその機能）				
12	循環 4（特殊部位での循環とリンパ循環）				
13	循環 5（循環調節）				
14	呼吸 1（呼吸運動）				
15	呼吸 2（ガス交換）				
16	呼吸 3（呼吸調節）				
17	消化と吸収 1（口腔内・胃内における消化）				
18	消化と吸収 2（小腸・大腸内における消化吸収）				
19	消化と吸収 3（消化管ホルモンと排便）				
20	栄養と代謝 1（栄養素とエネルギー代謝）				
21	栄養と代謝 2（各種栄養素およびビタミン）				
22	体温 1（熱産生）				
23	体温 2（体温調節）				
24	排泄 1（尿の産生）				
25	排泄 2（腎における体液の調節）				
26	排泄 3（尿の排泄）				
27	内分泌 1（内分泌とは、視床下部・下垂体ホルモン）				
28	内分泌 2（甲状腺・上皮小体・膵臓ホルモン）				
29	内分泌 3（副腎髄質・副腎皮質・性ホルモン）				
30	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『生理学』 佐藤優子・佐藤昭夫 ほか著（医歯薬出版）				
参考書等	1. 『ガイトン臨床生理学』 アーサー・C.ガイトン：ジョン・E.ホール（医学書院）1999 2. 『オックスフォード・生理学 原書 2 版』 				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	人体機能学Ⅱ (動物機能・運動生理を含む)	開講時期	2 年次・前学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	小原 一男	授業形態	講義	単位数/時間数	2 単位/60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、生理学の動物性機能について学習する。動物性機能は、骨格筋や神経系に代表される機能であり、筋、神経細胞の共通の特徴である興奮性組織の理解から始め、筋肉特有の収縮機構や神経の興奮伝導の仕組みについて理解した上で、神経系の動作機序をシステムとして理解していく。具体的には、脊髄・延髄レベルでの反射機構から、感覚情報処理、運動調節系などの中樞神経機能の理解、個体として外部および内部環境の変化に対する反応系の理解などが含まれる。また、言語機能・脳波・精神活動などの高次脳機能の神経科学的な理解も試みる。				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	人体の機能学実習 (生理学実習)	開講時期	2 年次・後学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	高野 一夫 他	授業形態	実習 (共同)	単位数/時間数	2 単位/60時間
授業の目的 および 到達目標	人体の機能学実習では、植物機能、動物機能人体機能学で得た知識を基に、生命体としてのヒトおよび、そのモデルとしての動物の組織・器官を実習教材として、自ら観察実験する。そしてその過程で得られたデータを記録し、結果を考察し、レポートを作成する。具体的には小グループに分かれ、設定された実験テーマを担当教員の指導の下に観察実験を行う。ヒトを対象とするテーマでは、グループ内で相互に実験者と被験者を経験できるようにする。なお、実験実施前と後に討論し、実験についての理解を深める。また、実験を通して基本的な計測機器の操作法とデータの統計解析法についても学習する。テーマは、ヒトでは循環、呼吸、血液、代謝、誘発筋電図、感覚を、動物ではカエルを材料に、筋収縮、感覚、神経伝導・伝達、細胞膜電位のコンピュータシミュレーション等である。到達目標：本実習で得られた実験結果について生理学的かつ論理的に説明できる。 (高野 一夫・西村 桂一)				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	病理学	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	寺井 政憲	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	病理学では病気の概念を原因から出発して系統的に説明する。内容としては、病気の時に細胞組織に生じる変化、先天異常、生体反応と疾病の機序、生体防御機構、循環障害、腫瘍等について学習する。病気を個体（ヒト）から臓器、組織、細胞、遺伝子レベルという具合に理解させる。到達目標は病気の概念・定義を理論的にしっかり習得し、最終的に幅広い基礎医学の知識と理解力をつけることにおく。病理学の基本は西洋医学だが、東洋医学的な考え方と西洋医学的な考え方の両者を体得することで、将来的に幅広い考え方をもつ医療人になることを期待して、授業を行う。				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	病理学実習	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	寺井 政憲	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸師として理解しておく必要がある疾患を取り上げ、それらの病理学的変化について顕微鏡学的形態観察を通して学習する。自ら顕微鏡観察を行い、組織の特徴をスケッチし、各自でまとめていく。顕微鏡観察から得られる知見を通して、組織レベルのイベントから全身（臓器、個体）のイベントを病理学的な根拠に基づいた推察をして、お互いに議論が出来るようになることを到達目標にする。この実習の単位習得時点において、各自が病気を体系的に把握出来るようになっていることが期待される。				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	公衆衛生学	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	一幡 良利	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、身体的・精神的・社会的健康に関する歴史、意義、現状および社会の取り組みについての知識を習得する。特に、生活習慣病や環境問題、少子高齢化、新興感染症などの新しい問題の理解の一環として、疾病予防（主として健康の保持増進）、ライフスタイルと健康管理、衛生行政、環境の基礎的知識、産業保健、成人保健、老人保健、母子保健、感染症の歴史と課題・対策、疫学・統計学等について広く学習する。これらによって環境と健康の関わりや、こころと身体の健康などの面から、鍼灸師としての健康観を自身で組み立て述べられるよう学習を深めていく。				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	病原微生物学	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	一幡 良利	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、ヒトに感染する主要な病原微生物の基本的な知識（特徴、形態など）を学習し、加えてそれらの病原微生物によって発生する感染症の発症様式、症状、治療法、予防法について理解させる。地球上には、無数の病原微生物が存在するが、この内でヒトに病原性を示すのはそのごく一部のものである。とくに細菌感染症とウイルス感染症については、病原微生物の消毒法、滅菌法、感染予防の方法などについて学習する。				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	免疫学	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	寺井 政憲	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	免疫学はヒトが病原微生物を含めたあらゆる異物（抗原）、様々なストレスに対して身を守ることが出来るのかを学ぶ。本科目では、主としてヒトにおける免疫応答の基本および免疫担当細胞などの役割と機能について、その基本を習得することを到達目標にする。ヒトにおける異物認識の特異性、免疫寛容、免疫記憶等の基本概念を把握する。リンパ球、マクロファージ、好中球等の免疫応答に関与する細胞の分化や機能を学習し、生体防御反応、自己免疫疾患、アレルギー反応などについて基本的概念を理解させる。				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	生化学	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	西村 桂一	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、生命活動の基本について化学物質の変化とその流れの観点から捉え、それらの基本について学習する。特に生体分子の化学構造と性質を学び、それを踏まえて代謝について、酵素の機能、ATP の働き、糖質や脂質の分解過程等について学習する。				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	臨床検査学	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	林 洋	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、主要な臨床検査の目的と方法および判定法などについて学習する。主な内容は、尿・糞便検査、血球、凝固関連検査、血液生化学検査、血液血清検査、内分泌検査、感染症関連検査、および生理機能検査などである。このうち、特に鍼灸臨床を行う上で身につけておかなければならない主要な臨床検査の内容とその意義について理解させる。				

専門基礎科目（現代医学の基礎）

授業科目名	臨床薬理学	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	荒井 裕一朗	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	鍼灸による治療の範囲は内科、神経科、耳鼻科などと限られた範囲での疾患の治療ではなく、その範囲は大変広く、複合範囲のものも多い。西洋医学での主流である薬物治療を理解するために、治療薬の薬理学、すなわち、薬物の作用点、生体内運命、薬効に影響を与える因子などを学ぶとともに、特に鍼灸治療で扱う疾患に用いる治療薬の作用機序、薬理作用、副作用、適用方法、注意点などについても学ぶ。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	診察診断学	開講時期	2 年次・前学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	林 洋	授業形態	講義	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸臨床で取り扱う主要症候を取り上げ、これらの症候の病態生理、診察法、検査法を学習し、鑑別診断ができるように鑑別のポイント、プロセスを理解させる。特に鍼灸治療の適応と不適応（禁忌）が的確に判断できるようにする。また、いくつかの症候については、症例を呈示し、グループ検討を行うことで臨床能力を養う。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	内科学 I	開講時期	2 年次・前学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	田中 滋城	授業形態	講義	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、主要な呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、代謝疾患の概念、原因、症状、診断、治療について学習する。また、現代医学における種々の治療法とそれらの目的および内容などについても学習する。薬物療法、手術療法などの治療法の利点と欠点について理解させる。鍼灸臨床と関連の深い疾患については、とくに重点的に学習する。単に教科書に記載されている項目をたどるだけでなく、基礎から臨床までの関連領域を含む最新の知識を幅広く解説する。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	内科学Ⅱ	開講時期	2 年次／後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	田中 滋城	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、主要な血液造血器疾患、腎疾患、自己免疫疾患、アレルギー疾患、感染症の概念、原因、症状、診断、治療について学習する。また、現代医学における種々の治療法とそれらの目的および内容などについても学習する。薬物療法、手術療法などの治療法の利点と欠点について理解させる。鍼灸臨床と関連の深い疾患については、とくに重点的に学習する。単に教科書に記載されている項目をたどるだけではなく、基礎から臨床までの関連領域を含む最新の知識を幅広く解説する。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	内科学Ⅲ	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	田中 滋城	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、主要な中枢神経疾患、末梢神経疾患の概念、原因、症状、診断、治療について学習する。また、現代医学における種々の治療法とそれらの目的および内容などについても学習する。薬物療法、手術療法などの治療法の利点と欠点について理解させる。鍼灸臨床と関連の深い疾患については、とくに重点的に学習する。単に教科書に記載されている項目をたどるだけではなく、基礎から臨床までの関連領域を含む最新の知識を幅広く解説する。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	メンタルヘルスケア学	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	茶園 暁美	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、心の健康とは何か、メンタルヘルスの基礎知識を学習する。適度なストレスやプレッシャーは向上心の糧ともなるが、過度なストレスはうつやパニック障害、その他様々な心因性の身体疾患の原因となりうる。ストレス、ストレッサーとは何か、精神的ストレスの評価法とその対処法などについて学習する。特にストレスが身体に及ぼす影響や不調のサイン、対応上の留意点などについて考える。さらにストレスマネジメントの方法、リラクセーション法について理解し、それらを鍼灸臨床に活かせるようにする。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	整形外科学Ⅰ (スポーツ医学を含む)	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	柚木 脩	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、主要な運動器疾患（頭頸部、上肢部の骨関節疾患、神経・筋疾患など）の概念、原因、症状、診断、治療について理解し、運動器疾患における診断学を学ぶと共に治療学の概論を学習する。とくに鍼灸臨床と関連の疾患については重点的に学習する。その際、人体構造学（運動器系）と人体機能学の知識の再確認を行うとともにリハビリテーション医学との関連についても理解させる。さらに、スポーツ外傷・障害の基礎知識についても学ぶ。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	整形外科学Ⅱ	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	柚木 脩	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、主要な運動器疾患（体幹部、腰殿部、下肢部の骨関節疾患、神経・筋疾患など）の概念、原因、症状、診断、治療について理解し、運動器疾患における診断学を学ぶと共に治療学の概論を学習する。とくに鍼灸臨床と関連の疾患については重点的に学習する。その際、人体構造学（運動器系）と人体機能学の知識の再確認を行うとともにリハビリテーション医学との関連についても理解させる。				

専門基礎科目医（現代医学の臨床）

授業科目名	画像診断学	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	関 寛之	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸師が、医療従事者として、医師と適切な連携を図るには基本的な知識が必要であることから、基本的な画像の成り立ちと、鍼灸と関連の深い主要疾患の画像を、医師が如何に取り扱っているかについて学ぶ。特に、鍼灸臨床で取り扱うことの多い、整形外科疾患においては、病態把握を行い、適応と限界を判断する上でも重要な位置にあることから、脊椎・脊髄疾患、骨関節疾患を中心として、X 線写真、造影 X 線写真、血管造影、CT、MRI などの画像を医師がどのように判読しているかについて学ぶ。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	外科学	開講時期	3 年次・後学期	必修/選択/自由	選択
担当教員名	鈴木 秀一	授業形態	講義	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸師として必要と考えられる麻酔科学および外科学について総合的に学習する。麻酔科学においては、特にペインクリニックについて重点的に学習する。また、外科学としては術後の管理等の基本について学習し、鍼灸臨床との関連性については事例を通して学習する。講義は、前半は外科学、後半は麻酔科学とする。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	臨床医学各論 I	開講時期	3 年次・前学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	林 洋	授業形態	講義	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸師として必要な泌尿器科・産婦人科疾患を取り上げ、それらの原因、症状、診断、治療の概要、および性差医療の概要について学習する。特に鍼灸臨床と関連の深い疾患（前立腺肥大、前立腺炎、性機能障害、男女更年期障害、月経異常、男女不妊、乳汁分泌不全、妊娠悪阻など）については、詳細な内容まで学習する。また、老年医学に関しては、老化の概念、老化のメカニズム、疫学、老年者および老年者疾患の特徴について学ぶ。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	臨床医学各論Ⅱ	開講時期	3年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	田中 滋城	授業形態	講義	単位数／時間数	1単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸師として必要と思われる眼科疾患、耳鼻科疾患、皮膚科疾患を取り上げ、それらの原因、症状、診断、治療の概要について学習する。特に鍼灸臨床と関連の疾患については重点的に学習する。講義は、皮膚科疾患、耳鼻咽喉科、眼科疾患の順番で進める。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	リハビリテーション医学総論	開講時期	3年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	関 寛之	授業形態	講義	単位数／時間数	1単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	リハビリテーション医学の目的は、運動機能障害を治療し、社会復帰と日常生活における障害を軽減することであり、これらの中には、鍼灸治療の対象となりうるものが多く含まれる。本科目では、リハビリテーション医学の基礎となる運動学や動作解析などについて学習する。また、リハビリテーションの概念、歴史、位置づけならびに医学的リハビリテーションの対象、評価、治療法（理学療法、作業療法、装具療法など）について理解させる。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	リハビリテーション医学各論	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	関 寛之	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	リハビリテーション医学の目的は、運動機能障害を治療し、社会復帰と日常生活における障害を軽減することにある。これらの中には、鍼灸治療の対象となりうるものが多く含まれる。本科目では、医学的リハビリテーションの対象疾患である脳血管疾患、脊髄損傷、脳性小児麻痺、閉塞性肺疾患、心疾患などのリハビリテーションについて、評価法、治療法、訓練プログラムなどを重点的に学習し、鍼灸治療と連携がはかれるようにする。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	救急法	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	鈴木 秀一	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では救急を必要とする病態に遭遇した際に、適切な対処ができるようになることを目的とする。まず、意識障害レベルの判定、出血・呼吸・心拍・脈拍・血圧・瞳孔などバイタルサインの確認について学ぶ。次いで、止血法、創傷部位の感染予防処置、気道の確保（異物の除去、下顎挙上法）、人工呼吸法（マウス・トゥー・マウス）、心臓マッサージ、AED などについて、各自が実技・実習を十分に行い、手技を確実なものとしていく。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	看護の原形論	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	金井 一薫	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目においては、看護と福祉は歴史研究から同根の歴史を持つという視点に立ち、看護の本質を明らかにすることを目的とする。特に、わが国で様々に現象している看護や福祉の姿から、今後のあり方やその展望を思考するに際しての本質論的なものの見方を教示し、鍼灸学科で学ぶ学生たちにとって、職業として共有すべき思考の原点を探ることを目指す。さらに看護の歴史を紐解き、各々の職種が専門職として成立したその過程を、世界と日本とにおいて展望し、その専門性や独自性について様々な理論を紹介しながら追求する。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	物理療法学	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	古賀 義久	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸臨床に関係の深い疾患や病態を取り上げ、それらに使用する物理療法について、その目的、作用、使用法、注意事項などについて学習する。授業ではいくつかの物理療法について体験的に学習させる。用いる機器の特性、効果やリスク管理を学ぶと共に電気刺激、温熱刺激、機械刺激等の各種の刺激特性の生体に対する効果、適応および禁忌症を知り、物理療法を生体に安全かつ効果的に適用できるよう学習する。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	栄養学 (スポーツ栄養学を含む)	開講時期	3 年次・前学期	必修/選択/自由	選択
担当教員名	22年度以降就任予定	授業形態	講義	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	健康を保持・増進し、疾病を予防するためには、個人がそれぞれの生活習慣、とりわけ食生活を見直して生活の質を向上させていくことが必要である。そのためには食品、食物、栄養に関する正しい知識をもち生活に活かすことが不可欠である。栄養学の講義を通して健康維持と栄養、疾病と栄養との関連を学ぶ。特に、それらに関連する基礎的事項として摂食、消化吸収、種々の栄養素の栄養的特徴と体内での働きについて学ぶ。さらに、アスリートの栄養摂取・栄養教育などについても学習する。				

専門基礎科目（現代医学の臨床）

授業科目名	診療所実習	開講時期	3 年次・通年	必修/選択/自由	必修
担当教員名	田中 滋城 他	授業形態	実習 (共同)	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、診療所を見学実習する。現代医学の医療現場の見学を通じて、医療人としての鍼灸師の役割について理解する。特に、鍼灸臨床で扱うことの多い整形外科疾患については、整形外科の医師の問診、診察から診断までの流れや画像診断などを実習・研修し、鍼灸治療の目的を理解する。 (田中 滋城・柚木 脩・鈴木 秀一・林 洋)				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	東洋医学概論	開講時期	1 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	東郷 俊宏	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、現在我が国で実践されている東洋医学の基本的な概念である陰陽説、五行説、経絡説を始め、東洋医学（鍼灸・漢方）で用いられる診断用語、および病態把握の方法論などについて基本的な事項を習得する。東洋医学の理論は、二千年近く前に中国で編纂された『黄帝内経』、『傷寒論』等の医書に基づいているが、これらの医学書は今日の医療で求められている「全人的な身体観」をその思想的基盤としており、これらの概念の学習を通じて、現代の医療で必要とされるホリスティックな医学観についても理解を深めていく。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	オリエンテーション	天人相関論・陰陽論（古代中国の宇宙観） 五行論 総論 五臓（肝・心・脾） 五臓（肺・腎） 六腑（胆・小腸・胃） 六腑（大腸・膀胱・三焦）・奇恒の腑 気 血・津液 臓腑と経脈との関係 経穴について 四診 1（望診・聞診） 四診 2（問診・切診） 定期試験および授業のまとめ 証とは何か？ 三因（内因・外因・不内外因）について一総論 外因 内因・不内外因 八綱弁証 1 八綱弁証 2 気血津液弁証 1 気血津液弁証 2 臓腑弁証 1 臓腑弁証 2 臓腑弁証 3 臓腑弁証 4 臓腑弁証 5 経脈の病証 定期試験および授業のまとめ			東郷 俊宏
2	東洋医学的身体観 1				
3	東洋医学的身体観 2				
4	蔵象学説 1				
5	蔵象学説 2				
6	蔵象学説 3				
7	蔵象学説 4				
8	蔵象学説 5				
9	気血津液 1				
10	気血津液 2				
11	臓腑経絡 1				
12	臓腑経絡 2				
13	診断論 1				
14	診断論 2				
15	定期試験				
16	病因論 1				
17	病因論 2				
18	病因論 3				
19	病因論 4				
20	病因論 5				
21	病因論 6				
22	病因論 7				
23	病因論 8				
24	病因論 9				
25	病因論10				
26	病因論11				
27	病因論12				
28	病因論13				
29	病因論14				
30	定期試験				
教科書	『東洋医学概論』 東洋療法学校協会編（医道の日本社）				
参考書等	講義において随時指導する				
成績評価基準	小テスト（随時実施）、定期試験（前学期・後学期）、出席状況を総合して判定する				
受講上の 注意事項	教科書に指定した『東洋医学概論』（東洋療法学校協会編、医道の日本社）は初版から長い時間が経過しているため、学術上は不適切な部分も含まれています。講義ではその点に留意しながら聴講すること。				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名		経絡経穴学Ⅰ	開講時期	1 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名		矢 瀧 裕 義	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標		本科目では、主として経絡経穴学の基本的な概要、取穴法で基準となる寸法（骨度法、同身寸法）、要穴について学習し、奇経八脈の任脈、督脈と十二正経の経穴について学習する。特に十二正経の経穴については、要穴、経穴名の字義・取穴部位・各経穴の作用等について学習する。経穴名と取穴部位を関連させることはもとより、各経穴の部位については、その経穴の目印となる体表から確認することのできる筋、腱、骨、あるいは各経穴の近くを走行する動脈、静脈、神経などもあわせて学習し、体表解剖学、局所解剖学と関連して各経穴を位置づけられるように学習を進める。さらに、鍼灸臨床で扱う疾患と経穴との関連も学習させる。				
回	テ ー マ		内 容			担当教員名
1	臓腑経絡論		経穴を学ぶ上で最低限必要な臓腑、陰陽、五行論の概説			矢 瀧 裕 義
2	意義と流注		経絡の走行を学ぶ			
3	定位と尺度		経穴を取穴するにあたり基準となる長さを学ぶ			
4	特定穴		要穴と呼ばれる治療に重要な意味をもつと考えられている穴について学ぶ			
5	督脈		各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
6	督脈		各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
7	任脈		各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
8	任脈		各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
9	手太陰肺経		各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
10	手陽明大腸経		各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
11	手陽明大腸経		各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
12	足陽明胃経		各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
13	足陽明胃経		各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
14	足陽明胃経		各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
15	定期試験		定期試験および授業のまとめ			
16	足陽明胃経		各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
17	足太陰脾経		各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
18	足太陰脾経		各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
19	手少陰心経		各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
20	手太陽小腸経		各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
21	手太陽小腸経		各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
22	足太陽膀胱経		各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
23	足太陽膀胱経		各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
24	足太陽膀胱経		各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
25	足太陽膀胱経		各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
26	足太陽膀胱経		各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
27	足太陽膀胱経		各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
28	足少陰腎経		各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
29	足少陰腎経		各穴の解剖学的な特徴を学ぶ			
30	定期試験		定期試験および授業のまとめ			
教科書		『経穴経絡概論』 東洋療法学校協会編（医道の日本社）				
参考書等						
成績評価基準		講義期間中におこなう小テスト、ならびに期末試験の成績をもって判定する。				
受講上の 注意事項						

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	経絡経穴学Ⅱ	開講時期	2年次・前学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	矢島 裕義	授業形態	講義	単位数/時間数	1単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、正経以外の経脈として十二経別・奇経八脈（任脈、督脈を除く）・絡脈・外連について学習する。絡脈についてはさらに細分化し、十五絡脈、孫絡などを理解する。外連についても細分化された十二経筋、十二皮部についての流注と走行、十二正経との関連について学ぶ。また、鍼灸臨床で扱う疾患と各経穴との関連性を知るとともに、経絡経穴学分野に関する研究の概要についても理解させ、経穴の意義を知ることのみならず、現代医学との関連性についても理解を深める。				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	取穴学実習Ⅰ	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	矢寫 裕義 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、経絡経穴学Ⅰで学んだことを中心に実習する。ここでは骨度法の実習を踏まえ、各経脈に所属する経穴を取穴すると同時に、経穴名と取穴部位を関連させて学ぶ。特に取穴学実習で最も重要である奇経八脈の任脈、督脈および経絡経穴学Ⅰで学んだ一部の十二正経に所属する経穴の取穴では、骨度法や同身寸法を基準として取穴を行うため、これら骨度法や同身寸法を体表部から確認し、今後の取穴学実習の基礎を構築する。これらを踏まえた上で各経穴を取穴し、同時に体表解剖・局所解剖とを関連づけ、刺鍼部位の意味を理解する。				
回	テ ー マ	内 容			担当教員名
1	督脈の取穴 (1)	督脈の流注を理解し、筋・腱・骨等の督脈の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。			矢寫 裕義 藤本 英樹
2	督脈の取穴 (2)	督脈の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト (1) を実施する。			
3	任脈の取穴 (1)	任脈の流注を理解し、筋・腱・骨等の任脈の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。			
4	任脈の取穴 (2)	任脈の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト (2) を実施する。			
5	手太陰肺経の取穴 (1)	手太陰肺経の流注を理解し、筋・腱・骨等の督脈の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。			
6	手太陰肺経の取穴 (2)	手太陰肺経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト (3) を実施する。			
7	手陽明大腸経の取穴 (1)	手陽明大腸経の流注を理解し、筋・腱・骨等の取穴を行う上での基準点を体表から確認し、取穴を行う。			
8	手陽明大腸経の取穴 (2)	手陽明大腸経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト (4) を実施する。			
9	足陽明胃経の取穴 (1)	足陽明胃経の流注を理解し、筋・腱・骨等の取穴を行う上での基準点を体表から確認し、取穴を行う。			
10	足陽明胃経の取穴 (2)	手陽明胃経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト (5) を実施する。			
11	足陽明胃経の取穴 (3)	足陽明胃経の流注を理解し、筋・腱・骨等の取穴を行う上での基準点を体表から確認し、取穴を行う。			
12	足陽明胃経の取穴 (4)	手陽明胃経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト (6) を実施する。			
13	足太陰脾経 (1)	足太陰脾経の流注を理解し、筋・腱・骨等の取穴を行う上での基準点を体表から確認し、取穴を行う。			
14	足太陰脾経 (2)	足太陰脾経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト (7) を実施する。			
15	定期試験	定期試験および授業のまとめ			
教科書	1)『経絡経穴概論』 東洋療法学校協会編（医道の日本社）2009 2) 配布プリント				
参考書等	1)『鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス』 北村清一郎：大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座鍼灸解剖（南江堂）1998 2)『針灸学：日中共同編集、経穴篇 第2版』 天津中医薬大学：後藤学園（東洋学術出版社）2006 3)『運動療法のための機能解剖学的触診技術、上肢』 林典雄：青木隆明（メジカルビュー社）2005 4)『運動療法のための機能解剖学的触診技術、下肢・体幹』 林典雄：青木隆明（メジカルビュー社）2006				
成績評価基準	1) 授業回数の5分の4以上出席したものを対象に評価を行う。 2) 評価は、定期テストおよび小テスト、出席日数等を総合して行う。				
受講上の 注意事項	実習にあたり、T シャツ、短パンを準備してください。				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	取穴学実習Ⅱ	開講時期	2年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	矢瀧 裕義 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	2単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、経絡経穴学ⅠおよびⅡで学んだことを中心に実習する。各経穴の部位については、取穴学実習Ⅰと同様に、体表から確認することのできる筋、腱、骨などのランドマークも併せて学習し、体表解剖・局所解剖との関連性を理解する。十二正経の各経穴の取穴後は、経絡経穴学Ⅱにおいて学習したことを中心に実習する。特に各奇経の走行や流注を体表部から確認した後、十二正経の各経穴の取穴同様に奇経を取穴し、体表解剖・局所解剖との関連性に重点を置いて、刺鍼部位の意味を理解する。その後は、経筋の走行や流注も奇経や正経と同様に体表解剖・局所解剖とを関連づけ、経絡の意味を理解する。 (矢瀧 裕義・藤本 英樹)				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	刺鍼・施灸手技総論	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高倉 伸有	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、刺鍼・施灸手技および鍼灸用具に関する基礎的知識を学習する。刺鍼手技の基礎をなす刺鍼の方式（切皮の様式）、刺鍼の基本操作（前後の柔捏、押し手や刺し手の形成法等）、基本手技（17手技）を学習するとともに、鍼の基本構造（各部の名称、鍼尖の形状、種類、長さや太さ、材質等）についても理解する。施灸手技についても同様に、施灸手技の基礎をなす灸術の種類（有痕灸、無痕灸）や施灸方法（艾炷の形成方法から点火まで）を学習するとともに、材料である蓬の特徴、モグサの製法、モグサの種類、良質もしくは悪質モグサの鑑別についても理解する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	鍼灸施術の定義と意義について				高倉 伸有
2	鍼の構造と鍼管について				
3	古代九鍼について				
4	刺鍼の方式と術式について				
5	鍼施術の手技について				
6	特殊鍼法について				
7	灸の材料、もぐさの品質、灸術の種類について				
8	鍼灸施術の刺激量と個体の感受性について				
9	鍼灸療法の適応症と禁忌部位について				
10	鍼灸施術に際しての一般的注意事項と鍼灸施術のよる過誤と副作用について (1)				
11	鍼灸施術に際しての一般的注意事項と鍼灸施術のよる過誤と副作用について (2)				
12	鍼灸施術に際しての一般的注意事項と鍼灸施術のよる過誤と副作用について (3)				
13	感染症対策について				
14	総復習と重要ポイントの再確認				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『はりきゅう理論』 東洋療法学校協会編（医道の日本社）				
参考書等	『図解鍼灸臨床手技マニュアル』 尾崎昭弘（医歯薬出版）2003				
成績評価基準	筆記試験により行う。対象は必要出席回数を満たした者とする。				
受講上の 注意事項					

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	鍼灸安全学	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	木村 友昭	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸臨床における安全管理の概要と具体的方法について理解することを目的として、 (1) 鍼灸臨床現場での感染防止対策としての感染症の基礎知識、手指・施術野の消毒法、クリーンニードルテクニック、および器具類の衛生管理の実際 (2) 低周波鍼通電装置等の鍼灸臨床に関連する管理医療機器の基礎知識と安全管理の実際 (3) 鍼灸治療の禁忌例等の過誤防止のための基礎知識 (4) 鍼灸臨床現場において生じ得る有害事象の具体例と、予防・対応策 (5) リスクマネジメントの基本的な考え方とインシデントレポート等の実践方法を中心として、近年国内外で整備されつつある当該分野におけるガイドラインをふまえて学習する。				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	基礎刺鍼手技実習	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	菅原 正秋	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼施術における刺鍼手技の基本を習得し、あわせて衛生管理についても学ぶ。刺鍼手技の基本の初期の段階では、管鍼法による刺鍼の手順と方法（前後の揉捻、押手や刺し手の形成法など）を習得する。中期段階においては、刺鍼練習器を用いて直刺、斜刺、横刺などの基本的な刺鍼方法を習得する。後期段階においては、消毒法、クリーンニードルテクニック（衛生的刺鍼法）などの衛生管理の方法を理解させ、自らの身体や学生同士による刺鍼を行い、基本的な刺鍼方法を習得する。				
回	テ　　ー　　マ　　および　　内　　容				担当教員名
1	鍼施術に用いる用具の紹介				菅原 正秋
2	刺鍼練習機を用いた刺鍼 1				
3	刺鍼練習機を用いた刺鍼 2				
4	刺鍼練習機を用いた刺鍼 3				
5	施術野の消毒と手指衛生管理の方法				
6	自分の下腿部への刺鍼 1				
7	自分の下腿部への刺鍼 2				
8	自分の下腿部への刺鍼 3				
9	他人の下腿部への刺鍼 1				
10	他人の前腕部への刺鍼 1				
11	他人の前腕部への刺鍼 2				
12	他人の腰部への刺鍼				
13	まとめ・復習				
14	定期試験および授業のまとめ				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	適宜プリントを配布する。				
参考書等					
成績評価基準	試験および出席状況により評価する。				
受講上の 注意事項	初回の授業で指導する。				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	応用刺鍼手技実習	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	菅原 正秋	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、身体各部（頭部・頸部・顔面部・上肢・背部・腹部・下肢）への刺鍼について実習する。また、刺鍼中の手技として17種類の手技についても実習する。加えて、身体各部に存在する経穴近傍にある血管、神経、内臓などの重要臓器に損傷を与え、医療過誤を引き起こすことがないように刺鍼上の諸注意を理解し、過誤を未然に防ぐ鍼施術のスキルを身につける。なお、身体各部への刺鍼では取穴学実習と関連づけ、経穴の解剖学的位置を理解し、その部位に刺鍼するようなかたちで実習を行う。				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	特殊鍼療法実習	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	菅原 正秋	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、低周波鍼通電療法（SSP、TENS 含む）、小児鍼、皮内鍼、円皮鍼、灸頭鍼、良導絡などの特殊鍼法について学習する。とくに临床上、主要な治療法である低周波鍼通電療法についての実習では、その理論と実際（筋パルス、神経パルスなど）について学び、鍼鎮痛を目的とした方法や血行動態（自律神経系）に影響を及ぼす方法などを理解する。これらの方法論を理解した上で、臨床応用が可能となるような技術（刺鍼技術や低周波治療器の取り扱い方法）を実習により習得する。				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	触察解剖と刺鍼手技	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	徳竹 忠司	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸臨床において必要となる体表解剖学・局所解剖学の知識を確認しつつ、身体各部の触察について学習する。とくに臨床上重要な部位を選定し、触察することで解剖学的構造（骨、筋・神経・血管など）を理解し、触察技術を習得する。その上で、特定の部位（筋や神経の走行上）への確に刺鍼できるようにする。その際、特に適応疾患と関連させ、その重要性を理解する。また、神経・血管の近傍への刺鍼では、その安全性について配慮できるように理解を深める。				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	基礎施灸手技実習	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	矢 瀧 裕 義	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、施灸における施灸手技の基本を習得し、あわせて消毒の実際も学ぶ。施灸手技の基本の初期段階では、もぐさの捻り方、艾炷の形成の仕方、点火の仕方等を習得する。中期段階においては、もぐさ燃焼温度測定機器を用いて形成した艾炷の温度を測定し、一定の大きさおよび一定の硬度で艾炷を形成させる事を習得する。後期段階においては、消毒方法を学習し、自らの体や学生同士による施灸手技の基本を実習し、施灸手技の基本を習得する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	施灸について				矢 瀧 裕 義
2	もぐさの捻り方、艾炷の形成の仕方				
3	もぐさの捻り方、艾炷の形成の仕方				
4	もぐさの捻り方、艾炷の形成の仕方				
5	点火の仕方				
6	点火の仕方				
7	灸温度センサーを用いての練習				
8	灸温度センサーを用いての練習				
9	灸温度センサーを用いての練習				
10	灸温度センサーを用いての練習				
11	灸温度センサーを用いての練習				
12	灸温度センサーを用いての練習				
13	灸温度センサーを用いての練習				
14	灸温度センサーを用いての練習				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『はりきゅう実技 基礎編』 東洋療法学校協会編（医道の日本社）				
参考書等					
成績評価基準	授業回数の 5 分の 4 以上出席した者に対して評価を行う。評価は施灸練習の取り組み方と実技試験を踏まえて行う。				
受講上の 注意事項					

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	臨床施灸手技実習	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	矢 瀧 裕 義	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、身体各部（頭部頸部・上肢部・下肢部・背部・腹部・腰殿部）への施灸について実習する。身体各部への施灸では取穴学実習と関連づける。また身体各部に存在する経穴近傍にある血管、神経幹、内臓器等の重要臓器に損傷を与え、医療過誤を引き起こす事がないよう施灸上の諸注意を学習するとともに、過誤を未然に防ぐ灸技術のスキル（火傷を起こしにくい透熱灸の施灸技術など）を習得する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	連続施灸の練習				矢 瀧 裕 義
2	連続施灸の練習				
3	連続施灸の練習				
4	知熱灸の練習				
5	知熱灸の練習				
6	知熱灸の練習				
7	身体各部位への施灸練習				
8	身体各部位への施灸練習				
9	身体各部位への施灸練習				
10	身体各部位への施灸練習				
11	身体各部位への施灸練習				
12	身体各部位への施灸練習				
13	身体各部位への施灸練習				
14	身体各部位への施灸練習				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『はりきゅう実技 基礎編』 東洋療法学校協会編（医道の日本社）				
参考書等					
成績評価基準	授業回数の 5 分の 4 以上出席した者に対して評価を行う。評価は施灸練習の取り組み方と実技試験を踏まえて行う。				
受講上の 注意事項					

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	応用施灸手技実習	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	古賀 義久	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目は、焦灼灸、知熱灸、隔物灸（しょうが灸、にんにく灸、塩灸）、温灸（棒灸、間接灸）等の技術および、家伝の灸等の特殊な灸法について実習する。これらは家庭でもできる灸法であることから、一般市民に対する指導法についても習得する。				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	鍼灸施術と運動法	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	藤井 亮輔	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸臨床において、臨床効果を高めるために、鍼灸治療の補助的な運動法や患者に対する指導法として用いる運動法の意義、運動法を行う際の適応と禁忌、運動法の実践について学習する。内容は、可動域訓練、ストレッチ、筋力増強運動などで、整形外科疾患、神経性疾患、慢性疼痛性疾患などから主要な疾患や症状を取り上げ、実習する。特に、腰痛、肩こり、五十肩、変形性膝関節症など鍼灸臨床で遭遇しやすい疾患や症状について、鍼灸臨床に応用できるようにするとともに、患者に説明し、指導できるようにする。				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	鍼灸治効理論	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高倉 伸有	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、まず鍼灸刺激による生体の反応についてこれまでに国内外で報告された研究成果を理解できることを目標に学習をすすめる。鍼灸刺激が各種の生体機能に及ぼす影響（鎮痛効果・循環改善効果・筋緊張緩和効果・生体防御効果等）を示した報告は数多く存在する。これらの内容を理解するために必要な神経生理学を中心とした各種基礎知識を学習する。その上で鍼灸治療の作用機序について、それまでに学んだ知識をふまえて理解する。更に、今後の鍼灸治療に必要な基礎的な研究についても理解を深める。				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	鍼灸治効理論演習	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高倉 伸有 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸刺激が生体機能に影響を及ぼすことを示した報告をテーマとして取り上げ、学生はそれらの要点をまとめて発表することを通して鍼灸の治効機序を理解する。テーマの選定やまとめに必要な各種文献の検索方法も併せて学び、学生が自主性をもって学びたい報告を検索し、要点の発表を実施できるようにする。発表形式はグループ発表とし、発表後は、学生同士の討論を行う。各グループで数編の報告をした後、それらを総合し、各グループで検討した鍼灸の治効機序を発表し、個別の報告発表と同様に学生同士の討論を行う。 （高倉 伸有・木村 友昭）				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	鍼灸治効理論基礎実習	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高倉 伸有 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸治効理論で取り上げた報告から実習に適切な課題を精選し、これらについて小グループによる追試的な実験実習を行う。このことを通して、科学における基本概念のひとつである再現性についてを理解する。また同様の実験をすることにより、研究目的に応じた各種の実験手法の適応と限界についてを学ぶ。このように実際に鍼灸刺激の生体に及ぼす効果を実験により体験させ、鍼灸治療の効果に対する実証的な態度を習得する。 (高倉 伸有・木村 友昭)				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	最新鍼灸治効理論演習	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	高倉 伸有 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、最新の鍼灸に関する臨床および基礎研究論文を教材として呈示し、現在、どのような研究が行われているのか、またその研究に至るまでの経緯等を学ぶ。鍼灸治効理論演習同様に小グループを編成して呈示された研究論文の経緯や要点を発表し、その後は、学生同士の討論を行う。学生同士の討論を通してデスカッションの能力を習得する。 (高倉 伸有・木村 友昭)				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	中医診断学	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	戴 昭宇	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では中医診断学の基本を学習する。特に基本的な四診法（望診・聞診・問診・切診）について学習するとともに、これらの診察情報の判定と臨床的意義について学習する。鍼灸医学では、切診情報を重視することから、その意義について十分理解できるように配慮する。加えて、八綱弁証・気血津液弁証・臓腑弁証・経絡弁証・六経弁証・衛気営血弁証について学習する。以上のように診断の基本的技法を学び、ついで弁証法の学習を通じて、診察から治療法の決定に至るまでの手順と発想法を習得する。				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	中医診断学実習	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	戴 昭宇	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、中医診断学講義の内容を踏まえ、特に四診法（望診・聞診・問診・切診）について、ビデオや写真などの画像資料により、その手順やそれぞれの診断所見の意味などについてさらに理解を深める。そのうえで小グループでの反復実習を通じて上記の診断技術を習得する。とりわけ、鍼灸臨床の場で有用と思われる眼鍼・耳鍼・手鍼の治療に関連した中医眼診法・手診法・小児指紋診法・耳穴診断法などの内容についても実習する。				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	中医診断学演習	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	戴 昭宇	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、中医診断学講義と実習の内容を踏まえ、四診による診断情報の収集から、弁証による治療方針の決定までのプロセスを習得し、臨床に対応できる診断能力を養うことを目的とする。まず中医学的なカルテの概要、構成を理解し、その上で典型的な症例を呈示し、これらに対する弁証診断の演習を通じて、四診から弁証による治療方針決定までのプロセスを自分自身でできるようになるまで学習する。さらに、代表的な症例を呈示して、その症例についてどのような病証の診断が立てられるか、弁証のプロセスを理解するとともに弁証の基本的な能力を習得する。				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	鍼灸古典診断学	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	松本 弘巳	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、日本の伝統的な古典に基づく鍼灸治療について学習する。古典医学である素問・難経について現代の鍼灸臨床の視点から解説し、理解を深める。経絡経穴経筋、疾病観、脈診、望診について学習すると共に、特に、日本の鍼灸治療における代表的な診断法である腹証について、基礎から臨床までの診察治療体系について実習も交えて学習する。更に、古典に見られる刺鍼技術についても実習を交えて学習する。				

専門科目（鍼灸医学の基礎）

授業科目名	東洋医学古典講読	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	東郷 俊宏	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、東洋医学の基本的な古典文献資料の読解を通じ、二千年以上の歴史をもつ東洋医学の基礎理論、診断体系および疾病観、身体観について理解を深めることを目的とする。具体的には、中国の古典文献を読むための基礎的な知識（辞書・各種工具書の使用法、古典漢語の文法体系）を習得した後に、現在の東洋医学の成り立ちを知る上で重要な文献（『黄帝内経』、『難経』、『傷寒論』、『千金方』、『十四経發揮』）を精選し、原文（白文）で読むことができるように指導を行う。また東洋医学の成立には、中国古代の思想文化が大きく関与していることから、これらの事項についても、関連する文献の読解を行い、東洋医学の理解を深める。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	内科臨床鍼灸学Ⅰ	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	野口 栄太郎	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、内科学で学習した内容を踏まえて、鍼灸臨床と関連の深い疾患を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について学習するとともに、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により習得する。その際、現代医学の視点からみた病態と適応、限界、禁忌の判断ができるように学習を進める。更に、診察の仕方と診察によって得られた所見に基づいた治療法について学習する。また、鍼灸治療の効果の評価についても学ぶ。ここでは主に呼吸器・循環器系疾患、消化器系疾患について学習する。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	内科臨床鍼灸学Ⅱ	開講時期	3年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	柏谷 大智	授業形態	実習	単位数／時間数	1単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、内科学で学習した内容を踏まえて、鍼灸臨床と関連の深い疾患を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について学習するとともに、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により習得する。その際、現代医学の視点からみた病態と適応、限界、禁忌の判断ができるように学習を進める。更に、診察の仕方と診察によって得られた所見に基づいた治療法について学習する。また、鍼灸治療の効果の評価についても学ぶ。ここでは主に呼吸器・循環器系疾患、消化器系疾患について学習する。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	神経内科臨床鍼灸学	開講時期	3年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	山口 智	授業形態	実習	単位数／時間数	1単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸臨床と関連の深い、神経内科疾患を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について学習するとともに、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により習得する。その際、現代医学の視点からみた病態と適応、限界、禁忌の判断ができるように学習する。更に、診察の仕方と診察によって得られた所見に基づいた治療法について学習する。また、鍼灸治療の効果の評価についても学ぶ。ここでは主に脳血管障害（脳梗塞、脳出血など）、神経変性疾患（パーキンソン病など）、機能的疾患（頭痛、神経痛、顔面神経麻痺など）について学習する。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	整形外科臨床鍼灸学Ⅰ	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	坂井 友実 他	授業形態	実習 (オムニバス)	単位数／時間数	2 単位／60 時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では整形外科で学習した疾患や症状についての現代医学的な概念、診察・検査、診断、治療方法等の内容をふまえ、特に鍼灸臨床と関連の深い疾患等について鍼灸治療の立場からのアプローチの実際について学ぶ。東洋医学的病証とともに、鍼灸臨床で重要となる医療面接や身体診察、病態把握と類似疾患の鑑別、適応・不適応の判断、治療方針および治療法、評価法等を習得することを目標とする。鍼灸治療の方法についてはシミュレーション実習を行う。本科目は主として頸肩腕痛と腰下肢痛についてオムニバス方式で行う。 （坂井 友実／15回）頸肩腕痛を呈する頸部の整形外科疾患を取り上げ、学習する。主な疾患は頸椎症、頸椎椎間板ヘルニア、外傷性頸部症候群、胸郭出口症候群などである。 （山口 智／15回）腰下肢痛を呈する腰部の整形外科疾患を取り上げ、学習する。主な疾患は腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、いわゆる腰痛症、骨粗鬆症などである。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	整形外科臨床鍼灸学Ⅱ	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	水出 靖 他	授業形態	実習 (オムニバス)	単位数／時間数	2 単位／60 時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では整形外科で学習した疾患や症状についての現代医学的な概念、診察・検査、診断、治療方法等の内容をふまえ、特に鍼灸臨床と関連の深い疾患等について鍼灸治療の立場からのアプローチの実際について学ぶ。東洋医学的病証とともに、鍼灸臨床で重要となる医療面接や身体診察、病態把握と類似疾患の鑑別、適応・不適応の判断、治療方針および治療法、評価法等を習得することを目標とする。鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習を行う。本科目は四肢の関節疾患についてオムニバス方式で行う。 （水出 靖／15回）肩関節、肘関節、手関節の疾患を取り上げ学習する。主な疾患は肩関節周囲炎、肘部管症候群、テニス肘、手根管症候群などである。 （野口 栄太郎／15回）股関節、膝関節、足関節の疾患を取り上げ学習する。主な疾患は変形性股関節、変形性膝関節、足根管症候群などである。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	理学的検査法実習Ⅰ	開講時期	2年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	坂井 友実	授業形態	実習	単位数／時間数	1単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、理学的検査法について、その目的・意義・方法・判定法などを学習する。医療は患者の病態に応じて方針をたて治療を行うことが必要となるが、病態を把握するための手段が制約を受ける鍼灸臨床においては、徒手による検査・評価が必要不可欠である。各検査項目について、その解釈の歴史的な経緯、解剖学や運動学をふまえた検査のメカニズムや信頼性・妥当性を理解するとともに、実習を通してそれらの検査方法の実際を学習することにより、正確で安全な検査を実行できることを目標とする。主として頭頸部、上肢部の理学的検査法を取り扱う。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	理学的検査法実習Ⅱ	開講時期	2年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	水出 靖	授業形態	実習	単位数／時間数	1単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、理学的検査法について、その目的・意義・方法・判定法などを学習する。医療は患者の病態に応じて方針をたて治療を行うことが必要となるが、病態を把握するための手段が制約を受ける鍼灸臨床においては、徒手による検査・評価が必要不可欠である。各検査項目について、その解釈の歴史的な経緯、解剖学や運動学をふまえた検査のメカニズムや信頼性・妥当性を理解するとともに、実習を通してそれらの検査方法の実際を学習することにより、正確で安全な検査を実行できることを目標とする。主として体幹部、腰殿部、下肢部の理学的検査法を取り扱う。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	臨床効果の評価法	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	水出 靖	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、鍼灸臨床で遭遇することの多い疾患や症状、ADL（Activity of daily living；日常生活動作）・QOL（Quality of life；生活の質）に関する評価尺度や治療効果判定基準について、その目的、種類・内容・使用法・判定方法を学習し、これらを用いた評価を行うことのできる能力を習得する。適切な臨床判断をするためには、臨床効果の正確な評価が不可欠である。授業では、提示された事例を実際に評価する演習を行うことで、より実践的な能力を身につける。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	眼科・耳鼻科・歯科臨床鍼灸学	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	安野 富美子 他	授業形態	実習 (オムニバス)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、眼科・耳鼻科・歯科で学習した内容を踏まえて、鍼灸臨床と関連の深い疾患を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について学習するとともに、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により習得する。その際、現代医学の視点からみた病態と適応、限界、禁忌の判断ができるように理解を深める。また、診察の仕方と診察によって得られた所見に基づく治療法について学習する。更に、鍼灸治療の効果の評価についても学ぶ。本科目はオムニバス方式で行う。 （安野 富美子／3 回）眼科領域の鍼灸治療。眼精疲労、仮性近視、緑内障など。 （粕谷 大智／6 回）耳鼻科領域の鍼灸治療。耳鳴、難聴、アレルギー性鼻炎など。 （岡村 興一／6 回）歯科領域の鍼灸治療。歯痛、顎関節症、歯肉炎など。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	泌尿器・皮膚科臨床鍼灸学	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	小俣 浩	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、泌尿器科・皮膚科で学習した内容を踏まえて、鍼灸臨床と関連の深い疾患を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について学習するとともに、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により習得する。その際、現代医学の視点からみた病態と適応、限界、禁忌の判断ができるように学習する。更に、診察の仕方と診察によって得られた所見に基づいた治療法について学習する。また、鍼灸治療の効果の評価についても学ぶ。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	レディース臨床鍼灸学	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	安野 富美子 他	授業形態	実習 (オムニバス)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、東西医学からみた女性の身体、女性のライフサイクルに応じた鍼灸治療、鍼灸基礎研究の現状について学習する。特に、鍼灸臨床と関連の深い特定の女性科疾患や愁訴を取り上げ、それらに関係する現代医学的な病態把握および東洋医学的な病証について学習するとともに鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により習得する。その際、適応と禁忌の判断ができるように学習する。また、鍼灸治療の効果の評価と研究の現状についても学ぶ。 (安野 富美子／8 回) 婦人科領域の鍼灸治療：月経困難症、月経不順、不妊、更年期障害、および冷え症などの不定愁訴。 (辻内 敬子／7 回) 産科領域の鍼灸治療：逆子、乳汁分泌不全、つわり、安産、和痛分娩など。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	疼痛管理臨床鍼灸学	開講時期	4 年次・後学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	菅原 正秋	授業形態	実習	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、疼痛管理に必要な知識として痛みの概念および評価と麻酔科・ペインクリニック領域で取り扱う疾患（Complex regional pain syndrome、帯状疱疹および帯状疱疹後神経痛、癌性疼痛など）の概念、原因、症状、現代医学的治療法（神経ブロック療法など）について学習する。実習では、鍼灸で取り扱うことの多い難治性の慢性疼痛疾患や病態に対する評価法と鍼灸治療法についてシミュレーション実習により習得する。その際、適応と禁忌の判断ができるように学習する。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	スポーツ鍼灸学Ⅰ	開講時期	3 年次・後学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	宮本 俊和 他	授業形態	実習 (共同)	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、スポーツ領域における鍼灸治療の実践について、スポーツ傷害の概念、各種疾患や症状についての原因、症状、診察方法および鍼灸治療の実際を中心に学習する。スポーツ鍼灸学Ⅰでは、代表的なスポーツ傷害として、特に日常的によく見られるスポーツ傷害を部位別に取りあげ、それらの鍼灸治療についてシミュレーション実習により診察・治療のポイントを習得する。ここでは、上肢、体幹部の代表的なスポーツ傷害（テニス肘、野球肩等）について学習する。 （宮本 俊和・藤本 英樹）				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	スポーツ鍼灸学Ⅱ	開講時期	4年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	宮本 俊和 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	1単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、スポーツ領域における鍼灸治療の実際について、スポーツ鍼灸学Ⅰの内容に続いて、下肢の代表的なスポーツ傷害（シンスプリント、ジャンパー膝等）について取り上げ、それらの鍼灸治療についてシミュレーション実習により診察・治療のポイントを習得する。鍼灸の目的は、発生した症状や病態の治療以外に、傷害を予防するためのコンディショニング、競技能力の向上など様々である。これらに加え、基本的なスポーツ傷害におけるテーピング法についても学習する。 (宮本 俊和・藤本 英樹)				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	老年臨床鍼灸学	開講時期	4年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	安野 富美子	授業形態	実習	単位数／時間数	1単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、加齢に伴い、身体機能がさまざまな面で低下している老年者の鍼灸治療のあり方について学習する。特に、老年者の鍼灸臨床と関連の深い疾患や症状を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について学習するとともに、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により習得する。その際、現代医学の視点からみた病態と適応、限界、禁忌の判断ができるように学習する。また、高齢者を取り巻く社会的環境や高齢社会における鍼灸医療の役割について理解する。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	日本伝統鍼灸治療学	開講時期	4年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	岡田 明三	授業形態	実習	単位数／時間数	1単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、日本における伝統的な鍼灸治療、特に戦前の日本で興った「経絡治療」について総合的に学習する。経絡治療の歴史から日本の鍼灸治療の特徴を学ぶ。また、経絡治療における蔵象および病理や、基礎となる四診（望診・聞診・問診・切診）、特に脈診や腹診、切経などについて実習を交えて学習する。これによって、臓腑経絡・虚実寒熱の理論に基づく病態把握、およびそれに基づく鍼灸治療体系について述べられることを目標とする。更に経絡治療に特徴的な運鍼法についても、より臨床に近い形での実技実習を通して学びを深めていく。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	中医鍼灸治療学	開講時期	4年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	郭 珍	授業形態	実習	単位数／時間数	1単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、中国の鍼灸治療について学習する。中医鍼灸学の特徴としての弁証選穴、弁経選穴を取り上げ、その基礎から臨床までの診療体系について演習を通じて学習する。特に中国鍼毫鍼の刺法、得気の意義、候気法、催気法、行気法などの基本技術、補瀉基本手技などについて実習を交えて習得する。さらに三稜鍼、皮膚鍼、皮内鍼、頭皮鍼などの応用について、適応範囲、基本操作、注意事項などをシミュレーション実習により学習させる。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	医療面接	開講時期	3 年次・後学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	木村 友昭 他	授業形態	実習 (共同)	単位数/時間数	2 単位/60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、基本的臨床技能として OSCE（客観的臨床能力試験）の中で重要な位置にある医療面接の目的、意義、技法を学習する。その主な内容は、医療面接と問診の違い、医療面接に必要な態度と技法、医療面接とコミュニケーション、質問法、患者の解釈モデルの呈示、患者への説明と教育、患者の特性に応じた医療面接等について学ぶ。さらに、これらの医療面接の基本的な理論を学んだ後、学生同士が患者役と面接者役となってロールプレーを行うシミュレーション実習を行う。 (木村 友昭・坂井 友実・水出 靖・古賀 義久・菅原 正秋)				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	附属鍼灸センター実習Ⅰ	開講時期	4 年次・前学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	水出 靖 他	授業形態	実習 (共同)	単位数/時間数	1 単位/45時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、これまで学習した現代医学や鍼灸医学に関する知識や医療面接で身につけた技法をベースとして附属鍼灸治療センターにおいて患者の診療を通して実習する。問診、診察による病態把握や病態に基づく治療プラン、患者へのインフォームドコンセント、鍼灸治療の評価等の実際を見修する。さらに、医療スタッフの一員として施術者の補助をするなど、診療行為の一部分を担うことによって鍼灸師および医療人としての使命を自覚させ、医療人としての資質を養う。 (水出 靖・坂井 友実・安野 富美子・木村 友昭・東郷 俊宏・古賀 義久・菅原 正秋・藤本 英樹・矢野 裕義)				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	附属鍼灸センター実習Ⅱ	開講時期	4 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	水出 靖 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／45時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、これまで学習した現代医学や鍼灸医学に関する知識や医療面接で身につけた技法をベースとして附属鍼灸治療センターにおいて患者の診療を通して実習する。鍼灸治療センターに來所する患者に対して問診、診察の実際を行い、病態の把握、鍼灸治療の適否の判断、病態に基づく治療プラン、患者へのインフォームドコンセント、鍼灸治療の実際、評価等を教員の指導の下に行う。これら一連の診療行為を行うことによって鍼灸師および医療人としての自覚を更に高めるとともに、自立して鍼灸臨床が行える資質を養う。 (水出 靖・坂井 友実・安野 富美子・木村 友昭・東郷 俊宏・古賀 義久・菅原 正秋・藤本 英樹・矢瀧 裕義)				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	カンファレンス (症例検討)	開講時期	4 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	木村 友昭 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、附属鍼灸治療センターで実際に担当した患者について症例を報告し、討論する。実際に担当した患者の問診や身体診察によって得られた所見を基にプレゼンテーションを行い、考察した病態を中心に討論する。また、治療プランの立て方、評価方法、得られた結果の考察についても討論する。このことを通して、症例報告の重要性とその意義について学ぶ。加えて、鍼灸臨床における問題点の把握の仕方と問題解決の方法についても学習する。 (木村 友昭・坂井 友実・安野 富美子・水出 靖・古賀 義久)				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	症例報告の書き方・発表の仕方	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	木村 友昭 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、症例報告の書き方、スライドの作成の仕方、発表の仕方などについて学習する。症例報告の書き方については、独自に作成した書式に従い、附属鍼灸治療センターで担当した症例をまとめ、発表し、学生同士で討論を行う。スライドの作成の仕方、発表の仕方については、情報リテラシー I、II で学んだ技法を活かし、症例報告のひな形の例示を通して学ぶところから始め、学生自らが PC を活用して発表を行う。このことを通して症例報告の仕方を学ぶと共に、学会発表できる能力を養う。 (木村 友昭・坂井 友実・安野 富美子・水出 靖・古賀 義久)				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	鍼灸医学総合演習 I	開講時期	3 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高倉 伸有	授業形態	演習	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、現代医学および鍼灸医学の各科目で学習した主要事項を総合的、統合的に関連づけられるように学習する。特に、現代医学系、鍼灸医学系の基礎科目の主要事項について関連づけられるよう演習を行う。現代医学系では、人体の構造と機能、公衆衛生学、病理学、鍼灸医学系では経絡経穴学、鍼灸手技総論などを中心に、主要事項を取り上げ各科にまたがり総合的に演習を行う。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	鍼灸医学総合演習Ⅱ	開講時期	4年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高倉 伸有	授業形態	演習	単位数／時間数	2単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、現代医学および鍼灸医学の各科目で学習した主要事項を総合的、統合的に関連づけられるように学習する。特に、現代医学系、鍼灸医学系の臨床科目の主要事項について関連づけられるよう演習を行う。現代医学系では、内科学、整形外科、スポーツ医学、産婦人科学、泌尿器科、耳鼻科、眼科、皮膚科、鍼灸医学系では現代医学系の科目に準じた内容について、主要事項を取り上げ、総合的に学習する。				

専門科目（鍼灸医学の臨床）

授業科目名	学外関連施設実習 (見学実習)	開講時期	4年次・集中	必修／選択／自由	必修
担当教員名	古賀 義久 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	1単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、学外の大学附属病院などの現代医学の医療施設で行われている鍼灸の見学実習、および介護鍼灸、レディース鍼灸、中医鍼灸などの特色ある鍼灸治療院での見学実習を行う。医療現場の見学を通じて、医療人としての鍼灸師の役割について理解する。また、開業鍼灸の現場を見学し、開業鍼灸師の役割を理解する。 (古賀 義久・坂井 友実・安野 富美子・木村 友昭・水出 靖・菅原 正秋・ 藤本 英樹)				

専門科目（卒業研究）

授業科目名	卒業研究	開講時期	4 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	坂井 友実 他	授業形態	演習	単位数／時間数	4 単位／120時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、学生自身による研究活動によって研究テーマについてのレポート（卒業論文）を作成する。この過程を通して、研究テーマに関する文献検索や資料の収集の仕方、実験や調査研究の方法、結果のまとめ、考察について学習するとともにそれらを文章化する能力を養う。研究テーマは、調査研究、文献研究、実験研究、症例研究など鍼灸に関連したものとし、担当教員の指導のもとに実施する。 （坂井 友実・小泉 政啓・高倉 伸有・高野 一夫・田中 滋城・西村 桂一・安野 富美子・木村 友昭・戴 昭宇・東郷 俊宏・水出 靖・古賀 義久）				

2 .

柔道整復学科

専門基礎科目（健康科学）

授業科目名	栄養学 (スポーツ栄養学を含む)	開講時期	3 年次・前学期	必修/選択/自由	選択
担当教員名	22年度以降就任予定	授業形態	講義	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	健康を保持・増進し、疾病を予防するためには、個人がそれぞれの生活習慣、とりわけ食生活を見直して生活の質を向上させていくことが必要である。そのためには食品、食物、栄養に関する正しい知識をもち生活に活かすことが不可欠である。栄養学の講義を通して健康維持と栄養、疾病と栄養との関連を学ぶ。特に、それらに関連する基礎的事項として摂食、消化吸収、種々の栄養素の栄養的特徴と体内での働きについて学ぶ。さらに、アスリートの栄養摂取・栄養教育などについても学習する。				

専門基礎科目（健康科学）

授業科目名		薬物療法学	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名		荒井 裕一郎	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標		柔道整復学の基本となる整形外科などの医療分野における治療法を理解する上で、薬物療法学は重要な知識となる。まず、基礎薬理学として薬物の作用点、薬物の生体内運命、薬効に影響を与える因子、薬物中毒について学ぶ。次いで、薬物療法として、抗炎症薬、鎮痛薬、自律神経系に作用する薬物、運動神経・知覚神経系に作用する薬物などを主とする治療薬について学習する。さらには柔道整復治療で必要とする消毒薬について、また新薬の開発についても学ぶ。				
回	テ ー マ および 内 容					担当教員名
1	総論：薬物の作用点					荒井裕一郎
2	総論：薬物の生体内運命					
3	総論：薬効に影響を与える因子					
4	総論：薬物の毒性、新薬の開発					
5	自律神経系に作用する薬物：神経系の基礎					
6	自律神経系に作用する薬物：副交感神経系に作用する薬物					
7	自律神経系に作用する薬物：交感神経系に作用する薬物					
8	体性神経系に作用する薬物：運動神経薬、知覚神経薬					
9	中枢神経系に作用する薬物：抗パーキンソン病薬、抗うつ薬など					
10	循環器系、泌尿器系に作用する薬物					
11	鎮痛薬・抗炎症薬					
12	鎮痛薬・抗炎症薬					
13	骨・関節に作用する薬物					
14	皮膚に適用する薬物、消毒薬について					
15	定期試験および授業のまとめ					
教科書		『シンプル薬理学』 野村隆英：石川直久（南江堂）				
参考書等						
成績評価基準		定期試験の成績に出席状況や受講態度などを加味して総合的に評価する。				
受講上の 注意事項						

専門基礎科目（健康科学）

授業科目名	生化学	開講時期	3年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	荒井 裕一郎	授業形態	演習	単位数／時間数	1単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	医療の分野においては、生体の様々な生命現象を分子レベルで考察する生命科学を学ぶ必要がある。まず、生体を構成する生体分子をを理解し、タンパク質、糖質、脂質、酵素、ビタミン、ホルモンなどの構造と役割について学ぶ。次いで、生体分子の動的代謝として糖質代謝、脂質代謝、タンパク質代謝、呼吸の代謝、ホルモンの代謝、核酸の代謝などを学習する。さらに、筋収縮の生化学や脳の生化学などについても学ぶ。				

専門基礎科目（人体の構造と機能）

授業科目名		解剖学Ⅰ (機能解剖学を含む)	開講時期	1 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名		佐藤 達夫	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標		人体の正常な形態および構造について系統的に理解することを目的とする。柔道整復学をはじめ、あらゆる臨床医学を理解する上で解剖学の知識が必要となる。解剖学Ⅰでは解剖学概説および系統解剖学のうち神経系と感覚器を学ぶ。神経系では中枢神経系と末梢神経系に分け、中枢神経系は脳と脊髄について、末梢神経系は脳神経、脊髄神経および自律神経系について学ぶ。また感覚器では外皮(皮膚など)、視覚器、聴覚器、平衡覚器、味覚器および嗅覚器について学ぶ。さらに運動器の解剖と機能についても学習する。				
回	テ ー マ および 内 容					担当教員名
1	総論					佐藤 達夫
2	脊髄神経					
3	頸神経叢					
4	腕神経叢					
5	上肢の神経					
6	上肢の神経					
7	腰神経叢					
8	仙骨神経叢					
9	下肢の神経					
10	下肢の神経					
11	脳神経					
12	脳神経					
13	模型観察					
14	脳神経					
15	定期試験					
16	自律神経					
17	自律神経					
18	脊髄					
19	脳					
20	脳					
21	脳					
22	脳					
23	模型観察					
24	感覚器					
25	感覚器					
26	運動器					
27	運動器と神経（上肢）					
28	運動器と神経（下肢）					
29	運動器と神経（体幹）					
30	定期試験および授業のまとめ					
教科書		『解剖学』 全国柔道整復学校協会（医歯薬出版）				
参考書等		『リハビリテーション解剖アトラス』 佐藤達夫：坂本裕和（医歯薬出版）				
成績評価基準		定期試験、小テスト、出席状況および授業態度を総合的判断し、評価します。				
受講上の 注意事項		柔道整復学の基礎となる科目であり、十分に学習・理解した上で、臨床柔道整復学や柔道整復実技を学ぶ必要があります。				

専門基礎科目（人体の構造と機能）

授業科目名	解剖学Ⅱ	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	木村 明彦	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	人体の正常な形態および構造について系統的に理解することを目的とする。柔道整復学をはじめ、あらゆる臨床医学を理解する上で解剖学の知識が必要となる。解剖学Ⅱでは循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系および内分泌器について学ぶ。循環器系では心臓、脈管など、消化器系では消化管、肝臓など、呼吸器系では喉頭、気管・気管支、肺など、泌尿器系では腎臓、膀胱など、生殖器系では男性・女性生殖器、内分泌器では内分泌腺の位置、構造、分泌するホルモンなどについて学ぶ。				

専門基礎科目（人体の構造と機能）

授業科目名	解剖学実習	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	成瀬 秀夫 他	授業形態	実習（共同）	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	人体の解剖学はきわめて多岐にわたる具体的な事実を記述した学問であり、解剖学Ⅰ・Ⅱで学んだ事項を、さらに医学教材（各種模型など）を用いて総合的・立体的に理解する必要がある。解剖学実習では運動器解剖学（上肢・下肢・体幹の骨、関節、靱帯、筋、神経、血管）、神経解剖学（脳と脊髄、末梢神経系）、内臓解剖学（心臓、肺、肝臓、腎臓など）について各種模型を使用して理解を深める。さらに、人体を構成する最小単位である細胞およびその集団である組織について顕微鏡解剖実習（組織学実習）を行う。 （成瀬 秀夫・木村 明彦）				

専門基礎科目（人体の構造と機能）

授業科目名		生理学Ⅰ	開講時期	1 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名		高野 一夫	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標		生理学では人体の正常な機能を理解することを目的とする。人体の正常な形態および構造を学ぶ解剖学とは表裏一体の関係にあるので合わせて理解する。また生理学は疾病の原因、症状などを理解する上で不可欠な学問である。生理学Ⅰでは、生理学の基礎（細胞生理学）、血液、循環、呼吸、消化と吸収および栄養と代謝について学ぶ。血液では血液の役割・組成や血液の凝固機序を中心に学び、循環では心臓の機能と循環調節のメカニズムについて学ぶ。呼吸では呼吸器の構造とその調節メカニズムについて、消化と吸収では消化液の種類と分泌機序などについて学ぶ。栄養と代謝では栄養素の種類とその働きやエネルギー代謝について学ぶ。到達目標：生理学Ⅰで学んだ基礎的な生理学用語について説明でき、生体に生じた基本的な生理学的変化を説明できる。				
回	テ ィ マ および 内 容					担当教員名
1	生理学とは何か、生体恒常性の維持					高野 一夫
2	細胞生理学 1（細胞性成分とその機能 1）					
3	細胞生理学 2（細胞性成分とその機能 2）					
4	血液 1（血液成分とその機能 1）					
5	血液 2（血液成分とその機能 2）					
6	血液 3（血液凝固と血液型）					
7	血液 4（免疫 1）					
8	血液 5（免疫 2）					
9	循環 1（心臓の構造とその機能）					
10	循環 2（心周期）					
11	循環 3（心電図）					
12	循環 4（血管の構造とその機能）					
13	循環 5（特殊部位での循環とリンパ循環）					
14	循環 6（循環調節）					
15	定期試験および授業のまとめ					
16	呼吸 1（呼吸器の構造とその機能）					
17	呼吸 2（呼吸運動）					
18	呼吸 3（ガス交換）					
19	呼吸 4（呼吸調節 1）					
20	呼吸 5（呼吸調節 2）					
21	呼吸 6（呼吸異常）					
22	消化と吸収 1（消化管の構造と機能）					
23	消化と吸収 2（口腔内および胃内における消化）					
24	消化と吸収 3（小腸および大腸内における消化吸収）					
25	消化と吸収 4（消化管ホルモン）					
26	消化と吸収 5（肝臓、排便）					
27	栄養と代謝 1（3 大栄養素）					
28	栄養と代謝 2（エネルギー代謝）					
29	栄養と代謝 3（ビタミンおよびミネラル）					
30	定期試験および授業のまとめ					
教科書		『シンプル生理学』 貴邑富久子：根来英雄（南江堂）				
参考書等		1. 『ガイトン臨床生理学』 アーサー・C. ガイトン：ジョン・E. ホール（医学書院） 2. 『オックスフォード・生理学』 ギリアン・ポーコック：クリストファー・D. リチャーズ（丸善） 3. 『標準生理学 Standard textbook 第 6 版』 小澤静司：本郷利憲（医学書院） 4. 『細胞の分子生物学』 ブルース・アルバーツ：中村桂子（ニュートンプレス） 5. 『ニューロンの生理学』 御子柴克彦・加藤総夫（京都大学出版会）				
成績評価基準		定期試験として筆記試験を行い、一定の基準以下のものには再試験として筆記試験または口頭試験を行う。出席率が定められた基準以下の者は定期試験を受験出来ない。				
受講上の 注意事項		なるべく予習をして問題意識を持って講義に臨むと理解しやすい。また余裕のある者は上記の参考書などを利用して理解に努めると良い。他の科目との有機的なつながりを考慮しながら学習すること。疑問点には時間の許す限り、講義担当者が回答する。				

専門基礎科目（人体の構造と機能）

授業科目名	生理学Ⅱ (運動生理学を含む)	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高野 一夫	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60 時間
授業の目的 および 到達目標	生理学では人体の正常な機能を理解することを目的とする。人体の正常な形態および構造を学ぶ解剖学とは表裏一体の関係にあるので合わせて理解する。また生理学は疾病の原因、症状などを理解する上で不可欠な学問である。生理学Ⅱでは体温とその調節、尿の生成と排泄、内分泌系、生殖、骨の生理、体液について学ぶ。内分泌系ではホルモンの種類や作用などについて学ぶ。生殖では男性生殖器と女性生殖器の構造とその働きを学び、骨の生理では骨の構造と再吸収・再形成に関与するカルシウム・リン代謝について学ぶ。さらに運動生理学についても学習する。到達目標：生理学Ⅱで学んだ基礎的な生理学用語について説明でき、生体に生じた基本的な生理学的変化を説明できる。				

専門基礎科目（人体の構造と機能）

授業科目名	生理学Ⅲ	開講時期	3 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高野 一夫	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60 時間
授業の目的 および 到達目標	生理学では人体の正常な機能を理解することを目的とする。人体の正常な形態および構造を学ぶ解剖学とは表裏一体の関係にあるので合わせて理解する。また生理学は疾病の原因、症状などを理解する上で不可欠な学問である。生理学Ⅲでは、神経系、筋肉、感覚器系などの生理について学ぶ。神経系では中枢神経系および末梢神経系の機能、筋肉では筋収縮のメカニズムなど、感覚器系では体性感覚、化学感覚（味覚、嗅覚）、聴覚、視覚、平衡感覚などについて学ぶ。到達目標：生理学Ⅲで学んだ基礎的な生理学用語について説明でき、生体に生じた基本的な生理学的変化を説明できる。				

専門基礎科目（人体の構造と機能）

授業科目名	生理学実習	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高野 一夫 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	3 年間で学んだ生理学の知識をもとに、自分達自身あるいは動物から摘出した組織を対象として生理学の基礎をなす種々のテーマについて実習する。自身が測定装置を直接操作することによって生理機能を計測・把握する能力を習得するとともに医用電子機器の基礎を理解する。血液成分の測定から血液の組成、尿成分の測定から腎機能を学習する。さらに、心電図や肺気量測定から呼吸・循環機能、脳波測定では脳の高次機能、筋電図では筋活動を学習する。到達目標：本実習で得られた実験結果について生理学的かつ論理的な説明が出来る。 (高野 一夫・西村 桂一)				

専門基礎科目（人体の構造と機能）

授業科目名	運動学	開講時期	3 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高橋 康輝	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	人間の正常な身体運動を科学的に分析し運動障害や運動異常を理解する基礎知識を学ぶ。人間が運動する際、骨格系・筋系・神経系・呼吸器系・循環器系・栄養とエネルギー代謝・酸塩基平衡などが関与する。そのため、解剖学および生理学と関連づけて人間が運動するときの骨格系・筋系・神経系・呼吸器系・循環器系・栄養とエネルギー代謝・酸塩基平衡などの機能を理解する。まず運動の基礎力学や神経機能を学習した後、四肢・体幹の運動、姿勢、歩行などについて学ぶ。				

専門基礎科目（人体の構造と機能）

授業科目名	運動学実習	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	柚木 脩 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	運動学講義で学習した人間の正常な人体の運動について、実習を通じてより深く理解する。特に、生体内に発生したの力学的数値を臨床応用可能に成ることを到達目標とする。その目標を達成するため、人間の正常な運動や歩行などを肉眼的に観察するとともに、様々な分析装置を利用して測定・分析する。姿勢の分析、関節運動の分析、重心と重心動揺の測定、姿勢保持と姿勢反射の分析、筋力の測定、呼吸の測定・分析、歩行の分析などを学習する。 (柚木 脩・高橋 康輝)				

専門基礎科目（疾病と傷害）

授業科目名	病理学 I	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	寺井 政憲	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	病理学では、種々の疾患における臓器、組織、細胞の異常（形態学的変化）について学ぶ。病理学 I では病理学の意義、疾病の分類・経過・予後・転帰、内因（素因、遺伝など）と外因（栄養障害、物理的・化学的・微生物学的病因作用）、退行性病変（変性、萎縮、壊死）、循環障害（充血、うっ血、虚血、出血、血栓、塞栓、梗塞、リンパ液の循環障害）、進行性病変（肥大、再生、化生、移植、創傷治癒、異物の処理）について学習する。到達目標は病気の概念・定義を理論的にしっかり習得し、最終的に幅広い基礎医学の知識と理解力をつけることにおく。				

専門基礎科目（疾病と傷害）

授業科目名	病理学Ⅱ	開講時期	3 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	寺井 政憲	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	病理学では、種々の疾患における臓器、組織、細胞の異常（形態学的変化）について学ぶ。病理学Ⅱでは炎症（原因、形態学的変化、特異性炎と非特異性炎）、免疫異常（抗原と抗体、液性免疫と細胞性免疫、免疫不全、自己免疫疾患）、アレルギー（定義、分類）、腫瘍（定義、肉眼的形態、発生段階、原因・診断・治療、良性腫瘍と悪性腫瘍、上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍）、先天性異常（遺伝子と染色体、遺伝疾患、奇形）について学習する。到達目標は病気の概念・定義を理論的にしっかり習得し、最終的に幅広い基礎医学の知識と理解力をつけることにおく。				

専門基礎科目（疾病と傷害）

授業科目名	病理学実習	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	寺井 政憲	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	病理学講義で学習した種々の疾患における臓器、組織、細胞の異常（形態学的変化）について実習を通じてより深く理解することを目的とする。まず、人体の正常な組織標本作製法（H-E染色、免疫組織学的染色法、蛍光染色など）および組織（上皮組織、骨組織、筋組織、ネフロン、内分泌腺など）の顕微鏡観察法について学ぶ。次いで種々の疾患の病理標本（肝細胞の脂肪変性、肝硬変の肝臓組織、腫瘍組織など）の顕微鏡的観察を行う。到達目標は標本作製法、顕微鏡観察法を理解し、病理組織から正常組織との比較の上で種々の疾患のイベントを病理学的に推察が出来るようになることとする。				

専門基礎科目（疾病と傷害）

授業科目名	内科学総論	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	林 洋	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60 時間
授業の目的 および 到達目標	柔道整復師の業務上遭遇しうる内科疾患について、その診断と検査並びに治療の概要を理解する。代表的な臨床症状について、問診による病歴聴取法、視診、触診、打診、聴診による身体所見の取り方、知覚検査、反射検査（表在反射、深部反射、病的反射）を含む神経学的所見の取り方、体温、血圧、脈拍の測定法と呼吸状態の観察法、そして、臨床検査としての生理機能検査と検体検査について学習する。特に柔道整復師の日常診療に関連の強い内科疾患の病態と治療については詳しく解説し、実際の診療で応用可能となることを目標とする。				

専門基礎科目（疾病と傷害）

授業科目名	内科学各論Ⅰ	開講時期	3 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	田中 滋城	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60 時間
授業の目的 および 到達目標	柔道整復師の業務上遭遇しうる内科疾患について、その診断と検査並びに治療の概要を理解する。内科学各論Ⅰでは、内科疾患のうち呼吸器疾患（気管支喘息など）、循環器疾患（心筋梗塞など）、消化器疾患（胃癌など）、代謝疾患（糖尿病など）、内分泌疾患（バセドウ病など）、血液疾患（白血病など）について、その原因、症状、診断・検査・治療法などについて学ぶ。一般的な臨床症状から出発する症候学に基づき重要疾患を学習し、臨床現場で応用できるようにする。				

専門基礎科目（疾病と傷害）

授業科目名	内科学各論Ⅱ (スポーツ医学を含む)	開講時期	4年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	田中 滋城	授業形態	講義	単位数／時間数	1単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	柔道整復師の業務上遭遇しうる内科疾患について、その診断と検査並びに治療の概要を理解する。内科学各論Ⅱでは、内科疾患のうち腎疾患（糸球体腎炎など）、神経筋疾患（進行性筋ジストロフィー症など）、感染症（エイズなど）、リウマチ疾患（膠原病など）について、その原因、症状、診断・検査・治療法などについて学ぶ。一般的な臨床症状から出発する症候学に基づき重要疾患を学習し、臨床現場で応用できるようにする。また、アスリートの健康管理とスポーツ医学についても学習する。				

専門基礎科目（疾病と傷害）

授業科目名	外科学概論	開講時期	2年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	鈴木 秀一	授業形態	講義	単位数／時間数	2単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	ここでは、外科学の基礎を身につけることを主目的とする。外科学概論として身体の損傷（創傷、熱傷）、外傷（交通外傷、頭部外傷など）、炎症（局所的変化と全身的变化、外科的感染症など）、腫瘍（成因、分類、前癌病変、症状、診断・検査、治療）、ショック（分類、症状、診断、治療）、輸血と輸液、滅菌と消毒、各種手術法、麻酔（麻酔前投与、全身麻酔と局所麻酔）、移植と免疫、出血と止血、蘇生術などについて学習する。				

専門基礎科目（疾病と傷害）

授業科目名	外科学各論	開講時期	3 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	鈴木 秀一	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では外科学が扱う疾患に関する知識をを身につけることを目的とする。2 年次で学んだ外科学概論を基礎として、日常臨床の場において遭遇することの比較的多い、外科学で扱う代表的疾患の病態、治療を理解する。脳神経外科疾患（脳腫瘍、脳血管疾患、頭部外傷など）、胸壁・肺・縦隔疾患（肺癌、肺結核、自然気胸、胸部損傷など）、乳腺疾患（乳癌など）、心臓疾患（虚血性心疾患など）、脈管疾患（大動脈瘤など）、腹部外科疾患（胃十二指腸潰瘍、胃癌、大腸癌など）について学習する。				

専門基礎科目（疾病と傷害）

授業科目名	救急法	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	鈴木 秀一	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では救急を必要とする病態に遭遇した際に、適切な対処ができるようになることを目的とする。まず、意識障害レベルの判定、出血・呼吸・心拍・脈拍・血圧・瞳孔などバイタルサインの確認について学ぶ。次いで、止血法、創傷部位の感染予防処置、気道の確保（異物の除去、下顎挙上法）、人工呼吸法（マウス・トゥー・マウス）、心臓マッサージ、AED などについて、各自が実技・実習を十分に行い、手技を確実なものとしていく。				

専門基礎科目（疾病と傷害）

授業科目名	整形外科学Ⅰ (スポーツ医学を含む)	開講時期	1 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	柚木 脩	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	整形外科学では、柔道整復学と関係の深い運動器の疾患および外傷について学ぶ。整形外科学Ⅰでは、整形外科学の基礎となる運動器の解剖学を学びながら、整形外科学のうち肩関節の疾患（肩関節周囲炎など）、肘関節の疾患（テニス肘など）、手関節の疾患（ド・ケルバン病など）、体幹の疾患（椎間板ヘルニアなど）、股関節の疾患（先天性股関節脱臼など）、膝関節の疾患（半月板損傷など）、足関節の疾患（足関節捻挫など）および骨端症（オスグッド・シュラッテル病など）について学習する。さらに、スポーツ外傷・障害の基礎知識についても学ぶ。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	整形外科とは				柚木 脩
2	運動器の基礎知識（骨の基礎知識）				
3	運動器の基礎知識（関節の基礎知識）				
4	運動器の基礎知識（筋・靱帯・腱の基礎知識）				
5	運動器の基礎知識（運動器の科学）				
6	整形外科診察法（姿勢、体幹と四肢のバランス・跛行）				
7	整形外科診察法（関節拘縮と強直・徒手筋力テスト）				
8	整形外科診察法（知覚の診断・反射）				
9	整形外科的治療法（保存療法）				
10	整形外科的治療法（観血的治療Ⅰ）				
11	整形外科的治療法（観血的治療Ⅱ）				
12	骨・関節損傷総論（骨折総論）				
13	骨・関節損傷総論（関節の損傷）				
14	整形外科総論のまとめ				
15	定期試験および授業のまとめ				
16	スポーツ整形外科とは				
17	スポーツ外傷・障害総論				
18	代表的なスポーツ種目と特徴的な怪我				
19	整形外科的メディカルチェック				
20	上肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ				
21	上肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ				
22	体幹のスポーツ外傷・障害Ⅰ				
23	体幹のスポーツ外傷・障害Ⅱ				
24	下肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ				
25	下肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ				
26	スポーツ活動中の重篤な外傷（頭部、脊髄損傷、大出血、等）				
27	年齢性別による特徴（女性、高齢者、発育期、等）				
28	スポーツ整形外科学のまとめⅠ				
29	スポーツ整形外科学のまとめⅡ				
30	定期試験および授業のまとめ				
教科書		『整形外科学』 松下降：福林徹（南江堂）			
参考書等		『整形外科学用語集』 日本整形外科学会（南江堂）			
成績評価基準		出席点，レポート課題および試験の得点で総合的に判断する。			
受講上の 注意事項		講義では，ビジュアルプレゼンテーションを中心に展開していくので，出席は重要である。			

専門基礎科目（疾病と傷害）

授業科目名	整形外科学Ⅱ	開講時期	2年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	柚木 脩	授業形態	講義	単位数／時間数	2単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	整形外科学では、柔道整復学と関係の深い運動器の疾患および外傷について学ぶ。整形外科学Ⅱでは、臨床的に遭遇する整形外科的疾患や鑑別診断などを理解し、柔道整復師として必要な整形外科的な知識を学習し、臨床に対処できるようになることを目標とする。整形外科診断学、整形外科治療法、全身性の骨・軟部疾患、感染性疾患、非感染性軟部・関節疾患、神経・筋の系統疾患、骨・軟部腫瘍などについて学習する。				

専門基礎科目（疾病と傷害）

授業科目名	リハビリテーション医学 (検査・測定を含む)	開講時期	2年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	関 寛之	授業形態	講義	単位数／時間数	2単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	リハビリテーションとは、「障害を受けた者を、彼のなし得る最大の身体的、精神的、社会的、職業的、経済的な能力を有するまでに回復させることである。」と定義される。まず、障害の種類、評価法・診断法（徒手筋力テスト、関節可動域測定、日常生活動作評価、運動年齢テストなど）を学習し、その後、リハビリテーションの治療学概論（理学療法、作業療法、言語療法、補装具など）、さらに代表疾患（脊髄損傷、脳性麻痺、脳卒中、関節リウマチなど）のリハビリテーションを学ぶ。				

専門基礎科目（疾病と傷害）

授業科目名	リハビリテーション医学実習 (検査・測定を含む)	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	関 寛之	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	リハビリテーション医学の講義で学習した障害学について、実習を通じてより深く理解することを目標とする。まず評価法として触診、四肢長と四肢周径測定、関節可動域測定（ROM）、筋力検査（MMT）、神経学的検査（知覚検査、表在反射、深部反射、病的反射）などの手技を理解し、次いで運動療法、物理療法、補装具、自助具、杖歩行、各種作業療法を実習学習し、さらに各種ファシリテーションテクニック（PNF など）について学ぶ。				

専門基礎科目（保健医療福祉と柔道整復の概念）

授業科目名	柔道整復の歴史	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	中川 敏郎	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	人類が人間としての営みを始めたときから「医学と医療」は始まり、人間の歴史と共に医学の歴史は歩んでいる。日本の医学の歴史も飛鳥時代以降のものが記録に残されているが、当然記録にはないそれ以前の「医学と医療」もあったわけである。接骨医学についても、一般的な医学・医療と共に発展してきたが、わかっている限りでは、古武術の中の「活法」、中国で発展した「漢方医学」の中の接骨術、室町時代以降に移入されたヨーロッパの外科医学などが今日の「接骨医学」の基礎となっている。医学の歩みを学ぶことによって、歴史の中で正しく医療を捉え、先師たちが努力の末に残してくれた知識や技能を学習し、将来の指針とする。さらに、柔道整復「Judo Therapy」が WHO（世界保健機構）で伝統医学として認知されるまでの経過、韓国・モンゴル国・ポルトガル・ミクロネシア連邦などでの活動状況、これからの柔道整復師の国際交流についての展望などについても学習する。				
回	テ　　マ　　および　　内　　容				担当教員名
1	古代アジアの医学・・・古代インドの医学。古代中国の医学。				中川 敏郎
2	古代日本の医学・・・古墳時代から飛鳥時代へ。仏教伝来と聖徳太子の医療福祉。				
3	奈良時代の医学・・・大宝律令の「医疾令」。行基の社会福祉事業。鑑真の来日。				
4	平安時代の医学・・・我国最初の「薬書」（薬経太素）と「医書」（医心方）。漢和辞典。				
5	鎌倉時代の医学・・・仏教僧侶の医療活動。栄西・叡尊・忍性・性全の福祉活動と医書。				
6	室町時代の医学・・・僧医有隣・月湖の医書。最初の総合大学「足利学校」。				
7	安土桃山時代の医学・・・李朱医学の展開京都曲直瀬診療所。最初の西洋式病院。				
8	江戸時代の医学 1・・・中国医学の展開。最初の「医学史」。ヨーロッパ医学の移入。				
9	江戸時代の医学 2・・・解剖学の発展・進歩。「三大木骨」の出現。				
10	江戸時代の医学 3・・・接骨医学の名著。「三大接骨書」の刊行。				
11	江戸時代の医学 4・・・医学教育の進歩。医科大学の創設と発展。				
12	明治初期の医学・・・オランダ医学からフランス医学ドイツ医学へ				
13	明治から昭和へ・・・ヨーロッパ医学からアメリカ医学へ				
14	国際交流・・・韓国・モンゴル。他				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	担当教員の著書による「柔道整復史」（非製本）。				
参考書等	『整骨・整形外科辞典典籍大系 全13巻』（オリエント出版） 『日本整骨術全集 上』（梓書房） 『日本整骨術全集 下』（梓書房） 他				
成績評価基準	講義への出席状況、受講態度および試験の成績等で総合的に判断する。				
受講上の 注意事項	講義中の私語や携帯電話による通話および操作は禁止する。				

専門基礎科目（保健医療福祉と柔道整復の概念）

授業科目名	関係法規	開講時期	3 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	河野 久	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、柔道整復業務に関係のある法規について学習する。具体的には、柔道整復師法およびその付属法令を学習する他、医師法、医療法、薬事法その他の医療従事者の業務に関する法規等について、その基本的な内容と特色について学習する。講義においては、種々の事例や判例を用いて理解を深め、業務の遂行に必要にして十分な法知識を習得することを目標とする。				

専門基礎科目（保健医療福祉と柔道整復の概念）

授業科目名	生命医療倫理学	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	林 洋 他	授業形態	講義 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、バイオエシックスについての基本的な考え方について学習する。特に医療倫理の歴史的発展、代表的な倫理綱領、具体的な倫理的行為、インフォームドコンセント、QOL の考え方等について学習する。また、現代の医療においては、遺伝子技術を駆使した再生医療をはじめ、出生前診断、生殖医療、臓器移植、臨床試験における倫理問題など、医療者の倫理問題が大きくクローズアップされていることを受けて、各テーマごとに実際の事例を取り上げ、医療従事者、患者、マスコミがそれぞれの立場からどのような言説を展開しているかを比較検討し、将来の医療のなかで求められる倫理とは何かを考える。 (林 洋・東郷 俊宏)				

専門基礎科目（保健医療福祉と柔道整復の概念）

授業科目名	柔整医療安全学	開講時期	2 年次・前学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	田淵 健一	授業形態	講義	単位数/時間数	2 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	ここでは、医療現場における安全管理の概要と具体的方法について理解することを目的に、(1) 患者の正確な病態把握と柔道整復師の業務範囲の認識の重要性、(2) 外傷と感染防止対策、(3) 各種物理療法の禁忌症、安全な物理療法の取り扱い、(4) 施術後の指導管理の重要性、(5) 医療全般において生じる有害事象の具体例とその予防・対応策、(6) リスクマネジメントの基本的な考え方とインシデントレポートの作成法などを中心に学習する。				

専門基礎科目（保健医療福祉と柔道整復の概念）

授業科目名	研究の展開	開講時期	3 年次・後学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	寺井 政憲	授業形態	講義	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	「情報リテラシーⅠ」および「情報リテラシーⅡ」で学んだ基本的な情報処理方法や、「研究の基礎」で学んだ基本的な研究についての考え方を基盤として、さらに研究についての理解を深め、展開していく。研究活動の必要性を各人の倫理観に基づいて理解することから始め、研究はいかなる行為であるのか、研究は学問の発展にどのように貢献していくのか、社会へどのように還元されていくのか、等について自分自身で考察できる能力を身につけさせることを到達目標にする。その目標を達成する過程で、研究を進めるために重要である文献検索法および参考論文の読み方を学ぶ。疑問点や問題点を明らかにするために必要な研究課題、仮説をどのように設定し、さらにその問題点は現時点においてどこまで明らかにされているのか、そしてどのように解決していくことができるかを知るために必須な手段となる。その際に文献、論文の解釈に必要な標本の抽出法、統計手法、検定の意味など注意すべき点等について学ぶ。一連の研究の流れを研究計画書の作成、研究の成果を効果的に伝えるための図・表の作成、研究発表の実際などを通じて実践的に学習する。				

専門基礎科目（保健医療福祉と柔道整復の概念）

授業科目名		柔道Ⅰ	開講時期	1 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名		橋本 昇 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標		柔術並びに柔道の歴史を学び、創始者である嘉納治五郎師範の柔道の精神を理解し、柔道と柔道整復師との関わり、また、柔道整復師としての柔道の必要性を理解し、医療人としての人格の形成を学ぶ。また、柔道における礼法を学び、社会に貢献できる態度を身につけるとともに、受身などの基本的動作の獲得および身体の健康維持、体力の向上を目標とする。 (橋本 昇・徳安 秀正)				
回	テ ー マ	内 容				担当教員名
1	オリエンテーション	授業概要の説明、武道としての柔道、スポーツとしての柔道 柔道の国際化、礼法、特性、柔道衣の扱い方、体ほぐし運動 受け身（後ろ・横・前）、姿勢、組み方、 受け身（後ろ・横・前・前廻り）体捌き（前・後ろ・前廻り・後ろ回り）、 受け身（後ろ・横・前・前廻り）崩し（八方）、進退動作、 受け身（後ろ・横・前・前廻り）進退動作（継ぎ足、歩み足） 前廻り受け身、投げ技の基本動作・固め技の基本動作 前廻り受け身、膝車、大外刈り・袈裟固め、横四方固め 前廻り受け身、体落とし、出足払い・上四方固め、縦四方固め 前廻り受け身、背負い投げ、大腰・崩れ袈裟固め、 前廻り受け身、大内刈り、小内刈り・崩れ上四方固め 前廻り受け身、支えつり込み足、払い腰・後ろ袈裟固め 前廻り受け身、送り足払い、払いつり込み足、内股・肩固め 前廻り受け身、釣り込み腰、一本背負い投げ、跳ね腰、 受け身・投げ技・抑え技の理解度 かかり練習、約束練習、自由練習・腕がらみ、十字締め かかり練習、約束練習、自由練習・腕挫ぎ十字固め、送り襟締め かかり練習、約束練習、自由練習・腋固め、裸締め かかり練習、約束練習、自由練習、技の連絡 かかり練習、約束練習、自由練習、技の連絡 かかり練習、約束練習、自由練習、技の連絡 かかり練習、約束練習、自由練習、技の変化 かかり練習、約束練習、自由練習、技の変化 かかり練習、約束練習、自由練習、技の変化 かかり練習、約束練習、自由練習、固め技の試合 かかり練習、約束練習、自由練習、固め技の試合 かかり練習、約束練習、自由練習、得意技の習得 かかり練習、約束練習、自由練習、得意技の習得 かかり練習、約束練習、自由練習、得意技の習得 投げ技・固め技の習熟度				橋本 昇 徳安 秀正
2	オリエンテーション					
3	基本動作・体ほぐし運動					
4	基本動作・体ほぐし運動					
5	基本動作・体ほぐし運動					
6	基本動作・体ほぐし運動					
7	基本動作・体ほぐし運動					
8	基本動作・対人的技能					
9	基本動作・対人的技能					
10	基本動作・対人的技能					
11	基本動作・対人的技能					
12	基本動作・対人的技能					
13	基本動作・対人的技能					
14	基本動作・対人的技能					
15	定期試験					
16	対人的技能					
17	対人的技能					
18	対人的技能					
19	対人的技能					
20	対人的技能					
21	対人的技能					
22	対人的技能					
23	対人的技能					
24	対人的技能					
25	対人的技能					
26	対人的技能					
27	対人的技能					
28	対人的技能					
29	対人的技能					
30	定期試験					
教 科 書						
参考書等		『イラスト柔道：見る・学ぶ・覚える』 日本体育大学（五月書房） 『イラスト柔道の形：見る・学ぶ・教える』 日本柔道整復専門学校：品川区柔道会（五月書房）				
成績評価基準		柔道技術の習熟度を優・良・可・不可と評価する。				
受講上の 注意事項		柔道衣は各自で準備する。				

専門基礎科目（保健医療福祉と柔道整復の概念）

授業科目名	柔道Ⅱ	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	橋本 昇 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	柔道の技の習熟を目標とし、投技（大外刈、送り足払、払腰など）においては崩し、作り、掛けを学び、固技においては基本的な抑え技（袈裟固、横四方固、上四方固など）を習得する。それに伴い、体捌き、動きの応用動作を身につけ、乱取や試合練習ができるように学ぶ。 （橋本 昇・徳安 秀正）				

専門基礎科目（保健医療福祉と柔道整復の概念）

授業科目名	柔道Ⅲ	開講時期	3 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	橋本 昇 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	2 年間行ってきた柔道（礼法・受身・乱取）に対する総復習を行うとともに、技の理合を理解するために投の形（手技、腰技、足技）を練習する。女子については、投の形と柔の形（第 1 教、第 2 教、第 3 教）を練習する。また、審判規定を学びながら、試合ができるように練習し、最終的に講道館初段取得を目標とする。 （橋本 昇・徳安 秀正）				

専門基礎科目（保健医療福祉と柔道整復の概念）

授業科目名	衛生学・公衆衛生学Ⅰ	開講時期	1年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	今井 常彦	授業形態	講義	単位数／時間数	2単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	衛生学・公衆衛生学の根幹は人々の健康にあり、その内容は社会情勢や科学技術の進歩と共に変化していく。衛生学・公衆衛生学の学習目標は、第一に人を取り巻く衣食住環境、家庭環境、地域環境、社会制度、地球環境などの知識を身につけることであり、第二に個人のみでなく集団の構造を把握し、健康水準を高めるための戦略・戦術を学び、日常生活に応用できるようにすることである。衛生学・公衆衛生学Ⅰでは健康の概念、感染症、環境保健、母子保健、学校保健などを学習する。				
回	テ ィ マ および 内 容				担当教員名
1	衛生学公衆衛生学の意義と目的 健康の概念の変遷と世界保健機関の健康の定義				今井 常彦
2	予防医学の概念 一次予防、二次予防、三次予防の概念				
3	ライフスタイルと健康① 食物、飲酒と健康				
4	ライフスタイルと健康① 食物、飲酒と健康				
5	衛生統計 衛生統計の種類、主な死因の推移、健康状況に関する調査				
6	環境保健① 環境と適応、温熱環境、生気象学				
7	環境保健② 騒音、振動、電離放射線、非電離放射線と健康				
8	環境保健③ 住居と健康、衣服と健康				
9	環境保健④ 上水道と下水道				
10	環境保健⑤ 廃棄物、医療廃棄物				
11	環境保健⑥ 公害（定義、発生要因、現状と対策）				
12	環境保健⑦ 地球環境問題（温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、砂漠化、野生生物の減少）				
13	まとめ				
14	感染症① 感染症の現況（新興感染症と再興感染症）、パンデミック、生物テロ				
15	定期試験および授業のまとめ				
16	感染症② 病原微生物の種類（ウイルス、細菌、原虫、真菌など）				
17	感染症③ 感染症対策（感染源対策、感染経路対策、感受性者対策）				
18	感染症④ 主な感染症（インフルエンザ、結核、エイズ、性感染症）				
19	感染症⑤ 免疫（受動免疫と能動免疫）、予防接種				
20	消毒① 消毒の意義、滅菌と消毒、消毒法（理学的消毒法と化学的消毒法）				
21	消毒② 滅菌と消毒の実際（手指の消毒、器具の滅菌、感染性廃棄物処理）				
22	母子保健① 母性保健の意義、家族計画、妊娠婦死亡、流・早。死産、周産期死亡				
23	母子保健② 小児保健（体格、乳児死亡、幼児死亡、未熟児および障害児）				
24	母子保健③ 母子保健対策（母子保健制度、母子保健施策）				
25	歯科保健 歯・口腔の機能、歯の形成、虫歯の原因および予防				
26	学校保健① 学齢期の健康状況（体格、体力、死亡、傷病）				
27	学校保健② 学校保健対策（健康診断、学校環境衛生）、学校安全（安全管理、安全教育）				
28	学校保健③ 学校伝染病予防				
29	まとめ				
30	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『衛生学・公衆衛生学』 鈴木庄亮：久道茂（南江堂）				
参考書等	『国民衛生の動向 2008年』 厚生統計協会（厚生統計協会）				
成績評価基準	定期試験 60点以上、必要出席数				
受講上の 注意事項	必要に応じプリントを配布する。				

専門基礎科目（保健医療福祉と柔道整復の概念）

授業科目名	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	開講時期	2年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	今井 常彦	授業形態	講義	単位数／時間数	2単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	衛生学・公衆衛生学の根幹は人々の健康にあり、その内容は社会情勢や科学技術の進歩と共に変化していく。衛生学・公衆衛生学の学習目標は、第一に人を取り巻く衣食住環境、家庭環境、地域環境、社会制度、地球環境などの知識を身につけることであり、第二に個人のみでなく集団の構造を把握し、健康水準を高めるための戦略・戦術を学び、日常生活に応用できるようにすることである。衛生学・公衆衛生学Ⅱでは産業保健、成人・老人保健、精神保健、地域保健、衛生行政、疫学などを学習する。				

専門科目（基礎柔道整復学）

授業科目名	運動器系の解剖	開講時期	1 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	成瀬 秀夫	授業形態	講義	単位数／時間数	4 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	柔道整復学では骨・関節・筋などの運動器に加わる急性、亜急性の原因によって生ずる骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷などを学ぶ。そのため、その基礎をなす運動器系の解剖学を十分に理解する必要がある。ここでは、骨学として、骨の役割・構造・発生を理解した上で、人体を構成する骨の名称・部位名を学ぶ。また、靱帯学として、関節の一般構造を理解した後に、各関節の構成、補強靱帯などを学んでいく。さらに、筋系として、各骨格筋の起始・停止・作用・神経支配を理解する。				
回	テ ィ マ および 内 容				担当教員名
1	講義の進め方、骨の種類				成瀬 秀夫
2	骨学総論				
3	靱帯学（関節学）総論				
4	上肢の骨				
5	上肢の関節				
6	上肢の骨と上肢の関節（模型観察）				
7	下肢の骨				
8	下肢の関節				
9	下肢の骨と下肢の関節（模型観察）				
10	脊柱を構成する骨				
11	脊柱の連結				
12	胸郭を構成する骨とその連結				
13	頭蓋の骨（1）				
14	頭蓋の骨（2）				
15	定期試験および授業のまとめ				
16	筋系総論				
17	上肢帯筋、上腕の筋				
18	前腕の筋（1）				
19	前腕の筋（2）、手の筋				
20	上肢の筋（模型観察）				
21	下肢帯筋、大腿の筋				
22	下腿の筋				
23	足の筋				
24	下肢の筋（模型観察）				
25	頭部の筋				
26	頸部の筋				
27	胸部の筋				
28	腹部の筋				
29	背部の筋				
30	定期試験および授業のまとめ				
教科書	・『解剖学』 全国柔道整復学校協会（医歯薬出版） ・『柔道整復学 理論編』 全国柔道整復学校協会：全国柔道整復学校協会（南江堂）				
参考書等	・『解剖学 コメディカルのための専門基礎分野テキスト』 五味敏昭：岸清（中外医学社） ・『解剖学問題集5073』（犀書房） ・『解剖学用語』 日本解剖学会編（丸善）				
成績評価基準	定期試験、小テスト、出席状況および授業態度を総合的判断し、評価します。				
受講上の 注意事項	柔道整復学の基礎となる科目であり、十分に学習・理解した上で、臨床柔道整復学や柔道整復実技を学ぶ必要があります。				

専門科目（基礎柔道整復学）

授業科目名	骨の損傷概論	開講時期	2年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	櫻井 敬晋	授業形態	講義	単位数／時間数	4単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	骨の損傷（骨折）は柔道整復学において、主体をなす分野である。ここでは部位別の骨折学を学ぶ上で基礎となり、また原理・原則をなす骨折の概論を学ぶ。骨折の定義、分類（骨損傷の程度による分類、外力の働き方による分類など）、症状（一般外傷症状と骨折の固有症状）、合併症（併発症・続発症・後遺症）、骨折の治癒経過、骨折の治療原則などを学ぶとともに、小児骨損傷・高齢者骨損傷の特徴を理解する。				

専門科目（基礎柔道整復学）

授業科目名	関節の損傷概論	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	中澤 正孝	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	関節の損傷（脱臼）は、骨折とともに柔道整復学において、主要な分野である。ここでは部位別の脱臼学を学ぶ上で基礎となり、また原理・原則をなす脱臼の概論を学ぶ。脱臼の定義、分類（関節の性状による分類、脱臼の時期による分類、頻度と機序による分類など）、症状（一般外傷症状と脱臼の固有症状）、合併症、脱臼の整復障害因子、経過と予後、脱臼に対する整復法の一般原則などを理解する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	関節の形態と機能				中澤 正孝
2	関節損傷の概説と分類				
3	損傷される組織と鑑別診断を要する類症				
4	関節構成組織損傷 (1) 靱帯と関節包の損傷				
5	関節構成組織損傷 (2) 関節軟骨損傷				
6	関節構成組織損傷 (3) その他関節構成組織の損傷				
7	脱臼概論 (1)				
8	脱臼概論 (2)				
9	筋の形態と機能				
10	筋の損傷				
11	腱の損傷				
12	神経の形態と機能				
13	神経の損傷				
14	血管、リンパおよび皮膚の損傷				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『柔道整復学 理論編』 全国柔道整復学校協会：全国柔道整復学校協会（南江堂）				
参考書等	『神中整形外科学 上巻』 神中正一（南山堂） 『分担解剖学：総説・骨学・靱帯学・筋学 第1巻』（金原出版）				
成績評価基準	定期試験および出席状況により判定する。				
受講上の 注意事項	柔道整復理論の他に解剖に関する内容も含まれているため、運動器系の解剖学書を参考にして下さい。				

専門科目（基礎柔道整復学）

授業科目名	軟部組織損傷概論	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	久米 信好	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	柔道整復師は臨床の場において、骨折、脱臼のほか、筋・腱・靱帯・血管・神経などの損傷にも遭遇する。ここでは種々な筋・腱・靱帯の損傷を学ぶ上で基礎となる事項を理解する。筋・腱・靱帯の形態・構造・機能を学び、筋損傷、腱損傷、靱帯損傷の種類、症状、治癒経過を理解する。さらに、末梢神経の構造、神経損傷の分類・症状、神経損傷の治癒機序や血管損傷の分類・症状などを理解する。				

専門科目（基礎柔道整復学）

授業科目名	後療法学	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	小山 浩司	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	柔道整復学、特に骨折や脱臼においては整復・固定とともに、後療法は機能的な予後に大きな影響を与える。また、軟部組織損傷においても後療法は重要である。まず、手技療法の種類・応用・禁忌を学ぶとともに、運動療法として運動の基本型、全身運動療法、適応と禁忌を学ぶ。さらに、物理療法として、電気療法（低周波電気療法など）、寒冷療法、光線療法（赤外線療法など）、温熱療法（極超短波療法、超音波療法など）の種類とそれらの適応と禁忌について理解する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	後療法の意義・必要性・種類				小山 浩司
2	手技療法（1）				
3	手技療法（2）				
4	運動療法（1）				
5	運動療法（2）				
6	物理療法総論				
7	赤外線療法・低周波療法				
8	極超短波療法・超音波療法				
9	ホットパック・パラフィン療法				
10	寒冷療法				
11	脊椎牽引療法				
12	後療法の実際（1）				
13	後療法の実際（2）				
14	後療法の実際（3）				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『柔道整復学 理論編』 全国柔道整復学校協会：全国柔道整復学校協会（南江堂）				
参考書等	『リハビリテーション医学』 全国柔道整復学校協会（南江堂） 『リハビリテーション技術全書』 服部一郎他（医学書院） 『アスレティックリハビリテーション 専門テキスト⑦』 財団法人 日本体育協会				
成績評価基準	定期試験、出席状況および授業態度を総合判断し、判定する。				
受講上の 注意事項					

専門科目（臨床柔道整復学）

授業科目名	上肢の骨折理論	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	福田 格	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	1 年次で学んだ骨損傷の概論を基礎として、ここでは上肢の骨折について部位別に理解していく。 鎖骨骨折、肩甲骨骨折、上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折、上腕骨顆上骨折、上腕骨外顆骨折、 肘頭骨折、橈骨頭・頸骨折、モンテギア骨折、前腕骨骨幹部骨折、コーレス骨折、スミス骨折、舟状 骨骨折、中手骨骨折、指骨骨折などの骨折の発生機序、骨片転位、臨床症状、合併症、整復法、固定 法、後療法について、理論的に学んでいく。				

専門科目（臨床柔道整復学）

授業科目名	下肢・体幹の骨折理論	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	久米 信好	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	1 年次で学んだ骨の損傷概論を基礎として、ここでは下肢・体幹の骨折について部位別に理解して いく。骨盤骨骨折、大腿骨頸部骨折、大腿骨骨幹部骨折、大腿骨顆上骨折、膝蓋骨骨折、脛骨顆部骨 折、下腿骨骨幹部骨折、足関節果部骨折、踵骨骨折、中足骨骨折、脊椎骨折などの骨折の発生機序、 骨片転位、臨床症状、合併症、整復法、固定法、後療法について、理論的に学んでいく。				

専門科目（臨床柔道整復学）

授業科目名	上肢の脱臼理論	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	福田 格	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	1 年次で学んだ関節の損傷概論を基礎として、ここでは上肢の脱臼について部位別に理解していく。肩鎖関節脱臼、胸鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼、橈骨手根関節脱臼、下橈尺関節脱臼、月状骨脱臼、中手指節関節脱臼、指節間関節脱臼などの脱臼の発生機序、臨床症状、合併症、整復法、固定法、後療法について、理論的に学んでいく。				

専門科目（臨床柔道整復学）

授業科目名	下肢・体幹（顎関節を含む）の脱臼理論	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	櫻井 敬晋	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	1 年次で学んだ関節の損傷概論を基礎として、ここでは下肢・体幹（顎関節を含む）の脱臼について部位別に理解していく。股関節脱臼、膝蓋骨脱臼、膝関節脱臼、足関節脱臼、リスフラン関節脱臼、中足趾節関節脱臼、趾節間関節脱臼、顎関節脱臼などの脱臼の発生機序、臨床症状、合併症、整復法、固定法、後療法について、理論的に学んでいく。				

専門科目（臨床柔道整復学）

授業科目名	軟部組織損傷各論	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	関 寛之	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／60 時間
授業の目的 および 到達目標	1 年次で学んだ軟部組織損傷概論を基礎として、ここでは軟部組織損傷について部位別に理解していく。腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷、肩関節周囲炎、上腕部の軟部組織損傷、上腕骨外側上顆炎、上腕骨内側上顆炎、肘内側側副靱帯損傷、マレットフィンガー、ばね指、ド・ケルバン病などの発生機序、臨床症状、治療法などについて、理論的に学んでいく。				

専門科目（臨床柔道整復学）

授業科目名	画像診断学	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	柚木 脩	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30 時間
授業の目的 および 到達目標	柔道整復師が医師との連携により治療にあたる際、画像診断の基礎的事項を理解しておく必要がある。骨折、脱臼や軟部組織損傷を診断するにあたり、発生機序や臨床症状とともに、X 線画像、MRI 画像や超音波画像が重要な手がかりとなる。ここでは、主要な関節の X 線画像の見方、主な骨折・脱臼・骨腫瘍の X 線画像、正常な MRI 画像の見方、腰椎椎間板ヘルニアや膝関節障害（半月損傷、靱帯損傷）の MRI 像、骨格筋の超音波画像の見方などについて学ぶ。				

専門科目（臨床柔道整復学）

授業科目名	運動器系の解剖総合演習	開講時期	4年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	成瀬 秀夫	授業形態	演習	単位数／時間数	1単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	3年間で学んだ柔道整復学のうち、特に骨学、靱帯学、筋学などの運動器について、総合的に演習しながら、理解を深めていく。骨組織の光学顕微鏡観察、骨の構造、各関節の関節包・靱帯、骨格筋の起始・停止・作用・神経支配の復習、骨格筋の3次元的な理解とともに、演習・ディスカッションにより確かな知識を確立していく。				

専門科目（臨床柔道整復学）

授業科目名	骨折理論総合演習	開講時期	4年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	柚木 脩	授業形態	演習	単位数／時間数	1単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	3年間で学んだ柔道整復学のうち、特に骨折理論について、総合的に演習しながら、理解を深めていく。鎖骨骨折、上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折、上腕骨顆上骨折、上腕骨外顆骨折、肘頭骨折、モンテギア骨折、コーレス骨折、スミス骨折、舟状骨骨折、中手骨骨折、大腿骨頸部骨折、大腿骨骨幹部骨折、足関節果部骨折などについて、演習・ディスカッションにより確かな知識を確立していく。				

専門科目（臨床柔道整復学）

授業科目名	脱臼理論総合演習	開講時期	4 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	柚木 脩	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	3 年間で学んだ柔道整復学のうち、特に脱臼理論について、総合的に演習しながら、理解を深めていく。顎関節脱臼、肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼、橈骨手根関節脱臼、下橈尺関節脱臼、月状骨脱臼、中手指節関節脱臼、指節間関節脱臼、股関節脱臼、膝蓋骨脱臼、膝関節脱臼、足関節脱臼、リスフラン関節脱臼、中足趾節関節脱臼、趾節間関節脱臼などについて、演習・ディスカッションにより確かな知識を確立していく。				

専門科目（臨床柔道整復学）

授業科目名	軟部組織損傷総合演習	開講時期	4 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	関 寛之	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	3 年間で学んだ柔道整復学のうち、特に軟部組織損傷の理論について、総合的に演習しながら、理解を深めていく。筋・腱・靱帯の光学顕微鏡観察を行い、腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷、肩関節周囲炎、上腕部の軟部組織損傷、上腕骨外側上顆炎、上腕骨内側上顆炎、肘内側側副靱帯損傷、マレットフィンガー、ばね指、ド・ケルバン病などについて、演習・ディスカッションにより確かな知識を確立していく。				

専門科目（柔道整復実技（臨床実習を含む））

授業科目名	包帯実技	開講時期	1 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	小山 浩司	授業形態	実習	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	骨折、脱臼、軟部組織損傷の保存的治療の固定においては、高度な包帯法の技術が要求される。基本包帯法（環行帯、亀甲帯、麦穂帯、折転帯など）、冠名包帯法（デゾー包帯など）、部位別包帯法、三角巾による提肘、さらしによる固定法、各種固定材料の作製法と固定の実際について学ぶ。1 年間にわたる包帯実技により、治療目的に対して合理的で、見た目も美しく、均一な圧で心地よい包帯が巻けるようになることを目指す。				
回	テ ィ マ および 内 容				担当教員名
1	固定の目的、固定材料の種類				小山 浩司
2	巻軸帯の巻き方および巻き戻し				
3	基本包帯 (1)				
4	基本包帯 (2)				
5	冠名包帯法：デゾー包帯①				
6	冠名包帯法：デゾー包帯②				
7	冠名包帯法：ヴェルポー包帯				
8	冠名包帯法：ジュール包帯				
9	部位別包帯法：頭部・顔面部①				
10	部位別包帯法：頭部・顔面部②				
11	部位別包帯法：肩部①				
12	部位別包帯法：肩部②				
13	部位別包帯法：肘部・前腕部				
14	前学期復習				
15	定期試験および授業のまとめ				
16	部位別包帯法：手関節部・手指部				
17	部位別包帯法：股関節部・大腿部				
18	部位別包帯法：膝関節部				
19	部位別包帯法：下腿部				
20	部位別包帯法：足関節部・足指部				
21	部位別包帯法：胸部・背部				
22	三角巾および晒による固定				
23	固定材料の作製と固定例：厚紙副子・すだれ副子				
24	固定材料の作製と固定例：金属副子				
25	固定材料の作製と固定例：ギプス				
26	テーピング (1)				
27	テーピング (2)				
28	テーピング (3)				
29	後学期復習				
30	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『包帯固定学』 全国柔道整復学校協会：全国柔道整復学校協会（南江堂） 『柔道整復学：実技編』 全国柔道整復学校協会：全国柔道整復学校協会（南江堂）				
参考書等					
成績評価基準	定期試験、出席状況および授業態度を総合判断し、判定する。				
受講上の 注意事項					

専門科目（柔道整復実技（臨床実習を含む））

授業科目名	上肢の骨折実技Ⅰ	開講時期	3 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	佐奈木 篤司	授業形態	実習	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	1 年次で学んだ骨の損傷概論、2 年次で学んだ部位別の上肢の骨折の理論を基礎として、ここでは鎖骨骨折、肩甲骨骨折、上腕骨骨頭骨折、上腕骨解剖頸骨折、上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折、上腕骨顆上骨折、上腕骨外顆骨折、上腕骨内側上顆骨折などの骨折の整復法・固定法について、実技により学んでいく。				

専門科目（柔道整復実技（臨床実習を含む））

授業科目名	上肢の骨折実技Ⅱ	開講時期	3 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	福田 格	授業形態	実習	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	1 年次で学んだ骨の損傷概論、2 年次で学んだ部位別の上肢の骨折の理論を基礎として、ここでは肘頭骨折、橈骨頭骨折、橈骨頸骨折、モンテギア骨折、前腕骨骨幹部骨折、コーレス骨折、スミス骨折、舟状骨骨折、ボクサー・ベンネット骨折、中手骨骨折、指骨骨折などの骨折の整復法・固定法について、実技により学んでいく。				

専門科目（柔道整復実技（臨床実習を含む））

授業科目名	下肢の骨折実技	開講時期	3 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	根本 恒夫	授業形態	実習	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	1 年次で学んだ骨の損傷概論、2 年次で学んだ部位別の下肢の骨折の理論を基礎として、ここでは大腿骨頸部骨折、大腿骨骨幹部骨折、大腿骨顆上骨折、膝蓋骨骨折、脛骨上端部骨折、下腿骨骨幹部骨折、足関節部骨折、踵骨骨折、中足骨骨折、趾骨骨折などの骨折の整復法・固定法について、実技により学んでいく。				

専門科目（柔道整復実技（臨床実習を含む））

授業科目名	体幹の骨折実技	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	根本 恒夫	授業形態	実習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	1 年次で学んだ骨の損傷概論、2 年次で学んだ部位別の体幹の骨折の理論を基礎として、ここでは肋骨骨折、胸骨骨折、脊椎骨折、骨盤骨骨折などの骨折の整復法・固定法について、実技により学んでいく。				

専門科目（柔道整復実技（臨床実習を含む））

授業科目名	上肢の脱臼実技	開講時期	3 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	本間 琢英	授業形態	実習	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	1 年次で学んだ関節の損傷概論、2 年次で学んだ部位別の上肢の脱臼の理論を基礎として、ここでは肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼、橈骨手根関節脱臼、下橈尺関節脱臼、月状骨脱臼、中手指節関節脱臼、指節間関節脱臼などの脱臼の整復法・固定法について、実技により学んでいく。				

専門科目（柔道整復実技（臨床実習を含む））

授業科目名	下肢（顎関節を含む）の脱臼実技	開講時期	4 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	本間 琢英	授業形態	実習	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	1 年次で学んだ関節の損傷概論、2 年次で学んだ部位別の下肢の脱臼の理論を基礎として、ここでは股関節脱臼、膝蓋骨脱臼、膝関節脱臼、足関節脱臼、リスフラン関節脱臼、中足趾節関節脱臼、趾節間関節脱臼、顎関節脱臼などの脱臼の整復法・固定法について、実技により学んでいく。				

専門科目（柔道整復実技（臨床実習を含む））

授業科目名	軟部組織損傷の実技	開講時期	4 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	小山 浩司	授業形態	実習	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	1 年次で学んだ軟部組織損傷概論、2 年次で学んだ部位別の軟部組織損傷各論を基礎として、ここでは腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷、肩関節周囲炎、上腕部の軟部組織損傷、上腕骨外側上顆炎、上腕骨内側上顆炎、肘内側側副靱帯損傷、マレットフィンガー、ばね指、ド・ケルバン病などの軟部組織損傷の徒手検査法・治療法について、実技により学んでいく。				

専門科目（柔道整復実技（臨床実習を含む））

授業科目名	臨床実習 I	開講時期	2 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	成瀬 秀夫 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／45時間
授業の目的 および 到達目標	実際の臨床実習の前段階として、医療人としての倫理観、医療人に相応しい服装・容姿・態度・マナー・話し方、柔道整復師の業務範囲と医療機関との連携などについて学ぶとともに、3 年次・4 年次に実施される実際の臨床実習がより有意義なものとなるよう臨床現場で必要な基本的知識を学習する。 (成瀬 秀夫・小山 浩司・櫻井 敬晋・中澤 正孝)				

専門科目（柔道整復実技（臨床実習を含む））

授業科目名	臨床実習Ⅱ	開講時期	3年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	中澤 正孝 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	1単位／45時間
授業の目的 および 到達目標	2年次に実施した臨床実習事前トレーニングを踏まえ、3年次では、大学付属接骨院（臨床実習施設）において、指導教員の指示の下、種々の疾患に対する問診法、触診法、検査法および治療法について見学実習する。少人数で実習し、毎回レポートの提出、自己評価と指導教員による評価を行うとともに、カンファレンスを経験させ、患者の症状、治療法および予後等について理解できるようにする。 （中澤 正孝・小山 浩司・櫻井 敬晋）				

専門科目（柔道整復実技（臨床実習を含む））

授業科目名	臨床実習Ⅲ	開講時期	4年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	中澤 正孝 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	1単位／45時間
授業の目的 および 到達目標	2年次での臨床実習事前演習、3年次での学内付属接骨院での見学実習、さらに3年次までに学んだ講義および実技実習を踏まえ、4年次では学内の付属接骨院およびクリニックでの実習に加え、学外の整形外科医院および接骨院での見学実習を実施する。多くの診察法・治療法に触れそれらを学ぶとともに、患者の症状・治療法および予後等について説明することができるようにする。 （中澤 正孝・小山 浩司・櫻井 敬晋）				

専門科目（卒業研究）

授業科目名	卒業研究	開講時期	4 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	関 寛之	授業形態	演習	単位数／時間数	4 単位／120時間
授業の目的 および 到達目標	4 年間学んできた中で、自身が最も関心をもった事項につき、主体的にテーマを設定し、担当教員の指導の下で、当該分野の過去の論文を検索して検討するとともに、自ら種々な研究技法を用いて論文としてまとめていく。また、研究成果を口述やポスターなどの形式で発表経験することで、プレゼンテーションの方法や技法を学ぶ。 （関 寛之・柚木 脩・荒井 裕一郎・鈴木 秀一・寺井 政憲・成瀬 秀夫・木村 明彦・久米 信好・高橋 康輝・橋本 昇・小山 浩司・櫻井 敬晋・徳安 秀正・笹木 正悟）				

3 .

アスレティックトレーナー・
スポーツプログラマー・
健康運動実践指導者科目

(共通科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	スポーツ社会学	開講時期	2 年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	田蓑 健太郎	授業形態	講義	単位数/時間数	1 単位/15 時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、今やスポーツは人々の生活に分かちがたく深く切り結んでいるが、スポーツは単独で存在しているのではなく、社会事象の一部として存在する。したがって、スポーツを社会学的に理解しようとするとき、社会事象を踏まえることが必要不可欠である。とりわけ、現代の我が国に焦点を当てると、価値観の多様化、少子高齢化は、スポーツの側面からも看過することのできないものである。 そこで、本講義では、スポーツを歴史・文化・社会の側面から捉えることによって、現代社会におけるスポーツの機能と果たすべき役割について学習することによって、スポーツについて理解を深めるものである。				

(共通科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	スポーツ経営学	開講時期	2 年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	田中 宏和 他	授業形態	講義 (オムニバス)	単位数/時間数	1 単位/15 時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、わが国における行政とスポーツのかかわりの現状と課題について認識を深める。またスポーツ組織の経営や運営に必要な基礎的知識について学習するとともに、スポーツに関わる現代的課題について解説する。 (時本 識次/2 回) 我が国のスポーツ振興政策と行政とスポーツのかかわりについて教授する。 (田中 宏和/5.5 回) 地域スポーツクラブや広域スポーツセンターの機能と役割、スポーツ組織の運営、スポーツ事業の計画・運営・評価について教授する。				

(共通科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	競技者育成システム論	開講時期	2 年次・後学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	堀野 博幸	授業形態	講義	単位数/時間数	1 単位/15 時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、競技者育成システムという観点から、将来性豊かな競技者をいち早く「見つけ・育て・世界で活躍させる」ための長期的展望に立脚した指導計画の重要性を認識させる。講義のポイントとして 1 週間、1 年間などの一定期間内に行う指導を、どのように実施するかを示す指導計画立案に含まれるべき内容、項目の理解、さらに一定期間内だけではなく、将来、競技者として最高のパフォーマンスを発揮できるようにするために、指導計画に考慮すべき内容、項目を理解させる。				

(共通科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	発育発達論	開講時期	3 年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	広瀬 統一	授業形態	講義	単位数/時間数	1 単位/15 時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、子どもの発育発達特性、スポーツ活動・運動が子どもの心身の成長に与える影響、発育発達期に過重負荷をかけることによる弊害などについて学習し、子どもたちのスポーツ活動・運動のあり方についての理解を深める。講義のポイントとして、発育発達過程の一般的ステージ分け（スキヤモンの発育発達曲線）の理解や各ステージにおける身体的特徴や心理的特徴を理解させる。また、老化と体力運動能力、作業能力についてや、体力に及ぼす先天性や後天性の要因についても理解させる。				

(共通科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	スポーツ心理学総論	開講時期	2 年次・後学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	堀野 博幸	授業形態	講義	単位数/時間数	1 単位/15時間
授業の目的 および 到達目標	本科目ではスポーツ行動を構成する心理学的諸要因と、それら諸要因の相互関係あるいは構造の理解を図る。具体的な内容として、「パフォーマンスの向上」と「スポーツへの適応」をスポーツ心理学アプローチによって考察する。また、生活習慣病予防の行動変容やなりやすい性格、行動パターン、ストレス解消の生理・心理・社会的側面を理解させるとともにスポーツ相談についても学ばせる。				

(共通科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	コーチング論	開講時期	2 年次・後学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	前山 定	授業形態	講義	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目は、国民の一人一人が、豊かで活力のある生活・暮らしを目指し、生涯を通じたライフステージにおいて、自己の能力・適正・興味・関心など、主体的にスポーツ文化を豊かに享受することのできるスポーツを構築していくという社会、いわゆる生涯スポーツ社会を実現していくための助言者と成りえるための知識を理解、習得させる。				

(共通科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	トレーニング科学総論	開講時期	2 年次・後学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	高橋 康輝 他	授業形態	講義 (オムニバス)	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、体力と体力の諸要素を高めるためのトレーニングについて学習する。体力とは大きく身体的要素と精神的要素があり、それぞれに「防衛力」としての体力と、「行動力」としての体力に分けられる。この概念を把握するとともに、さまざまな体力の特性や分類について理解を深める。またトレーニングを実行する際の効果的なトレーニング処方や、ウォーミングアップとクーリングダウンの目的、方法を理解する。さまざまなバリエーションがあるトレーニングを形態別、体力要素別に分類し、それによって得られる効果の違いを理解させるとともに指導者が専門種目に必要な体力要素を強化できるよう、さまざまなトレーニングの目的、方法を正しく理解させる。 (高橋 康輝/3 回) 体力についてとトレーニングの種類や進め方について教授する。 (伊藤 良彦/6 回) トレーニング理論とその方法、トレーニング計画とその実際、体力テストについて教授する。 (22年度以降就任予定/6 回) スポーツバイオメカニクスの基礎、スキルの獲得やその習得過程においても教授し理解させる。				

(共通科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	スポーツ医学総論	開講時期	2 年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	柚木 脩 他	授業形態	講義 (オムニバス)	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、スポーツと健康を中心に外科系ではスポーツ活動中の外傷・障害について、内科系では内科的障害や健康管理、アンチドーピングについて学ばせる。またアスレティックリハビリテーションからコンディショニングの基本を学ばせる。 (柚木 脩/3 回) アスリートの健康管理としてメディカルチェックの意義、必要性、その内容、実施方法などについて理解させる。 (辻 秀一/4 回) アスリートの内科的障害と対策として、スポーツ活動中に起きやすい内科的障害とそれに対する具体的な予防法、対処法を理解させる。 (小出 清一/4 回) アスリートの外傷・障害と対策として、スポーツ活動中に起きやすい外傷・障害を各部位ごとに理解するとともに、その予防法や対処法、テーピング、ストレッチング、アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画として、スポーツ活動によって生じた傷害からスポーツ復帰へ向けてのリハビリテーションに関する基礎的な知識を理解させる。 (辻 秀一/4 回) アスリートの精神障害と対策として、アスリートは過剰なストレスによる精神的な障害も起り得るということを理解し、適切な対応ができるよう学習する。特殊環境下での対応として、特殊環境(高所、高圧、低圧、暑熱)での疾患の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する処置、予防措置について理解させる。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	アスレティックトレーナーの役割	開講時期	2 年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	泉 秀幸 他	授業形態	講義 (オムニバス)	単位数/時間数	1 単位/30 時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、アスレティックトレーナーの変遷と日本体育協会が掲げるアスレティックトレーナーの役割を学ばせる。 (泉 秀幸/4 回) スポーツ環境におけるアスレティックトレーナーの役割とその業務を具体的に示し、日体協公認アスレティックトレーナー養成の歴史的背景や趣旨、設立に至った背景および諸外国の状況を教授し理解させる。 (村木 良博/7 回) アスレティックトレーナーの組織的な活動に触れ、その位置づけや運営管理について学び、コーチ、スポーツドクターなどさまざまな分野の専門家といかに連携を取ってサポートしていく方法について教授し理解させる。 (溝口 秀雪/4 回) アスレティックトレーナーが現場で活動する上で必要な知識を養うとともに、社会的秩序やアスレティックトレーナーと倫理について教授し、倫理観を身につけさせるよう学ばせる。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	トレーニング科学	開講時期	4 年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	伊藤 良彦	授業形態	講義	単位数/時間数	1 単位/30 時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、競技者のパフォーマンス向上に必要なトレーニングとは何か。各トレーニングの目的・効果・方法を理解し、正確に指導できる知識を身につける。また、トレーニング計画を立てる際に、トレーニング環境や負荷の増減、疲労などの問題があることを理解し、それらに対する対処・解決策を身につける。また講義の中で実技指導を実施し、スポーツ選手をサポートする現場で役立つ知識を習得させる。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	スポーツ・バイオメカニクス	開講時期	3年次・後学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	22年度以降就任予定	授業形態	講義	単位数/時間数	1単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、スポーツにおける身体運動を力学的立場から検証し、スポーツ技能の理解や、スポーツ技術の分析力、批判力、創造力を高めることを目的とする。講義のポイントとして、バイオメカニクスの基礎や走る、跳ぶ、投げる、泳ぐ、蹴る、滑る、押す、回る、打つバイオメカニクスを中心に、運動の力学的な捉え方を学習することで、動きの記述、動きの原因の説明、動きの改善や最適化、良い動きの創造などスポーツの分析的な考察ができるようにする。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	運動生理学	開講時期	3年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	高橋 康輝	授業形態	講義	単位数/時間数	1単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、運動器の構造、機能と機能解剖に関する基礎的知識を理解し、身体を動かす運動器の働きを系統的に学び、スポーツに関するよりよい動作の獲得の手がかりを得る。講義のポイントとして、筋肉、骨、関節、神経に関する基本的知識とそれぞれがどのようにつながり、動きをおこさせているかを理解させる。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	スポーツ心理学	開講時期	4 年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	堀野 博幸	授業形態	講義	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、スポーツ行動を構成する心理学的諸要因と、それら諸要因の相互関係あるいは構造の理解を図る。具体的には、スポーツ活動や運動を行うことによって、気分や自己概念、パーソナリティーなどに関する長期的、短期的効果がもたらされることについての理解やスポーツ活動や運動に対する考え方や活動（行動）は、その人のもつ性格や、おかれている環境によって大きく異なること、また、それらの相違はスポーツ・運動の選択、さらにはスポーツ・運動のパフォーマンスにも影響することなどについて学習する。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	運動器の解剖と機能	開講時期	3 年次・後学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	小出 清一	授業形態	講義	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、基礎解剖学を踏まえ、運動器の解剖と機能を中心に、運動器の構造と機能、関節・骨格筋の構造と機能を理解させる。体幹の基礎解剖と運動では脊柱、頸椎、胸郭、腰椎、骨盤の運動について学ぶ。上肢の基礎解剖と運動では、上肢帯、肩関節、肘関節、手関節・手部の運動について学ぶ。下肢の基礎解剖と運動では股関節、膝関節、足関節・足部について学ぶことにより、アスレティックトレーナーが行う、競技者の動作の運動学的観察、スポーツ障害の評価、原因の同定、アスレティックリハビリテーションなどのトレーナー活動に最低限必要な人体の構造と機能について理解させる。そのために、運動器の骨、筋、靱帯、関節、神経支配と身体運動とを関連づけて学習することをねらいとする。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	スポーツ外傷障害の基礎知識	開講時期	3 年次・後学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	柚木 脩 他	授業形態	講義 (オムニバス)	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、アスレティックトレーナーがトレーナー活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎的知識について理解する。そのために上肢・下肢・体幹の主なるスポーツ外傷の病態、評価方法および重篤な外傷（頭部、脊髄損傷、大出血など）、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得させる。 （柚木 脩／4 回）総論と体幹のスポーツ外傷・障害について教授し理解させる。 （小出 清一／4 回）上肢のスポーツ外傷・障害について教授し理解させる。 （田淵 健一／4 回）下肢のスポーツ外傷・障害について教授し理解させる。 （福林 徹／3 回）重篤な外傷や年齢・性別による特徴、スポーツ整形外科的メディカルチェックについて教授する。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	健康管理とスポーツ医学	開講時期	3 年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	赤間 高雄 他	授業形態	講義 (オムニバス)	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、アスリートにみられる内臓器官の疾患（病気）、感染症（呼吸器、血液、皮膚）、病的現象（オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群など）、特殊環境下（高所、高圧、低圧、暑熱）での疾患の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する処置、予防措置について理解させる。またドーピングコントロールとして、アンチドーピングの目的、ドーピングの定義、禁止される物質の種類、注意すべき市販薬、事前申告を必要とする薬物、ドーピング・コントロール・ステーション同伴時の留意事項などを学び、スポーツ選手に指導することができるようにする。 （赤間 高雄／6 回）アスリートにみられる内臓器官の疾患や病的現象、感染症に対する対策について理解させる。 （辻 秀一／9 回）特殊環境のスポーツ医学や年齢・性別による特徴について教授する。内科的メディカルチェックとドーピングコントロールについて教授し理解させる。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	身体の検査・測定と評価 (体力測定を含む)	開講時期	2 年次・後学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	高橋 康輝 他	授業形態	実習 (オムニバス)	単位数/時間数	1 単位/30 時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となる検査・測定手技について、その目的と意義を理解し、実技ができるまでの能力を習得することをねらいとする。具体的には、姿勢、身体アライメントの観察と計測、関節可動域、関節弛緩性の計測、徒手筋力検査、身体組成の測定、機器を用いた筋力および筋持久力の検査測定手法を習得させる。 (広瀬 統一/8 回) アスレティックトレーナーに必要な評価と全身持久力、敏捷性身体組成や体力測定について教授し理解させる。 (高橋 康輝・笹木 正悟/7 回) スポーツ動作の観察と分析について理解させる。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	予防とコンディショニング I	開講時期	3 年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	泉 秀幸 他	授業形態	講義 (オムニバス)	単位数/時間数	1 単位/30 時間
授業の目的 および 到達目標	本科目ではコンディショニングの概念を理解し、スポーツ実践者（競技者）が目標とする競技活動において最高のパフォーマンスを発揮するための要因、具体的な方法の実際を理解させる。また、傷害予防のためのアプローチ、そのための環境づくりの方法やコンディショニングの方法と実際についても理解させる。 (村木 良博/5 回) コンディショニングの把握と管理について教授する。 (石山 信男/5 回) 競技力向上を目的としたコンディショニングの方法について教授する。 (泉 秀幸/5 回) フィットネス（基礎体力）テストやフィールドテストについて教授し理解させる。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	予防とコンディショニングⅡ (テーピング・ストレッチングを含む)	開講時期	3 年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	溝口 秀雪 他	授業形態	実習 (オムニバス)	単位数/時間数	1 単位/30 時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、コンディショニングの方法と実際として、ストレッチングの理論とその方法について学び、それを通して柔軟性の獲得、指導および教育ができるようにする。テーピングの理論とその方法を学ぶ。テーピングの際の注意点や基本のテーピングを理解するとともに身体各部位が巻けるようになる。またコンディショントレーニング（機能調整、回復、向上）である 1）代謝系トレーニング（有酸素（減脂肪、持久力向上）、無酸素）、2）筋力トレーニング、コーディネーショントレーニング、スタビリティトレーニング、アジリティトレーニングの指導ができるようにする。 （津田 清美・岩本 紗由美/5 回）障害予防を目的としたコンディショニングの方法としてストレッチングについて教授し実践できるようにする。 （茂木 奈津子/5 回）障害予防を目的としたコンディショニングの方法としてテーピングについて教授し実践できるようにする。 （溝口 秀雪・22 年度以降就任予定 1 名/5 回）疲労回復を目的としたコンディショニングの方法と実際について教授し理解させる。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	予防とコンディショニングⅢ	開講時期	4 年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	小山 浩司 他	授業形態	実習（オムニバス）	単位数/時間数	1 単位/30 時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、アスレティックリハビリテーションの施行にあたって不可欠な「競技種目特性とコンディショニング」についての習得を目的とし、競技種目特性に応じたアスレティックリハビリテーション指導の理解や、有効な指導ができるようにする。講義のポイントはスポーツ復帰の目標達成に要するアスレティックリハビリテーションの概要や具体的なプログラミングの過程と方法について各競技別に学ぶ。 （門馬 崇文/2 回）冬季系競技であるスキー競技やスケート競技のコンディショニング方法について教授する。 （増田 雄一/3 回）記録系競技で陸上競技や水泳競技のコンディショニング方法について教授する。 （古舘 昌宏・竹田 康成・石山 信男/7 回）球技系競技でサッカー競技、ラグビー競技やバレーボール、バスケットボール、テニス、野球競技のコンディショニング方法について教授する。 （小山 浩司/3 回）採点競技系の体操競技や格技系の柔道やレスリングのコンディショニング方法について教授する。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	アスレティック リハビリテーションⅠ	開講時期	3年次・後学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	加藤 知生 他	授業形態	講義 (オムニバス)	単位数/時間数	1単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、アスレティックリハビリテーションの意味を知り、その実践にあたって必要となる基礎的知識の習得をねらいとする。講義ポイントとして、アスレティックリハビリテーションの定義、歴史、現場におけるATの活動内容などの総論に加え、アスレティックリハビリテーションで用いる基本的手法（運動療法、物理療法）を理解させる。 （加藤 知生/10回）アスレティックリハビリテーション総論と運動療法（アスレティックリハビリテーションにおけるエクササイズ）基礎知識を教授する。 （関 寛之/3回）物理療法総論と温熱療法や寒冷療法、電気療法について教授する。 （板倉 尚子/2回）補装具についてと、アスレティックリハビリテーションで使用される装具について教授する。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	アスレティック リハビリテーションⅡ	開講時期	3年次・後学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	泉 秀幸 他	授業形態	実習 (オムニバス)	単位数/時間数	1単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、スポーツ活動によって生じた傷害からスポーツ復帰へ向けてのアスレティックリハビリテーションに関する基礎的な知識を理解することにより、スポーツドクター、アスレティックトレーナーとの緊密な連携を取った上でトレーニング計画を作成することの重要性について理解させる。講義ポイントとしてアスレティックリハビリテーションの基本的な進め方、受傷後から復帰までのアスリハプログラミングについて具体的な段階を理解させる。 （泉 秀幸/3回）体幹部の外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる。 （加藤 知生/6回）上肢部の外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる。 （板倉 尚子/6回）下肢部の外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	アスレティック リハビリテーションⅢ	開講時期	4年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	小山 浩司 他	授業形態	実習 (オムニバス)	単位数/時間数	1単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、アスレティックリハビリテーションの施行にあたって不可欠な「競技種目特性」についての習得を目的とし、競技種目特性に応じたアスレティックリハビリテーション指導の理解や、有効な指導ができるようにする。講義のポイントはスポーツ復帰の目標達成に要するアスレティックリハビリテーションの概要や具体的なプログラミングの過程と方法について学ぶ。 (増田 雄一/2回) 冬季系競技であるスキー競技やスケート競技の種目特性に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる。 (加藤 知生/3回) 記録系競技で陸上競技や水泳競技の種目特性に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる。 (広瀬 統一/7回) 球技系競技でサッカー競技、ラグビー競技やバレーボール、バスケットボール、テニス、野球競技の種目特性に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる。 (小山 浩司・笹木 正悟/3回) 採点競技系の体操競技や格技系の柔道やレスリングの種目特性に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる。				

(専門科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	スポーツ栄養学	開講時期	4年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	22年度以降就任予定	授業形態	講義	単位数/時間数	1単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、競技者に対する栄養指導の大切さを理解させるとともに、スポーツにおける栄養の役割と関係する栄養素との関連についての知識を高めるとともに競技者の望ましい食事およびトレーニングの目的にあった食事の取り方について理解を深める。また、合宿、遠征などの特殊環境下における栄養ケア、サプリメントの正しい選び方と使用法について理解し、アスリートに対する管理ができるようにする。				

(健康運動実践指導者科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	エアロビック運動の実際Ⅰ	開講時期	2 年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	戸松 哲男 他	授業形態	実習 (オムニバス)	単位数/時間数	1 単位/30 時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、エアロビック運動とはどんな運動かを、エネルギー供給機構との関係で理解させるとともに、有酸素性作業能力を評価する指標としての最大酸素摂取量、無酸素性作業閾値の意義を理解させる。また実習として、エアロビックダンス一連の運動動作を実習し、それらの特徴と注意点を理解させる。 (伊藤 句里子/7 回) エアロビックダンスの特性と効果について理解させ実践指導できるように教授する。 (戸松 哲男/4 回) 高齢者の運動指導について理解させ実践指導できるように教授する。 (長井 雅子/4 回) 障害者スポーツの運動指導について理解させ実践指導できるように教授する。				

(健康運動実践指導者科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	エアロビック運動の実際Ⅱ	開講時期	3 年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	徳安 秀正 他	授業形態	実習 (オムニバス)	単位数/時間数	1 単位/30 時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、運動強度と心拍出力、心拍数の関係、運動強度と肺換気量、呼吸数の関係を理解させるとともに、実習として、運動プログラムを作成し、心拍数でそれぞれの強度を確かめ、性、年齢、体力との反応の違いを理解させる。また水泳・水中運動として、水の性質の理解や各種泳法を実習させ、指導上の留意点を理解させる。 (徳安 秀正・笹木 正悟/6 回) 水中・水泳運動の特性と効果について理解させ実践指導できるように教授する。 (長井 雅子・小柳 佑華/5 回) 球技系競技でサッカー競技、ラグビー競技やバレーボール、バスケットボール、テニスの運動や指導方法について理解させ実践指導できるようにする。 (笹木 正悟/2 回) 採点競技系の体操競技や格技系の柔道の運動や指導方法について理解させ実践できるように教授する。 (竹田 康成/2 回) 記録系競技の陸上の運動や指導方法について理解させ実践できるように教授する。				

(健康運動実践指導者科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	トレーニングの理論と実際	開講時期	2 年次・後学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	伊藤 良彦 他	授業形態	実習 (オムニバス)	単位数/時間数	1 単位/30 時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、補強運動の必要性とプログラムへの取り入れ方や目的に応じた体操の重要性とその方法、実施上の注意点を実習を通して説明し、指導法を学ばせる。またウェイトトレーニング・サーキットトレーニングの原則・効果・安全性について説明し、実習を通して効果的かつ安全に行えるよう指導法を学ばせる。 (伊藤 良彦/2 回) 補強運動としてのトレーニング方法やプログラミングについて教授する。 (岩本 紗由美/4 回) アイソメトリック・アイソキネティックトレーニングについて理解させ実践させる。 (伊藤 良彦/6 回) ウェイトトレーニングについて理解させ実践させる。 (岩本 紗由美/3 回) サーキットトレーニングや準備運動について理解させ実践させる。				

(健康運動実践指導者科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	健康づくりと運動プログラム	開講時期	2 年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	泉 秀幸 他	授業形態	実習 (オムニバス)	単位数/時間数	1 単位/30 時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、健康づくりのための運動プログラム作成上の原則を運動強度、時間、頻度の視点から理解させるとともに、スポーツを行わせる際の安全性と指導上の問題点を理解させる。トレーニングの原則と効果やウォーミングアップとクーリングダウンの方法やエアロビクス運動の理論についても学ぶ。また、スポーツ指導者の役割や障害者福祉や障害者スポーツ指導方法についても併せて学ばせる。 (戸松 哲男/2 回) 運動不足が健康や生活習慣病に与える影響を理解させ、トレーニングの原則や運動方法、プログラミング方法、ウォーミングアップやクーリングダウンについて教授し理解させる。 (伊藤 句里子/4 回) エアロビクス運動の理論について教授し理解させる。 (泉 秀幸/7 回) スポーツ指導者(健康運動実践指導者、スポーツプログラマー)の役割や障害者福祉論、障害者スポーツ指導員の役割について教授し理解させる。 (溝口 秀雪/2 回) スポーツマッサージについて理解させその方法について教授する。				

(アスレティックトレーナー現場実習科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	現場実習Ⅰ (見学実習)	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	自由
担当教員名	溝口 秀雪 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30 時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、スポーツ現場や医療機関においてスポーツドクターや指導者との連携、トレーナー室の施設、整備、運営方法やアスレティックトレーナーが担当する役割について学ばせる。また、スポーツ現場におけるアスレティックトレーナー業務、スポーツドクターの役割についてスポーツ関連施設を通して、スポーツと社会やその成り立ちについて学ばせる。 1. トレーニングルーム、スポーツ関連施設のについて見学させ理解させる。 2. アスレティックトレーナーのトレーナールームや医療の現場やスポーツの現場における業務内容を見学させ理解させる。 3. スポーツドクターの医療機関やスポーツの現場における業務内容を見学させ理解させる。 4. 各スポーツの練習や試合観戦を通し、競技ルールや現場におけるアスレティックトレーナーの業務について理解させる。				
回	テーマ および 内 容				担当教員名
1	現場実習オリエンテーション				溝口 秀雪 戸松 哲男 長井 雅子 茂木奈津子
2	大学附属臨床施設 施設見学				
3	体育施設 施設見学				
4	体育施設 施設見学および利用規定について				
5	トレーナー見学実習 ①				
6	トレーナー見学実習 ②				
7	トレーナー見学実習 ③				
8	トレーナー見学実習 ④				
9	トレーナー見学実習 ⑤				
10	トレーナー見学実習 ⑥				
11	トレーナー見学実習 ⑦				
12	トレーナー見学実習 ⑧				
13	トレーナー見学実習 ⑨				
14	トレーナー見学実習 ⑩				
15	まとめ				
教科書	『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』（日本体育協会） 『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会）				
参考書等	『アスレティックトレーニング：現場におけるケガの判断と対応、指導者の責務』 ロナルド・P. ファイファー：ブレント・C. マングス（ブックハウス・エイチディ）2000 『トレーナーズ・バイブル』 ウィリアム・E. プレンティス：ダニエル・D. アーンハイム（医道の日本社）2007 『スポーツ東洋療法ハンドブック』 東洋療法学校協会：福林徹（医道の日本社）2001				
成績評価基準	出席状況、授業態度およびレポートにより総合的に評価する。				
受講上の 注意事項	1）（財）日本体育協会公認アスレティックトレーナー実技検定試験の受験資格を得るためには、180 時間以上の現場実習を終了していることが条件となる。そのため、授業には必ず参加すること。 2） 現場実習に適した服装に着替えて受講すること。 3） 現場実習状況に応じて、授業計画は柔軟に変更することがある。				

(アスレティックトレーナー現場実習科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	現場実習Ⅱ (測定と評価、プログラミング)	開講時期	2 年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	笹木 正悟 他	授業形態	実習 (共同)	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、スポーツ外傷、評価、リハビリテーション手法に関する知識を統合させ、例題疾患へのアスレティックリハビリテーションの考え方と実際を学び、アスレティックリハビリテーションのプログラミングができるようになるとともに、身体的リスクに考慮し、安全で効率の良い方法が指導できるようスポーツ現場や医療機関を通して学ばせる。 1. スポーツ現場、医療現場、トレーナールームにおいて競技者の身体検査・測定と評価について教授し実践させる。 2. スポーツ現場、医療現場、トレーナールームにおいて各外傷・障害のアスレティックリハビリテーションプログラムについて教授し実践させる。 (笹木 正悟・泉 秀幸・津田 清美・伊藤 句里子・長井 雅子・門馬 崇文・大室 紫乃・22年度以降就任予定1名)				

(アスレティックトレーナー現場実習科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	現場実習Ⅲ (スポーツ現場実習)	開講時期	2 年次・後学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	泉 秀幸 他	授業形態	実習 (共同)	単位数/時間数	1 単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、日本体育協会が定めるトレーナーの役割（1. スポーツ外傷・障害の役割、2. スポーツ現場における救急処置、3. アスレティックリハビリテーション、4. コンディショニング、5. 測定と評価、6. 健康管理と組織運営、7. 教育的指導）を理解させ、トレーナーの役割を実践できるよう主にその基本を学ばせる。ストレッチング、テーピング、応急処置等について教本や実技実習で学んだことを、スポーツ現場や医療機関においてその実践法や応用的手法について学ばせる。 1. 医療の現場やトレーナールームにおいてストレッチング、テーピングや応急処置法について教授し実践させる。 2. 各競技スポーツの現場においてストレッチング、テーピングや応急処置法について教授し実践させる。 (泉 秀幸・笹木 正悟・津田 清美・伊藤 句里子・長井 雅子・門馬 崇文・大室 紫乃・22年度以降就任予定1名)				

(アスレティックトレーナー現場実習科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	現場実習Ⅳ (アスレティックリハビリテーション)	開講時期	3年次・前学期	必修/選択/自由	自由
担当教員名	泉 秀幸 他	授業形態	実習 (共同)	単位数/時間数	1単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、日本体育協会が定めるトレーナーの役割（1. スポーツ外傷・障害の役割、2. スポーツ現場における救急処置、3. アスレティックリハビリテーション、4. コンディショニング、5. 測定と評価、6. 健康管理と組織運営、7. 教育的指導）を理解させ、トレーナーの役割を実践できるよう主にその基本を学ばせる。ストレッチング、テーピング、応急処置等について教本や実技実習で学んだことを、スポーツ現場や医療機関においてその実践法や応用的手法について学ばせる。 1. 医療の現場やトレーナールームにおいてストレッチング、テーピングや応急処置法について教授し実践させる。 2. 各競技スポーツの現場においてストレッチング、テーピングや応急処置法について教授し実践させる。 (泉 秀幸・笹木 正悟・津田 清美・伊藤 句里子・長井 雅子・門馬 崇文・大室 紫乃・22年度以降就任予定1名)				

(アスレティックトレーナー現場実習科目) アスレティックトレーナー・スポーツプログラマー・健康運動実践指導者科目

授業科目名	現場実習Ⅴ (総合実習)	開講時期	3年次・後学期 3年次・集中	必修/選択/自由	自由
担当教員名	笹木 正悟 他	授業形態	実習 (共同)	単位数/時間数	2単位/60時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、日本体育協会が定めるトレーナーの役割（1. スポーツ外傷・障害の役割、2. スポーツ現場における救急処置、3. アスレティックリハビリテーション、4. コンディショニング、5. 測定と評価、6. 健康管理と組織運営、7. 教育的指導）を理解させ、トレーナーの役割を実践できるよう総合的に学ばせる。 現場実習1) 2) 3) 4) を段階的に学ばせ、総合実習としてスポーツ現場や医療機関において、これまでに学習してきた内容を含む包括的な実習を行う。またスポーツドクターやコーチ、選手を取り巻く関係者との連携、トレーナー室の施設、整備や運営方法についてもその基本を学ばせる。長期、中短期の練習スケジュールにあわせた競技者のコンディショニング、合宿や遠征、試合を通してスポーツ現場や医療機関において日本体育協会が定めるトレーナーの役割、スポーツドクターやコーチと緊密な連携を1. 医療の現場やトレーナールームにおいてアスレティックトレーナー業務全般について総合的に教授し実践させる。 各競技スポーツの現場においてトレーナールームにおいてアスレティックトレーナー業務全般について総合的に教授し実践させる。 (笹木 正悟・泉 秀幸・津田 清美・伊藤 句里子・長井 雅子・門馬 崇文・大室 紫乃・22年度以降就任予定1名)				

全学融合科目

共通基礎科目

鍼灸学科

専門基礎科目

専門科目

柔道整復学科

専門基礎科目

専門科目

健康運動実践指導者
アスレティック・スポーツ
コース・プログラム

看護学科

専門基礎科目

専門科目

Ⅲ．看護学部

1.

看護学科

専門基礎科目（人体の構造と機能）

授業科目名	人体の構造Ⅰ	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	佐藤 達夫	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	人体の正常な形態および構造について系統的に理解することを目的とする。看護学科で学ぶ多くの臨床医学を理解する上で解剖学の知識が必要となる。人体の構造Ⅰでは、概論、運動器系・循環器系・消化器系・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系・神経系・感覚器系を系統的に解剖学を学ぶ。2 次元的データだけではなく、さらに人体模型や立体映像等を用いて 3 次元的なイメージをつけさせ、個々の器官組織の構造機能だけでなく、各器官組織の関係性を学習させることによって、看護師・保健師にとって必要な、人体の構造の基本を理解させる。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	総論				佐藤 達夫
2	運動器（骨）				
3	運動器（筋）				
4	消化器				
5	呼吸器				
6	泌尿器				
7	生殖器				
8	内分泌器				
9	心臓・血管				
10	血管・リンパ系				
11	脊髄神経・自律神経				
12	脳神経				
13	脳・脊髄				
14	感覚器				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『入門人体解剖学』 藤田恒夫（南江堂）1999				
参考書等	『からだの地図帳』 高橋長雄（講談社）1989 『胸部の地図帳：人体スペシャル』 佐藤達夫（講談社）2008				
成績評価基準	定期試験、小テスト、出席状況等を総合判断して評価する。				
受講上の 注意事項	看護学の基礎となる科目であり、十分に学習し理解する必要がある。				

専門基礎科目（人体の構造と機能）

授業科目名	人体の構造Ⅱ	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	木村 明彦	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	人体の解剖学はきわめて多岐にわたる具体的な事実を記述した学問であり、人体の構造Ⅰで学んだ事項を、さらに医学教材（各種模型など）を用いて総合的・立体的に理解する必要がある。人体の構造Ⅱでは系統解剖学のみならず局所（臨床）解剖学・体表解剖学についても理解を深める。さらに、人体を構成する最小単位である細胞およびその集団である組織について顕微鏡解剖実習（組織学実習）を行う。また、注射・導尿・聴診などの看護師・保健師が行う業務に関する解剖学的知識を理解させるよう学ばせる。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1 ～ 10	1 回～10回の課題（詳細な課題内容・班分けは5月中に提示する） ①全身骨格、主用関節（骨交連＋関節模型） ②上肢＆下肢の筋および血管・神経（上肢＆下肢筋模型） ③心臓の位置、外景、内景（心臓模型） ④呼吸器全景（呼吸器模型） ⑤消化管の流れ、肝臓・胆嚢・膵臓（消化器模型） ⑥腎臓の内景、泌尿器全景（泌尿器模型） ⑦男性生殖器全景（男性生殖器模型） ⑧女性生殖器全景（女性生殖器模型） ⑨脳表面と脳神経（脳模型） ⑩脳横断面と投射路（脳横断模型） 11回～14回は体表観察（指標となる骨・筋の確認、動脈の拍動点、皮静脈）				木村 明彦
11	上肢・下肢の体表観察				
12	頭部、頸部の体表観察				
13	胸部、腹部の体表観察				
14	背部、骨盤部の体表観察				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	人体の構造Ⅰで使用するもの				
参考書等	『解剖学 コメディカルのための専門基礎分野テキスト』 五味敏昭：岸清（中外医学社）2004				
成績評価基準	出席、課題レポート、実習態度、定期試験により総合評価する。				
受講上の 注意事項	1 回～10回の演習は模型を使用する。少人数のグループに分かれ、グループ毎の課題を学習する。グループ毎の課題はローテーションし、全ての課題を終了する。 11回～14回の演習は互いの体を利用するので、グループ構成は各自の意思を尊重する。				

専門基礎科目（人体の構造と機能）

授業科目名	人体の機能Ⅰ	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高野 一夫	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	人体の機能Ⅰ および人体の機能Ⅱでは人体の正常な機能を理解することを目的とする。人体の正常な形態および構造を学ぶ人体の構造Ⅰ および人体の構造Ⅱ（解剖学）とは表裏一体の関係にあるので合わせて理解する。いわゆる生理学の分野に相当する。生理学は疾病の原因、症状などを理解する上で不可欠な学問である。人体の機能Ⅰでは、生理学の基礎、体液、血液、循環、呼吸、消化と吸収、体温とその調節について学ぶ。到達目標：人体の機能Ⅰで学習した基礎的な生理学用語について説明でき、生体内で生じる基本的な生理学的変化を説明できる。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	細胞の構造と構成成分の機能				高野 一夫
2	体液組成と物質の移動				
3	血液 1（血液組成とその機能）				
4	血液 2（血液凝固と血液型）				
5	循環器系 1（心臓の機能）				
6	循環器系 2（血管・リンパ管の機能）				
7	循環器系 3（循環調節）				
8	呼吸器系 1（呼吸運動）				
9	呼吸器系 2（ガス交換）				
10	呼吸器系 3（呼吸調節）				
11	消化器系 1（食欲・咀嚼・嚥下）				
12	消化器系 2（消化・吸収）				
13	消化器系 3（消化管ホルモンと排便）				
14	体温				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『ナーシング・グラフィカ 解剖生理学』 林正健二（メディア出版）2008				
参考書等	1. 『ガイトン臨床生理学』 アーサー・C. ガイトン：ジョン・E. ホール（医学書院）1999 2. 『オックスフォード・生理学 原書 2 版』 ギリアン・ポーコック：クリストファー・D. リチャーズ（丸善）2005 3. 『標準生理学 Standard textbook』 小澤滯司：本郷利憲（医学書院） 4. 『細胞の分子生物学 第 4 版』 ブルース・アルバーツ：中村桂子（ニュートンプレス）2004 5. 『ニューロンの生理学』 御子柴克彦・加藤総夫（京都大学出版会）2009				
成績評価基準	定期試験として筆記試験を行い、一定の基準以下のものには再試験として筆記試験または口頭試験を行う。出席率が、定められた基準以下の者は定期試験を受験出来ない。				
受講上の 注意事項	講義時間が少ないため、重要なポイントのみが講義される。なるべく予習して講義に臨むと理解し易い。また余裕のあるものは上記の参考書等を読んで理解に努めると良い。他の科目との有機的なつながりを考慮しながら学習すること。疑問点には時間の許す限り講義担当者が回答する。				

専門基礎科目（人体の構造と機能）

授業科目名	人体の機能Ⅱ	開講時期	1 年次／後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	高野 一夫	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	人体の機能Ⅰおよび人体の機能Ⅱでは人体の正常な機能を理解することを目的とする。人体の正常な形態および構造を学ぶ人体の構造Ⅰおよび人体の構造Ⅱ（解剖学）とは表裏一体の関係にあるので合わせて理解する。いわゆる生理学の分野に相当する。生理学は疾病の原因、症状などを理解する上で不可欠な学問である。人体の機能Ⅱでは泌尿器系、内分泌系、神経系、筋肉、感覚器系などの生理について学ぶ。内分泌系ではホルモンの種類や作用など、神経系では中枢神経系および末梢神経系の機能、筋肉では筋収縮のメカニズムなど、感覚器系では体性感覚、味覚、嗅覚、聴覚、視覚、平衡感覚などについて学ぶ。到達目標：人体の機能Ⅱで学習した基礎的な生理学用語について説明でき、生体内で生じる基本的な生理学的変化を説明できる。				
回	テ ィ マ および 内 容				担当教員名
1	内分泌系 1（内分泌とは、視床下部・下垂体ホルモン）				高野 一夫
2	内分泌系 2（甲状腺・上皮小体・膵臓・副腎皮質・髄質ホルモン）				
3	生殖器系（生殖器の機能と性ホルモン）				
4	泌尿器系 1（尿の生成）				
5	泌尿器系 2（尿の排泄）				
6	筋系 1（骨格筋の収縮機序と収縮の種類）				
7	筋系 2（骨格筋の収縮エネルギー）				
8	神経系 1（ニューロンと興奮の発生）				
9	神経系 2（興奮伝導とシナプス伝達）				
10	神経系 3（末梢神経系と自律神経）				
11	神経系 4（中枢神経系と高次機能）				
12	感覚系 1（体性感覚）				
13	感覚系 2（聴覚と平衡感覚）				
14	感覚系 3（視覚）				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『ナーシング・グラフィカ 解剖生理学』 林正健二（メディア出版）2008				
参考書等	1. 『ガイトン臨床生理学』 アーサー・C. ガイトン：ジョン・E. ホール（医学書院）1999 2. 『オックスフォード・生理学 原書 2 版』 ギリアン・ポーコック：クリストファー・D. リチャーズ（丸善）2005 3. 『標準生理学 Standard textbook』 小澤瀨司：本郷利憲（医学書院） 4. 『細胞の分子生物学 第 4 版』 ブルース・アルバーツ：中村桂子（ニュートンプレス）2004 5. 『ニューロンの生理学』 御子柴克彦・加藤総夫（京都大学出版会）2009				
成績評価基準	定期試験として筆記試験を行い、一定の基準以下のものには再試験として筆記試験または口頭試験を行う。出席率が定められた基準以下の者は定期試験を受験出来ない。				
受講上の 注意事項	講義時間が少ないため、重要なポイントのみが講義される。なるべく予習して講義に臨むと理解し易い。また余裕のあるものは上記の参考書等を読んで理解に努めると良い。他の科目との有機的なつながりを考慮しながら学習すること。疑問点には時間の許す限り講義担当者が回答する。				

専門基礎科目（疾病の成り立ちと回復促進）

授業科目名	病理学概論	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	寺井 政憲	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	病理学とはヒトはどのようにして病気になるのかを科学的に説明する医学で、病気の診断や治療の基本になる学問である。病理学は基礎から臨床への橋渡しの役割があり、構造と機能の異常、すなわち病気を中心とした講義とする。病気の概念を原因から出発して系統的に説明する。病気を個体（ヒト）から臓器、組織、細胞、遺伝子レベルという具合に理解することが必要である。到達目標は病気の概念・定義を理論的にしっかり習得し、最終的に幅広い基礎医学の知識と理解力をつけることにおく。病気の基本について、医学的に平易に解説するとともに、難解な病理学的用語についても分かり易く説明する。国家試験は最終目標ではないが、受講学生の合格につながることに配慮した授業を行う。				

専門基礎科目（疾病の成り立ちと回復促進）

授業科目名	薬理学概論	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	荒井 裕一郎	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	種々疾患の治療には必ずと言っていいほど薬物が用いられている。治療ばかりではなく予防、検査・診断、健康診断にも薬物は用いられる。医療現場には看護師の存在が欠かせず、その医療現場では看護師にも当然、薬物の知識が求められる。そのために、薬物の作用点、薬物の生体内運命、薬効に影響を与える因子などの基礎薬理学、および、医療用医薬品の薬理作用・副作用、使用上の注意点などの応用薬理学を学ぶ。さらに、新薬を開発する際には看護師が必要でかつ重要な役割を担う治験が行われるが、この新薬の開発についても学ぶ。				

専門基礎科目（疾病の成り立ちと回復促進）

授業科目名	生化学	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	荒井 裕一郎	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、生命活動の基本について化学物質の変化とその流れの観点から捉え、それらの基本について学習する。特に生体分子の化学構造と性質を学び、それを踏まえて看護学的な視点から重要となる疾患関連の代謝異常などについて学習する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	生体の構成物質				荒井裕一郎
2	細胞の基本構造と機能				
3	生体成分の構造と機能				
4	代謝				
5	核酸とタンパク質の生合成				
6	ホメオスターシスとホルモン				
7	臓器の生化学				
8	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『コンパクト生化学 改訂第2版』 大久保岩男：賀佐伸省（南江堂）2005				
参考書等					
成績評価基準	定期試験の成績に出席状況や受講態度などを加味して総合的に評価する。				
受講上の 注意事項					

専門基礎科目（疾病の成り立ちと回復促進）

授業科目名	臨床疾患学Ⅰ (内科系)	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	林 洋	授業形態	講義	単位数／時間数	4 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	内科系諸疾患（呼吸器系、循環器系、消化器系、内分泌系、神経系）および、小児科系疾患、泌尿器科系疾患、産婦人科系疾患の疾病の成り立ちと治療法について学習する。基礎医学科目で学習した内容をもとに、具体的な臨床疾患の種類と病因について概説するとともに、各疾患の治療法の基本的な事項についての知識を習得させる。特に、内科系疾患の診療に特徴的な、病態の包括的把握法を学習し、看護学の講義、実習を受けるための基礎を作る。				

専門基礎科目（疾病の成り立ちと回復促進）

授業科目名	臨床疾患学Ⅱ (一般外科系)	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	鈴木 秀一	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	外科学総論に関する知識の習得をもとに、外科的治療が人体に及ぼす影響、生命の危機状態にある患者に対する診断・治療・管理に関して、学習する。				

専門基礎科目（疾病の成り立ちと回復促進）

授業科目名	臨床疾患学Ⅲ (整形・リハビリテーション)	開講時期	2年次・後学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	関 寛之	授業形態	講義	単位数/時間数	2単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	運動器の構造と機能、症状・病態生理を基盤に、四肢・体幹を構成する骨・関節・筋肉・神経などの運動器官疾患に関する診断、治療、管理、リハビリテーションに関して学習する。				

専門基礎科目（疾病の成り立ちと回復促進）

授業科目名	栄養学と食育	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	加藤　チイ	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	人が生きるためには栄養、すなわち食物から必要な物質を取り込んで代謝・同化する過程が必要であることから、どのような食物をどれだけ摂れば健康を維持・増進できるかについて理解する。また、一つの食品で理想的な栄養素を含むものは存在しないし、誤った食事の摂り方により疾患になることもある。栄養素がバランスよく摂れ、消化しやすいように調理され、食べる側の嗜好や楽しみにも応じた食事のありかたについて考える。「栄養学」を理解することにより食を正しく選択し、信頼できる情報に基づく適切な食行動が実践できること、「食育」が実践できることを学習のねらいとする。				
回	テ　ー　マ	内　　　容			担当教員名
1	看護と栄養	栄養学・食育を学ぶ意義を理解する。			加藤　チイ
2	食品について知る	食品群と補給できる栄養素、食品毎の栄養成分の特徴などを理解する。			
3	栄養の基礎 (1)	どのような食品をどれくらい食べればよいか理解する。(エネルギー、タンパク質、脂質、糖質など)			
4	栄養の基礎 (2)	どのような食品をどれくらい食べればよいか理解する。(ビタミン、ミネラルなど)			
5	疾病と食事 (1)	胃・腸、肝臓など消化管、消化器疾患の栄養・食事のとり方を理解する。			
6	疾病と食事 (2)	高血圧症、循環器疾患、糖尿病、肥満症、脂質異常症などの栄養・食事のとり方を理解する。			
7	疾病と食事 (3)	腎疾患の栄養・食事のとり方を理解する。			
8	疾病と食事 (4)	手術後、外傷、褥瘡などの栄養・食事のとり方を理解する。			
9	ライフステージと栄養 (1)	小児、妊産婦の栄養・食事のとり方を理解する。			
10	ライフステージと栄養 (2)	高齢者の栄養・食事のとり方を理解する。			
11	食事機能と食形態	摂食機能に対応した食事について理解する。			
12	特殊な食品について	治療用特殊食品、特定保健用食品などについて理解する。			
13	栄養教育、食の援助	食品の表示や栄養情報の利用のしかたについて理解する。 (栄養指導や健康教育において留意すべき事項)			
14	まとめ	健常時および傷病時にはどのような食品をどのようにして食べたらよいか、学習した知識を確認する。			
15	定期試験	定期試験および授業のまとめ			
教科書		『看護栄養学』 尾岸恵三子：正木治恵（医歯薬出版）2005 『糖尿病食事療法のための食品交換表』 日本糖尿病学会（文光堂）2002			
参考書等		『腎臓病食品交換表：治療食の基準』 中尾俊之：黒川清（医歯薬出版）2008			
成績評価基準		試験　80％　　平常点　20％（授業態度、課題やレポートの内容）			
受講上の 注意事項		栄養・食事は生命につながるとも大切なものです。この科目で学んだことを実践して下さい。食事の記録などのレポートがあります。			

専門基礎科目（疾病の成り立ちと回復促進）

授業科目名	感染症学	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	林 洋	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	感染症は、各臓器別疾患の共通した病因の 1 つであるとともに、臨床の場において日常的に認められる疾患でもあるところから、十分な知識を習得する必要がある。そのためには、病因となる微生物、すなわち、ウイルス、細菌、真菌、原虫にたいする微生物学的素養や小動物にたいする理解を深めるだけではなく、感染にたいする生体防御機構についても学習し、さらに感染症がおこった後の治療法に加えて、予防法についても習得することを目指す。				

専門基礎科目（疾病の成り立ちと回復促進）

授業科目名	認知心理学	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	山下 雅子	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	看護・介護の臨床活動に有用な、認知のメカニズムについての基本的知識を得るとともに応用的分野へとつながる研究について理解する。記憶、思考といった認知機能についての基本的な知識に加えて、エイジングによる記憶能力やその他の認知機能の変化の様相、感情と認知の関係、情動の認知、環境の認知、対人感情認知などについて、適宜、ワークを行いながら研究方法と合わせて理解を深め、臨床活動の基礎の一部となりうる知識を得ることを目的とする。				

専門基礎科目（保健福祉制度と生活）

授業科目名	公衆衛生学と疫学	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	林 洋	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	近代医学の発展に公衆衛生学が果たした役割を概説するとともに、現代の公衆衛生学が取り組んでいる諸分野、すなわち、環境問題、生活習慣病、感染症、地域保健、産業保健、国際協力等について学習し、医療全体を広い視野から捉えられる態度を養う。また、疫学の研究法を紹介するとともに、その成果を学習することによって、医療人としての素養を身に付け、さらに保健医療統計の実際に触れて、看護学学習の意欲を高めることを目指す。				

専門基礎科目（保健福祉制度と生活）

授業科目名	保健福祉行政論	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	平成22年度以降就任予定	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	高齢者・障害者が疾病や障害を抱えた時、在宅を中心として地域で生活を続けていくために、どのような医療・保健・福祉の社会資源とシステムを活用すればよいか、現状を踏まえて、システムを概括する。さらに先進的なモデルを探り、将来のあるべき姿を描く。地域ケア連携をしていく中で、看護職と福祉職がどのように協働し、連携していけば、地域住民の健康と生活が守れるか、予防や健康増進の視点からも理解を深める。患者・利用者主体の在宅を中心とした地域ケアがどのように行なわれるか、講義・演習を通じて学習することを目指す。				

専門基礎科目（保健福祉制度と生活）

授業科目名	高齢者保健福祉論	開講時期	2年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	平成22年度以降就任予定	授業形態	講義	単位数／時間数	1単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	生活上の困難を有する高齢者を支援する場合、身体的・精神的部分だけを取り上げるのではなく、社会的背景と現状のほか心理的・社会的特性などを含め、総合的に捉えなければ適切な解決はできない。当該科目では、高齢者の生活困難な状況や福祉・保健医療サービスのニーズの捉え方、支援の際の留意すべき理念と考え方を学ぶ。また、高齢者に対する支援の方法と人的資源、高齢者の福祉・保健制度と介護保険制度、高齢者の福祉・保健・医療サービスの体系と内容、高齢者の生活と年金・公的扶助・雇用施策について、適宜ワークを取り入れて理解を深め、看護職の実践的活動となる知識を得ることを目的とする。				

専門基礎科目（保健福祉制度と生活）

授業科目名	障害者福祉論	開講時期	2年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	高田 明子	授業形態	講義	単位数／時間数	1単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	授業目標は、障がい者福祉と、障がい者への福祉サービスに関する知識を学び、看護師としてケア現場において活用できるようにすることである。 授業内容は、①障がいの概念と障がい者の実態 ②障がい者福祉の基本理念 ③障がい者福祉サービスの体系と内容 ④事例研究（看護を必要とする障がい児、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、重複障がい者、高齢障がい者等）⑤障がい当事者から学ぶ（講演と質疑応答）の5点である。 授業形態は、講義を中心とするが、必要に応じてDVD鑑賞・ゲストスピーカー・ミニレポート・グループ討論などを取り入れる。				

専門基礎科目（保健福祉制度と生活）

授業科目名	精神保健福祉論	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	22年度以降就任予定	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目においては、精神に障害をもつ人々への医療と福祉両面からの支援を学ぶ。その基礎となる障害者福祉の理念と意義、人権等について学ぶ。現代社会における精神障害者の現状と自立支援法をはじめとする精神保健福祉施策や関連施策を学び、今後の在宅ケアに関するチームアプローチの重要性や住民との連携を基にした地域支援システムを考察する。また精神障害者に限らず、国民の精神保健福祉に関する予防や教育も視野に入れ、幅広い視点をもった看護、介護従事者を養成する。				

専門基礎科目（保健福祉制度と生活）

授業科目名	子ども福祉論	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	千葉 喜久也	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	誰もが通ってきた子ども時代を振り返りながら、子どもの生活と福祉について学習する。豊かな社会といわれる中で、核家族化が進展し共働き家庭が一般化した。また離婚の増加によって、一人親家庭が増加している。こうした状況は、直接的に子どもの生活に影響を及ぼすことになる。 本科目は、こうした子どもを取り巻く生活（社会現象）の背景に迫りながら、児童福祉の制度やしくみについて学習する。主な学習内容は、①子ども家庭福祉の発展 ②子ども家庭福祉サービスの内容 ④市町村と児童相談所の機能と役割 ⑤児童虐待など。				

専門基礎科目（保健福祉制度と社会）

授業科目名	地域福祉論	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	22年度以降就任予定	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	福祉課題の解決や発生予防のための住民相互の連帯を促す地域福祉について、その現代的意義や、在宅福祉活動など地域福祉サービス提供の体系、推進方法を概観し分析・考察する。特に、地域福祉計画や組織化をはじめとするシステム整備にとどまらず、施設における介護や看護との関連や、それらの地域生活への連続性の確保の可能性を前提にして、実際の地域福祉活動の具体的展開を検討し、生活を総合的にとらえ地域福祉活動を展開できる視点と技能をもつ人材の育成を図る。 患者や利用者の本来の生活が、病院や福祉施設の外にあることを認識でき、あるべき地域福祉活動の具体的な姿を描けることを目指す。				

専門基礎科目（保健医療福祉と生活）

授業科目名	居住環境支援論	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	22年度以降就任予定	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	高齢者が自立してその人らしく暮らせるための居住環境の条件およびその環境整備方法や環境を生かした支援方法について学習する。具体的には、1) 高齢者の在宅生活を支える住宅の条件と環境支援方法、2) 少子高齢社会に対応した新たな住まいの種類と適正な選択、3) 生活の継続性を大切にされた施設の環境条件と環境支援方法、4) ユニバーサル・デザインによるまちづくりの基本的な考え方と発展の方向性について取り上げる。				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	看護学原論	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	金井 一薫	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	看護は実践の科学である。その実践を支える科学的思考を養い、どんな看護場面においても、看護であるものを思考し、かつ提供できるような頭作りをすることが、当該科目の目的である。看護学の構造は、目的論、対象論、方法論、疾病論から成りたっており、各々の領域についての学習を深め、実践の科学的礎えとする。特に看護の対象である“生活している人間”のとらえ方については、深い洞察ができるように導く。さらに他職種との連携のあり方、労働の場の問題を考え、近未来の看護職像を志向する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	プロローグ 看護師の仕事イメージし、大事な点を確認する				金井 一薫
2	日本人にとって“当たり前の生活”を考え、生活技術力について志向する 具体的生活技術を挙げ、体験によって確認する				
3	看護職が働く“場”と他職種の存在 看護職が働いている場を考え、連携している他の専門職の姿を知る				
4	看護の創始者・ナイチンゲールについて ナイチンゲールの生涯とその業績を知る				
5	看護原論 (1) 看護の目的論・看護とは何か				
6	看護原論 (2) 看護の対象論・人間とは何か				
7	看護原論 (3) 看護の対象論・患者とは何か				
8	看護原論 (4) 看護の対象論の全体像				
9	看護原論 (5) 生活過程とは何か				
10	看護原論 (6) 自然過程の要素について				
11	看護原論 (7) 看護の疾病論・病気とは何か				
12	看護原論 (8) 看護の健康論・健康とは何か				
13	看護原論 (9) 看護の観察論				
14	看護原論 (10) 看護の実践方法論				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『看護覚え書』 フローレンス・ナイティンゲール：湯楨ます 他（現代社）2000 『KOMI 理論：看護とは何か、介護とは何か』 金井一薫（現代社）2004				
参考書等	『看護学概論 基礎看護学〔1〕 系統看護学講座』（医学書院）2006 『新体系看護学全書、第10巻 看護学概論』（メヂカルフレンド社）2007				
成績評価基準	① 定期試験による評価、② 課題レポートの提出と内容の適切さ。				
受講上の 注意事項	毎回課題を出すので、よく予習をすること。				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	ケアの原形論	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	金井 一薫	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目においては、看護と福祉は歴史研究から同根の歴史を持つという視点に立ち、ケアの本質を明らかにする。特に、わが国で様々な現象している看護や福祉（介護）の姿から、今後のあり方やその展望を思考するに際しての本質論的なものの見方を教示し、両者が共有すべき思考の原点を探っていく。また看護職の歴史を紐解き、看護職が専門職として成立したその過程を、世界と日本とにおいて展望する。さらに看護の専門性や独自性について、特にわが国の法律制度史や教育制度史を通して考察する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	ケアの原形論の骨子 「看護」と「介護」と「ケア」の関係とケア本来の意味について				金井 一薫
2	看護的ケアと福祉的ケアを促した英国の土壌 看護職誕生の背景とナイチンゲールの思想				
3	近代ケア論の出発点 「対象論」と「援助論」の方向軸 看護と福祉の共通点と相違点				
4	わが国の看護の流れ（その1） 日本看護歴史の特徴と課題—古代～近代				
5	わが国の看護の流れ（その2） 現代史の特徴と課題&介護の発展形態				
6	ケアの原形論を今日に活かす 看護の独自性と介護の独自性				
7	諸外国における現代の看護事情とわが国の特長				
8	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『ケアの原形論 新装版』 金井一薫（現代社(新宿区)）2004				
参考書等	その都度提示する				
成績評価基準	筆記試験の成績をもって評価する				
受講上の 注意事項	1. 教科書は必ず持参すること 2. 時間数が少ないので、欠席をしないように注意すること				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	看護の疾病論	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	金井 一薫	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は、病気や症状に苦しむ人々へのケアを、真に看護ケアで癒すための視点について学ぶことを目的とする。看護の独自の機能を実現するために、人体の構造や機能学などの専門基礎科目の知識を応用し、看護の視点で病気や症状をみつめるための思考のプロセスを提示し、専門的な思考力を養う。数例を使って具体的な展開法を学習する過程で、本思考を修得できるようにする。				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	家族看護論	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	小林 奈美	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	健康と病が家族に及ぼす影響を理解し、それを考慮した看護ケアの応用力を身につけることを目的に講義を行う。国内外における主要な家族看護モデルを概観するとともに、家族アセスメント、家族支援のポイントを教授する。また、家族アセスメントの中でも、とくにジェノグラム・エコマップを利用した構造・発達・機能のアセスメント能力を高めるため、講義のみならずグループワーク等の学生主体の学習方法を取り入れ、病と家族の苦悩の関係を具体的に考える力を養う。				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	生活援助論Ⅰ (基本)	開講時期	1 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	平田 美和 他	授業形態	演習 (オムニバス)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は、生活援助論の基本となる科目である。人間にとって生活とは何かを考え、看護の対象となる人の生活過程を整えるための看護技術の概念を理解し、日本人の暮らし方の基本的考え方とや居住環境のあり方を学習する。 (金井 Pak 雅子・平田 美和／10回) 看護は生活者への援助が基本となる。本科目では、生活者について、グローバルな視点で分析・理解することを養う。具体的には、生活の基本となる価値観や信条について、その基盤となるものを人々の暮らしの中から探索し意味づけをする。分析の対象は、日本人のみならずさまざまな人種や背景を有する人々について、既成概念を持つことなく幅広い視野に立つことの意味を、演習形式の授業を通して教授する。また、生活の基本的要素である環境について考え、病室のあり方の基本を学習させる。さらに「清潔・不潔」の概念と実際について学ぶ場とし、「感染予防」についての基礎知識を教授する。 (沼田 恭子／5 回) 障害をもつ人々や高齢者が生きる意欲を増し、安心感を得て満足して暮らすためには、優れた環境要因が必要である。人の特性（身体寸法、形状）、行動、五感（感性）や、生活空間・環境を知り、それ を活用するインテリアデザインの手法をとおして、当之无愧に暮らすための基本条件を教授する。				
回	テ ィ マ および 内 容				担当教員名
1	オリエンテーション				平田 美和 金井 Pak 雅子
2	システム論とは				
3	組織とシステム				
4	病院とシステム				
5	地域在宅とシステム				
6	居住環境①空間のかたちと広がり				沼田 恭子
7	居住環境②光の環境（自然の光）				
8	居住環境③光の環境（照明の光）				
9	居住環境④色彩Ⅰ				
10	居住環境⑤色彩Ⅱ				
11	病床環境①				平田 美和 金井 Pak 雅子
12	病床環境②ベッドメイキング				
13	感染予防①手洗い				
14	感染予防②ガウンテクニック				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『基礎看護技術 1：基礎看護学[2]．専門分野1 系統看護学講座』 藤崎 郁（医学書院）2006 『基礎看護技術 2：基礎看護学[3]．専門分野1 系統看護学講座 第15版』 藤崎 郁（医学書院）2009 『目でみるからだのメカニズム』 堺 章（医学書院）2000				
参考書等	授業中に提示します。				
成績評価基準	出席状況、授業態度、レポート、定期試験を総合的に評価します。				
受講上の 注意事項	欠席はしないこと。				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	生活援助論Ⅱ (呼吸・移動・睡眠)	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	平田 美和 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は、生活過程の諸要素の中で「呼吸」「動く」「眠る」という項目に焦点を当て、これらの動作を自ら営めなくなった人々に対する基本的な援助方法を学習する。呼吸器系、循環系、骨・筋肉系、脳神経系、内分泌系のしくみと働きを理解し、バイオメカニクスの基本を基盤として、看護をしていくために必要な科学的根拠を明確にし、具体的な援助技術を修得する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	呼吸① 呼吸器系／循環器系のしくみと働き				平田 美和 金井 一薫
2	呼吸②体温測定／呼吸測定／脈拍測定				
3	呼吸③体温測定／呼吸測定／脈拍測定				
4	呼吸④血圧測定				
5	呼吸⑤血圧測定				
6	呼吸⑥血圧測定				
7	眠る				
8	動く①骨・筋肉系／脳神経系／内分泌系のしくみと働き				
9	動く②姿勢と体位／バイオメカニクス				
10	動く③体位変換				
11	動く④体位変換				
12	動く⑤体位変換				
13	動く⑥移乗と移送 車椅子／ストレッチャー				
14	動く⑦移乗と移送 車椅子／ストレッチャー				
15	動く⑧移乗と移送 車椅子／ストレッチャー				
教科書	『基礎看護技術 1：基礎看護学[2]．専門分野1 系統看護学講座』 藤崎 郁（医学書院）2006 『基礎看護技術 2：基礎看護学[3]．専門分野1 系統看護学講座 第15版』 藤崎 郁（医学書院）2009 『目でみるからだのメカニズム』 堺 章（医学書院）2000				
参考書等	授業中に提示します。				
成績評価基準	出席状況、授業態度、レポート、定期試験を総合的に評価します。 生活援助論Ⅱ～Ⅳを総合的に評価します。				
受講上の 注意事項	欠席はしないこと。 毎回、事前学習と演習後のレポートを課します。				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	生活援助論Ⅲ (食事・排泄)	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	平田 美和 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は、生活過程の諸要素の中で「食事」「排泄」という項目に焦点を当て、これらの動作を自ら営めなくなった人々に対する基本的な援助方法を学習する。消化器系、泌尿器系のしくみと働きを十分に理解し、援助行為の科学的根拠を明らかにしたうえで、もてる力・健康な力を活用し高める援助方向を目指して、具体的な援助技術を修得する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
1	食事①消化器系のしくみと働き				平田 美和 金井 一薫
2	食事②食事介助				
3	食事③食事介助				
4	食事④口腔ケア				
5	食事⑤口腔ケア				
6	食事⑥口腔ケア				
7	食事⑦経管栄養				
8	食事⑧経管栄養				
9	食事⑨経管栄養				
10	排泄①泌尿器系のしくみと働き				
11	排泄②床上排泄／陰部洗浄／ポータブルトイレ介助				
12	排泄③床上排泄／陰部洗浄／ポータブルトイレ介助				
13	排泄④オムツ交換／浣腸／摘便				
14	排泄⑤オムツ交換／浣腸／摘便				
15	排泄⑥オムツ交換／浣腸／摘便				
教科書	『基礎看護技術 1：基礎看護学[2]、専門分野1 系統看護学講座』 藤崎 郁（医学書院）2006 『基礎看護技術 2：基礎看護学[3]、専門分野1 系統看護学講座 第15版』 藤崎 郁（医学書院）2009 『目でみるからだのメカニズム』 堺 章（医学書院）2000				
参考書等	授業中に提示します。				
成績評価基準	出席状況、授業態度、レポート、定期試験を総合的に評価します。 生活援助論Ⅱ～Ⅳを総合的に評価します。				
受講上の 注意事項	欠席はしないこと。 毎回、事前学習と演習後のレポートを課します。				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	生活援助論Ⅳ (衣・清潔・性)	開講時期	1 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	平田 美和 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は、生活過程の諸要素の中で「身体の清潔」「着脱」「身だしなみ」「性」という項目に焦点を当て、これらの動作を自ら営めなくなった人々に対する基本的な援助方法を学習する。これらの項目は、特に文化とのかかわりが大きいという特徴を踏まえたうえで、看護をしていくために必要な感覚器系、生殖系のしくみと働きを理解し、援助の科学的根拠について学び、講義・演習を通じて実践ができる基本を習得する。				
回	テ　　マ　　および　　内　　容				担当教員名
1	着脱①感覚器系のしくみと働き				平田 美和 前田 樹海
2	着脱②寝衣交換				
3	着脱③寝衣交換				
4	身体の清潔①清拭				
5	身体の清潔②清拭				
6	身体の清潔③清拭				
7	身体の清潔④足浴／手浴／爪切り				
8	身体の清潔⑤足浴／手浴／爪切り				
9	身体の清潔⑥足浴／手浴／爪切り				
10	身体の清潔⑦洗髪				
11	身体の清潔⑧洗髪				
12	身体の清潔⑨洗髪				
13	身だしなみ				
14	性 生殖系のしくみと働き				
15	定期試験および授業のまとめ				
教科書	『基礎看護技術 1：基礎看護学〔2〕. 専門分野1 系統看護学講座』 藤崎 郁（医学書院）2006 『基礎看護技術 2：基礎看護学〔3〕. 専門分野1 系統看護学講座 第15版』 藤崎 郁（医学書院）2009 『目でみるからだのメカニズム』 堺 章（医学書院）2000				
参考書等	授業中に提示します。				
成績評価基準	出席状況、授業態度、レポート、定期試験を総合的に評価します。 生活援助論Ⅱ～Ⅳを総合的に評価します。				
受講上の 注意事項	欠席はしないこと。 毎回、事前学習と演習後のレポートを課します。				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	コミュニケーション論	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	22年度以降就任予定	授業形態	演習 (オムニバス)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	看護は人と人をつなぐ実践である。自らの人となりが他者へ及ぼす影響は計り知れない。当該科目においては、自己覚知を促し、他者を思いやる心を育てる技法について学ぶ。 （22年度以降就任予定／5 回）グループホームケアにおける相互人間関係の特性である“響き合い”という概念を理解し、人とのつながりの技法のあり方を学ぶ。 （22年度以降就任予定／5 回）高齢者、とりわけ認知症高齢者のケア実践に効果的とされる「回想法」の成り立ちと 実践上の応用過程について学ぶ。 （22年度以降就任予定／5 回）受容・共感という概念を“ピアカウンセリング”手法を通して具体的に学ぶ。以上の学習により、対人援助専門職として援助を受ける方との基本的なコミュニケーションが円滑にとれることを目標とする。				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	看護過程論	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	金井 一薫 他	授業形態	演習 (オムニバス)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	「看護過程展開」の看護実践に占める位置づけを明らかにし、「看護過程展開」の道筋を修得することを目的とする。特に「観察」と「アセスメント」の重要性を認識しつつ、実践・評価のプロセスまでを学習することを目標とする。 （金井 一薫／3 回）看護過程とは何か、看護過程の看護実践における意義について、特にケアの実践方法論や看護理論とつなげて教授する。 （林 さとみ／6 回）看護過程展開にとって不可欠な「看護診断」について概説し、看護診断の活用法や実際について教授する。 （野口 京子／6 回）看護過程展開について、情報収集の仕方からアセスメント、さらに具体的なケアプランの導き方など、活用の具体的方法について、事例や視覚教材を用いて教授し、一連の看護過程展開が理解できるようにする。また看護記録の書き方、他職種との連携に活用するための方法や思考過程について教授する。				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	フィジカルアセスメント	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	浅田 庚子 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は、看護の対象者の生命の維持あるいは健康の回復過程、健康の維持過程において、看護の対象者の健康逸脱状態の科学的分析に基づいた専門的看護判断を明らかにする看護過程を理解し、看護の対象者の生命の維持あるいは健康の回復過程、健康の維持過程を促進し、顕在・潜在する生命力を促進する援助を明らかにし、実践するための基本的な分析的思考能力を習得することを目的とする。特に演習を通じて基本的な分析的思考能力が適用できることをめざす。 (浅田 庚子・林 さとみ)				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	治療へのケア	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	林 さとみ 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は、検査・診断などの治療過程にある患者を援助する基本的な方法を学習する。検査時の看護、薬物治療時の看護、酸素療法時の看護、包帯法、死後の処置等の看護を実践していくために必要な基本的知識と技術を理解し習得することを目的とする。また、治療過程にある患者の生活を理解し、検査や治療による生活の不自由さに視点を置いた看護を実践できる能力を養い、治療過程にある患者の日常生活援助を実践できる能力を習得する。 (林 さとみ・平田 美和・22年度以降就任予定 1 名)				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	生命医療倫理学	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	東郷 俊宏	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	本科目では、バイオエシックスについての基本的な考え方について学習する。特に医療倫理の歴史的発展、代表的な倫理綱領、具体的な倫理的行為、インフォームドコンセント、QOL の考え方等について学習する。また、現代の医療においては、遺伝子技術を駆使した再生医療をはじめ、出生前診断、生殖医療、臓器移植、臨床試験における倫理問題など、医療者の倫理問題が大きくクローズアップされていることを受けて、各テーマごとに実際の事例を取り上げ、医療従事者、患者、マスコミがそれぞれの立場からどのような言説を展開しているかを比較検討し、将来の医療のなかで求められる倫理とは何かを考える。				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	リスクマネジメント	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	金井 Pak 雅子	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は、リスクの基本的概念を概説し、リスクマネジメントの理論について理解を深め、医療職としての役割について探求する。さらに、リスクマネジメントの中でも医療従事者として対象者の安全に関する事項、リスクの回避に関する事項についても学習する。看護のみならずチームとしてリスクを回避する方法論について、事例を通して学習する。さまざまなインシデントレポートを分析することにより、看護実践におけるリスクについて理解する。				

看護学の基盤

授業科目名	導入基礎実習	開講時期	2 年次・前学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	金井 Pak 雅子 他	授業形態	実習	単位数/時間数	2 単位/60 時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は、学生が実践の科学である看護学を学ぶ上で、健康問題を抱えた個人・集団が地域におけるどのような医療機関においてサービスを提供されるのか理解するとともに、医療機関においてはどのようなヘルスケアチームがどのように連携して医療サービスを提供しているのかを理解する。具体的には、医療機関におけるさまざまな部署において、それらの部署の役割と機能、看護との連携についてシステム論を基本に学習する。さらに生活問題や健康問題を抱えた個人・集団が、地域のなかでどのように福祉サービスを提供されているのかを実習により理解をする。そこでは、どのようなヘルスケアチームがどのように連携して介護・医療サービス等を提供しているのか、またさまざまな部署の役割と機能、介護・看護の連携の具体的なあり方についてシステム論の考え方を基本にして学習する。				
回	テ ー マ および 内 容				担当教員名
	前学期終了時に事前オリエンテーションを実施する（日程は後日提示）。 1. 実習施設 東京大学医学部附属病院（5 日間） 保育園（1 日間） 特別養護老人ホーム又は老人保健施設（1 日間） ハンセン病棟（1 日間） 重症心身障害児施設（1 日間） 2. 実習方法 1) 3～4 名の学生を 1 グループとし、上記実習施設をローテーションにて実習を行う。 2) 見学実習を中心し、可能であれば職員とともにケアや活動に参加する。 3) 保健・医療・福祉の対象者や専門職との関わりを大切に、コミュニケーションの機会を多くもつ。				金井 Pak 雅子 金井 一薫 浅田 庚子 梶原 祥子 高橋 雪子 野口 京子 林 さとみ 平田 美和 山本かおる 北島 泰子
教科書	特になし				
参考書等	特になし				
成績評価基準	実習の出席状況、実習態度、実習記録（レポートを含む）を総合的に評価する。				
受講上の 注意事項	本科目は実習のため出席日数が重視されます。やむを得ず欠席する場合には、すみやかに担当教員に連絡してください。				

専門科目（看護学の基盤）

授業科目名	基礎看護学実習	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	平田 美和 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	これまで、学習してきた知識と技術を実践の場において統合し、看護の対象となる対象者との関わりを通して、健康障害をもつ対象を理解する。疾病や障害によって生じた生活の不自由さを理解し、特に基本的な日常生活援助である「食事」「排泄」「身体の清潔」について、対象者に必要な看護援助を考え、看護師とともに実践する。一人の対象者との関わりを深め、対象者の情報収集、アセスメントをすることで、看護過程実践の基礎を習得する。 (平田 美和・金井 Pak 雅子・浅田 庚子・梶原 祥子・高橋 雪子・野口 京子・林 さとみ・北島 泰子・22年度以降就任予定 7 名)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	成人看護学概論Ⅰ (急性期)	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	林 さとみ 他	授業形態	講義 (共同)	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は看護の対象に含まれる発達段階における成人期にある個人・家族に焦点を当て、人体の構造と機能、臨床疾患学、さらには人間を取り巻く社会のあり方の理解を適用し、急性期の健康逸脱状態にある人にとって必要な看護を、講義を通して修得することを目的とする。ハイリスク状態にある人にとって、どのような看護実践が望まれるのか、倫理的配慮や保健医療政策の動向を視野にいれ、個人・家族の健康認識を重視し、ニーズに対処する視点で見る対象論と看護援助論を教授する。 (林 さとみ・浅田 庚子)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	成人看護援助論Ⅰ (急性期)	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	林 さとみ 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は看護の対象に含まれる発達段階における成人期にある個人・家族に焦点を当て、人体の構造と機能、臨床疾患学、さらには人間を取り巻く社会のあり方を理解し、急性期の健康逸脱状態にある人にとって必要な看護を、主に演習を通して修得することを目的とする。心筋梗塞、手術による心身の侵襲などハイリスク状態にある人にとって、どのような看護実践が望まれるのか、その具体的方法として、Emergency Care Simulator (ECS) を使用して個々の処置と全身状態との関係を意識した質の高いトレーニングを小グループ制のもと、学生の個人技術指導に当たるとともに、家族をも視野に入れた看護過程の展開を教授する。 (林 さとみ・浅田 庚子・北島 泰子・22年度以降就任予定 1 名)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	事例展開Ⅰ (成人・急性期疾患)	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	林 さとみ 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目では、急性期疾患患者を Emergency Care Simulator (ECS) で再現させて、ECS を使用することで学生が事例の全体像を観念的追体験することにより、看護実践における統合的な思考力・判断力を養うことを目的とする。事例がもつ疾患の看護的理解を土台にして、事例に備わっている個別の条件・状況の看護的意味付けを行い、看護過程展開の手法を用いて、必要な看護援助を検討する。この際に、患者をとりまくあらゆる環境要素に目をむけ、喪失体験や不自由になっている生活過程の内容を見極め、的確な判断ができるように導く。 (林 さとみ・浅田 庚子・北島 泰子・22年度以降就任予定 1 名)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	成人看護学実習Ⅰ (急性期)	開講時期	3年次・後学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	林 さとみ 他	授業形態	実習 (共同)	単位数/時間数	3単位/90時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目では、これまで学習してきた知識および技術を実践の場において統合し、病院に入院している成人対象者で手術を受ける患者または生命の危機にある患者の看護について実践を通して学習する。具体的には、外科系病棟において術前・術後にある患者を受け持ち、看護過程を展開しながら学習する。 (林 さとみ・北島 泰子・22年度以降就任予定1名)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	成人看護学概論Ⅱ (慢性・終末期)	開講時期	2年次・後学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	浅田 庚子 他	授業形態	講義 (オムニバス)	単位数/時間数	2単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は成人期にある個人・家族に焦点を当て、人体の構造と機能、人間を取り巻く社会のあり方の理解を適用し、慢性的・長期的な健康逸脱状態にある個人・家族が、病状をコントロールし、生活の制限を受けながら、その人らしく病気や障害と向き合い、生きることを支えるための看護のあり方、方法について学習する。 (浅田 庚子・林 さとみ/10回) 特に成人期に起こりやすい疾病について理解し、その治療法、療養法について学ぶと共に、看護の役割と機能についての学びを、観察のポイントや生活アセスメントに焦点を当てながら深めていく。さらに「生活習慣」「職業」「生活ストレス」「セクシュアリティ」「余暇生活」「更年期」について個人・家族の健康に関する視点で見る対象論を解説し、大人の学習を援助する科学としての成人教育に基づく効果的な健康教育や患者教育を基盤とする看護援助論を教授する。 (22年度以降就任予定/5回) 生物として規定されている誕生から死の意味を理解した上で、終末期においてどのような看護をするべきかを学習する。まず、人の死の捉え方について、臨床的、法的、生物学的などの諸相からその変遷と現代的な課題を理解する。次に人の死について、特に生物学的な視点からそのメカニズムを捉えることにより、「人はなぜ死ぬのか」という問題を解く。それらの理解の上、生命過程としての死のみならず、生活や社会と大きく関わる終末期とその先の死について、看護における目標設定、対象の理解、方法を明らかにする。				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	成人看護援助論Ⅱ (慢性期)	開講時期	2 年次・後学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	浅田 庚子 他	授業形態	演習 (共同)	単位数/時間数	1 単位/30 時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は成人期にある個人・家族に焦点を当て、人体の構造と機能、臨床疾患学、さらには人間を取り巻く社会のあり方を理解し、慢性的・長期的な健康逸脱状態にある個人・家族が、病状をコントロールし、生活の制限を受けながら、その人らしく病気や障害と向き合い、生きることを支えるための看護のあり方、方法について学習する。特に成人期に起こりやすい疾病について Visual Learning (VOD ビデオ・オン・デマンド) 利用により理解を深め、その治療法、療養法について学ぶと共に、看護の役割と機能についての学びを、Simulator (フィジコ)・Simulator (ナーシング・アン) を使って、観察のポイントや生活アセスメントに焦点を当てながら深めるために、小グループ制のもと、学生の個人指導に当たる。また、大人の学習を援助する科学としての成人教育に基づく効果的な健康教育や患者教育を基盤とする看護援助論をも教授する。 (浅田 庚子・林 さとみ・北島 泰子・22年度以降就任予定 1 名)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	事例展開Ⅱ (成人・慢性期疾患)	開講時期	3 年次・前学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	浅田 庚子 他	授業形態	演習 (共同)	単位数/時間数	1 単位/30 時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目では、慢性的・長期的な健康逸脱状態にある成人患者事例を用いて、看護実践における統合的な思考力・判断力を養うことを目的とする。これまでに学習した対象者の身体的・心理的・社会的・精神的特徴の理解と看護過程展開の技法を適用し、事例に備わっている個別の条件・状況の看護的意味付けを行い、必要な看護援助を導き出す。この際に、患者をとりまくあらゆる環境要素に目を向け、不自由になっている生活過程の内容を見極め、的確な判断ができるように導く。特に慢性的・長期的な健康逸脱状態にある成人期にある対象者の苦痛の緩和、家族・仕事・遺産相続などの社会的・経済的問題、心理的・宗教的問題、QOL、介護、セラピーなどを考慮するという視点を養う。 (浅田 庚子・林 さとみ・北島 泰子・22年度以降就任予定 2 名)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	成人看護学実習Ⅱ (慢性期)	開講時期	3年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	浅田 庚子 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	3単位／90時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目では、これまで学習してきた知識および技術を実践の場において統合し、慢性疾患を持つ対象者に対する援助を、実践を通して学習する。具体的には、慢性疾患を持つ患者を内科系病棟で受け持ち、看護過程を展開しながら学習する。 (浅田 庚子・金井 Pak 雅子・平田 美和)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	老年看護学概論	開講時期	2年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	平成22年度以降就任予定	授業形態	講義	単位数／時間数	1単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	誕生から死までの、ヒトとしての生命過程を理解する。その中の老年期は、生命過程の中でどのように位置づけられるのか、最新の生命科学の知見を含め学習する。そして、ヒトが老いるという事象を特に生物学的な視点から明らかにした上で、老年期に特有な健康障害の特徴、心理・社会関係の変調、それらに対する看護のあり方を学ぶ。また、老年期の健康障害とその看護は社会やその仕組みの影響を受けやすいことから、日本における老人および老年期の様子の時代的な推移から、現代における特徴、将来の日本における老年期の課題を学習する。				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	老年看護援助論	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	平成22年度以降就任予定 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	老年期の生命の特徴から、生命過程を維持または死に到達するための基本的ニーズに対する援助を理解・実施できるようにする。それぞれのニーズに対する生理や機能を理解したうえで、生命過程を損なわない援助の方法、実践に有用な看護の方法を演習する。また、それらを提供する上での危険予知訓練、リスクおよびコスト管理のポイントを理解する。老年に対する看護の多くは他の専門職チームとの連携が欠かせないが、そのマネジメントの方法の理解・演習を行う。また看護の方針や計画立案等における関係者や家族とのコミュニケーション、説明と同意形成の方法を演習を通して学ぶ。 高齢化に伴う知的機能、知覚・認知能力、感情と欲求、パーソナリティ等の変化、さらには人間関係や社会関係の変化を理解した上で、高齢者の個別性に合わせた看護援助技術について演習を通して実践力を身につける。また、高齢者への偏見、高齢化に伴う喪失体験、老いと障害の受容等、高齢者が直面する心理社会的問題について、看護援助技術の演習を通して理解を深める。 (平成22年度以降就任予定・平田 美和)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	事例展開Ⅲ (老年・慢性期疾患)	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	22年度以降就任予定 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	老人の健康障害の特徴は、年をとることによる衰弱、病気やその後遺症および認知症などが複合し、日常生活を自ら行なえなくなることである。そのため、健康の維持、病気、心理、人権、家族や地域社会関係等の視点から、全人的なケアが必要となる。事例展開では、こうした老人の長期にわたり、かつ進行していく障害を持ちながら地域で過ごす老人（特に認知症を患う高齢者）に焦点をあてる。老人の状態を適切にアセスメントすることにより、他職種や家族を含めたチームケアの中で看護を計画・実施、実効性のある評価にむすびつけられるようにする。さらにこの事例展開のあり方を学ぶことによって、後期の老年看護学実習の礎とする。 (22年度以降就任予定・平田 美和)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	老年看護学実習	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	22年度以降就任予定 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	3 単位／90時間
授業の目的 および 到達目標	地域ケアシステムのひとつである施設とその看護の実際について実習することにより、地域で生活をする高齢者にとっての施設の目的とあり方、また看護の提供の方法を学習する。施設のある地域の特性、また高齢者の生活様式の特徴を知り、施設における高齢者の生活、健康や心身機能の障害、それに対する地域における施設看護の役割を理解する。それらを学習する過程をとおり、施設を利用する高齢者が、看護を受けながら地域で継続して生活するための総合的な援助実践の考察を行なう。 (22年度以降就任予定・野口 京子・山本 かほる・22年度以降就任予定 1 名)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	母性看護学概論	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	梶原 祥子	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	女性のライフサイクル各期の特徴や発達課題について学び、女性の健康問題とその看護を展開するために必要とされる基礎知識を習得する。Women's Health という概念で、母性看護の歴史的変遷、母子保健統計、法律、母子保健施策、生命倫理を学び、今後の母性看護の役割と重要性について認識を深める。				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	母性看護援助論	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	梶原 祥子 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30 時間
授業の目的 および 到達目標	周産期（妊娠、出産、産褥）における女性の身体的変化および特徴について、解剖・生理学的見地から、その基礎を修得し、合わせて各期の特徴的な異常経過と疾患について学ぶ。さらに周産期における各期の心理社会的変化とその適応過程、胎児の成長・発達、新生児の生理的特徴と変化・適応について学ぶ。合わせて家族単位の特性にも触れる。さらに、各時期に必要とされる看護援助技術について、学内演習を通して実践力を高める。 (梶原 祥子・22年度以降就任予定 1 名)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	事例展開Ⅳ (母性)	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	梶原 祥子 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30 時間
授業の目的 および 到達目標	看護を系統的かつ科学的に看護実践できる基礎的能力を養うために、方法論としての看護過程を講義・演習を通して学び、問題解決能力や批判的思考能力を育成する。母性領域では、マタニティサイクルに関連した健康問題を持つ女性の事例を用いて、グループワークを実施し、その中で自らの学習課題を明確にし、自然な状態からの逸脱状態を判断、看護上の問題を診断、予期的ケアおよび異常時への対応を含めたケア計画を立案する。さらに事例展開のあり方を通して、後期に行われる母性看護学実習の礎とする。 (梶原 祥子・22年度以降就任予定 1 名)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	母性看護学実習	開講時期	3 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	梶原 祥子 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	2 単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	これまでの既習の知識や技術を活用し、周産期（妊娠、出産、産褥）における健康な母子および家族を対象に、個々の心身の適応過程および健康ニーズを把握し、周産期にある女性と新生児および家族が新しい役割を獲得していくために、必要な個別的な看護の実践を学ぶ。その看護体験から、自己洞察を行い、看護者としての責任と倫理観を養うと共に生命の誕生の尊さについて考える。 （梶原 祥子・22年度以降就任予定 1 名）				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	小児看護学概論	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	22年度以降就任予定	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	目標：成長・発達の過程にある子どもの特徴を理解し、健全な成長・発達を促すための日常生活における援助および健康障害をもつ子どもとその家族に対する看護に必要な基礎的知識を習得する。授業計画：子どもと家族をとりまく社会環境をふまえた小児看護の役割と課題、各発達段階の特徴、必要な日常生活援助について、映像の使用によるイメージ化を行いながら講義およびグループ単位での学習を行う。				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	小児看護援助論	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	22年度以降就任予定 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	目標：健康障害が子どもとその家族に与える影響を理解し、健康障害をもつ子どもとその家族に対する看護を実践するために必要な基礎的知識と技術を修得する。授業計画：子どもにおける健康障害（特にネフローゼ・喘息・小児癌・小児感染症など）の病態生理をもとに、各々の疾患の経過と看護、症状別の子どもの看護、検査・処置を受ける子どもの看護について学習を行う。また、子どもの抱き方・授乳方法・沐浴等の日常生活援助技術およびバイタルサイン測定・輸液の管理・固定方法等の臨床看護技術に関して実習室における演習を行い、看護実践能力の基礎を身につける。 (22年度以降就任予定 2 名)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	事例展開 V (小児)	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	22年度以降就任予定 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	目標：疾病の特徴と事例の発達段階の特徴をふまえ、健康障害をもつ子どもとその家族に対する必要な看護を導き出すための思考過程を習得する。加えて本演習の成果を 3 年次の後期から開始される小児看護学実習において活用できることを目指す。 授業計画：小児期に起こりやすい健康障害の種類別に事例を想定し、その事例を通して“生活の処方箋”を描くための演習を行う。健康障害の種類として、慢性小児下痢症（乳児期）、ネフローゼ症候群（幼児期）、川崎病（幼児期）、急性白血病（学童期）小児喘息（学童期）を予定しており、アセスメント・ケアプランの作成・実践（技術演習）の一連のつながりを、グループ単位で学習する。学習成果は、学生全員での共有を図るために発表形式をとる。 (22年度以降就任予定・梶原 祥子・22年度以降就任予定 1 名)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	事例展開Ⅵ (障害児・者)	開講時期	3年次・前学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	石井 美智子 他	授業形態	演習 (共同)	単位数/時間数	1単位/30時間
授業の目的 および 到達目標	障害を持つ児童の事例を「重症心身障害児」に限定し、重心児看護の歴史を概括すると同時に、歴史の中で明らかになった課題について学び、現在の看護の実際を、事例を通して検討する。その中で、生命重視、人権尊重の看護が目指す具体的姿を学びとることを、当該科目の目的とする。 (石井 美智子・22年度以降就任予定1名)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	小児看護学実習	開講時期	3年次・後学期	必修/選択/自由	必修
担当教員名	22年度以降就任予定 他	授業形態	実習 (共同)	単位数/時間数	2単位/60時間
授業の目的 および 到達目標	身体的、心理的、社会的、成長・発達の側面から統合的に健康障害をもつ小児を理解する。そして医療機関においても、小児とその家族が可能な限り日常に近い生活を送ることができるように援助するための基礎的能力の習得を実習目的とする。具体的には、急性期または慢性期の経過をたどる患児を1人受け持ち、看護過程を展開する。その為に、患児とその家族とのコミュニケーションに必要な基礎的能力の習得、個人差をふまえた安全・安楽・自立を目指した日常生活の援助および指導に必要な能力の習得、さらに社会資源の活用を考えることができることを目指す。 (22年度以降就任予定2名)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	精神看護学概論	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	22年度以降就任予定	授業形態	講義	単位数／時間数	2 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	精神保健および精神看護の基本となる人間理解を深めることを目的に、精神障害とは何かについて理解し、家族や集団などの人間関係に関する諸理論を学ぶ。また、精神保健と福祉の法制度と社会的背景、倫理的問題について学ぶ。人は様々な危機に遭遇し、乗り越えながら生きていく。危機に対して人は様々な反応を示すが、精神障害は1つの反応の仕方である。また、人は精神障害の有無にかかわらず、自己実現を目指してその人らしく生きていく権利があり、すべての人が変化と成長の可能性を持っている。その課程を援助するのが精神看護の役割である。				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	精神看護援助論	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	22年度以降就任予定 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	精神疾患の慢性的な経過を辿る対象とその家族に対して、医療・福祉制度や社会資源を活用した看護援助方法（ケアマネジメント、SST、訪問看護）について学習する。その中で主な精神疾患（統合失調症・気分障害・人格障害・アルコール依存症・など）について、その病理や生理学的見地からの学習を行う。また、精神看護における治療的対人関係の展開、援助活動への自己活用について学び、統合失調症、人格障害、アルコール依存症など、精神障害者と家族への理解を深める。さらに精神科リハビリテーションの意義についても触れ、現実的な課題について整理する。 (22年度以降就任予定・高橋 雪子)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	事例展開Ⅶ (精神疾患)	開講時期	3年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	22年度以降就任予定 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	精神に障害をもつ人の事例を通して、精神科看護の基本を再確認し、これまで学んだ内容を踏まえて、一人の人間として社会の中で自立して生きていくための様々な社会的・心理的テーマを理解し、人的資源の活用の仕方について学ぶ。具体的には事例がもつセルフケアの力を見極め、看護過程展開の技法を活用し、障害をもつ人を取りまく病院や地域での多職種の人々との連携や調整をも視野に入れた、本人にとって望ましい生活の処方箋を描くことを目指す。合わせて、本事例展開のあり方を通して、後期から始まる精神看護学実習の礎とする。 (22年度以降就任予定・高橋 雪子)				

専門科目（領域別看護実践）

授業科目名	精神看護学実習	開講時期	3年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	22年度以降就任予定 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	2単位／60時間
授業の目的 および 到達目標	精神に障害をもつ人と家族に対する、精神保健医療福祉における看護の役割を理解し、精神科看護に必要な基本的技術を修得することを目的とする。また他職種との連携による精神的健康の回復およびリハビリテーション、生活支援の具体的活動について触れ、その過程における対人関係能力を培う。 (22年度以降就任予定・高橋 雪子)				

専門科目（地域における看護実践）

授業科目名	地域看護学概論	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	22年度以降就任予定	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	地域看護学は行政看護（公衆衛生看護）、学校保健、産業保健、在宅看護の4領域から構成されていることを理解する。地域看護の変遷と社会情勢を踏まえ、地域で生活する人々の健康の保持増進および QOL の向上を目指す地域看護の概念、関係法規、個人、家族・集団を対象に実施される看護活動について、ライフステージ別並びに健康レベル別に事例を提示しながら概説する。				

専門科目（地域における看護実践）

授業科目名	在宅看護論	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	22年度以降就任予定	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	在宅看護は地域看護学における4領域の一つである。在宅看護の変遷と社会情勢を踏まえ、在宅で生活しながら療養する人々とその家族が抱えている健康問題を理解し、在宅看護の概念、関係法規、対象に実施される看護活動について理解する。在宅看護に必要な援助方法、関係法規、社会資源、ケアマネジメントのプロセス、保健医療福祉の連携等、在宅看護の展開方法について学ぶ。				

専門科目（地域における看護実践）

授業科目名	保健指導論	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	22年度以降就任予定 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	あらゆるライフステージ、健康レベルにある地域住民に対して、個人・家族・集団を対象とした看護活動を展開するために必要な知識と方法について講義および演習を行う。健康相談、健康診査や家庭訪問など個別への支援と健康教育など集団への支援とのつながりや地区組織化、地域ケアシステムについて理解する。 (22年度以降就任予定・山本 かほる・22年度以降就任予定 1 名)				

専門科目（地域における看護実践）

授業科目名	事例展開Ⅷ (在宅・慢性期疾患)	開講時期	3 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	22年度以降就任予定 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目では、健康逸脱状態にある老年期の患者で、自宅に暮らす人の事例を取り上げ、在宅において最後までその人らしく暮らすことの可能性について検討する。多くの病名をもち、多彩な症状に苦しむ患者事例に対して、身体的、心理的、社会的な援助過程のあり方について学び、在宅・地域コミュニティにおける物的・人的資源の活用などについても配慮した看護援助の方向性を見出せるように導く。さらに本事例展開のあり方を通して、地域在宅ケア実習の礎とする。 (22年度以降就任予定・野口 京子・山本 かほる・田中 潤・22年度以降就任予定 1 名)				

専門科目（地域における看護実践）

授業科目名	地域看護管理論	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	山本 かほる	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	地域において適切な看護実践が展開できるよう、さらには効果効率的な看護実践を目指すための地域看護管理のあり方について、その知識・スキルを教授する。他職種との連携の仕方、そこに横たわる諸問題の解決法についても学習し、リーダーシップのあり方、リーダー育成について考察する。さらには災害時における看護職としての役割についても言及する。				

専門科目（地域における看護実践）

授業科目名	地域ケア連携とシステム	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	野口 京子	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	高齢者・障害者が疾病や障害を抱えた時、在宅を中心として地域で生活を続けていくために、どのような医療・保健・福祉の社会資源とシステムを活用すればよいか、現状を踏まえて、システムを概括する。さらに先進的なモデルを探り、将来のあるべき姿を描く。地域ケア連携をしていく中で、看護職と福祉職がどのように協働し、連携していけば、地域住民の健康と生活が守れるか、予防や健康増進の視点からも理解を深める。患者・利用者主体の在宅を中心とした地域ケアがどのように行なわれるか、講義を通じて学習することを目指す。				

専門科目（地域における看護実践）

授業科目名	ケアマネジメントの理念と実際	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	山本 かほる 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	ケアマネジメントとはどのような手法なのか、ケアマネジメント手法が出現した歴史的背景について考察し、ケアマネジメントの理念について概括する。そのケアマネジメントの理念がわが国に導入された歴史的展開について述べ、介護保険制度との関係の中で位置づける。さらに実際に行われているケアマネジメントの実態について触れ、事例を通して具体的課題や今後のあり方について考察する。 (山本 かほる・22年度以降就任予定1名)				

専門科目（地域における看護実践）

授業科目名	地域施設運営論	開講時期	4 年次・後学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	未定	授業形態	講義	単位数／時間数	1 単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	地域において、とりわけ地域における施設看護が社会化されるためには、地域の看護ニーズが明らかにされ、そのニーズに的確に応えられるよう、組織体制の構築、その維持管理が整えられる必要がある。さらに地域の施設における看護実践の具体は、地域の住民に活用され、日常生活の役に立つ状態になればならない。本科目では、こうした課題を解決するために必要な、医療・福祉制度における地域内組織の現状、組織的に看護を提供するための運営管理、財務・労務管理、資源の調達・管理、サービス提供のプロセス、情報公開等の地域連携について教授する。またサービス提供の国際規格についても、理解できるようにする。				

専門科目（地域における看護実践）

授業科目名	地域在宅ケア実習	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	22年度以降就任予定 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	4 単位／120時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は、地域実習と在宅実習を統合的に組み立てて行うものである。地域実習の枠組みにおいては、保健所、市町村における実習と組み合わせて、地域包括支援などでの実習を計 2 週間にわたって行うものとする。この実習における目的は、地域住民の健康アセスメントを中心に、疾病予防や介護予防などと併行して、健康保持のための健康相談の実態と課題を把握することである。また、在宅実習としては、高齢者対象の訪問看護ステーションでの実習と、障害者自立支援のための施設や事業所における実習を各 1 週間ずつ行う。在宅実習の目的は、在宅で安心して暮らすための仕組みを把握すると同時に、支援のための多彩な社会資源の活用の仕方を学ぶことである。 (22年度以降就任予定・野口 京子・山本 かほる・22年度以降就任予定 2 名)				

専門科目（看護の発展）

授業科目名	ケア情報学	開講時期	2 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	前田 樹海 他	授業形態	演習 (共同)	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	ケアの実践が情報集約型の専門分野であるという立場から、ケアにおける情報学の歴史的経緯、データ・情報・知識の定義と関係、暗黙知と形式知、用語体系、情報倫理、情報セキュリティ、EBP (Evidence-Based Practice)、情報の電子化に伴う影響など、ケアと情報に関する主要な話題についての討議を交えながら、ケアのプロセスにおける各局面を情報という切り口で論述することを当該科目の目的とする。 (前田 樹海・22年度以降就任予定 1 名)				

専門科目（看護の発展）

授業科目名	国際看護論	開講時期	4年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	金井 Pak 雅子	授業形態	講義	単位数／時間数	1単位／15時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目では、世界の健康問題と、それに対する看護の現状と課題について学習し、異文化の中での看護実践におけるコミュニケーションの基本、価値観の相違、倫理などについて学習する。さらに国際協力における看護の役割について理解を深めるとともに、先進国および開発途上国における看護の現状と課題について概説する。将来、海外での看護実践を目指す学生のみならず、国内においてさまざまな背景を持つ対象を理解する上での基本的考え方について学習する。				

専門科目（看護の発展）

授業科目名	看護管理論	開講時期	3年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	金井 Pak 雅子	授業形態	講義	単位数／時間数	2単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	看護専門職として必要なマネジメントの知識・スキルを教授するとともに、看護管理学の歴史的背景、概念枠組み、マネジメントに関する理論について概説する。さらに、ヘルスケアサービスの提供者として身に着けておくべき倫理について、現在の医療が抱える倫理的課題を具体的に提起して探求する。また、看護実践の質を向上の基本である医療政策について、政策決定のプロセスについて学習する。				

専門科目（看護の発展）

授業科目名	東洋医学概論	開講時期	2 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	東郷 俊宏	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	東洋医学の特徴は、豊かな洞察力をもって病める患者をトータルな存在として捉え、その持てる自然治癒力を最大限に生かすことを手当てのなかで重視していることにある。この基本的な考え方は、患者へのきめ細かい「観察」から、各患者にあったケアのあり方を追求したナイチンゲールの看護論に通底するものといえる。本科目では、こうした観点から、東洋医学的な生理観、病理観のなかから看護、介護に役立つ事項を中心に講義する。				

専門科目（看護の発展）

授業科目名	看護理論特講	開講時期	4 年次・後学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	金井 一薫	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	これまでの看護界において生成した諸看護理論を概括し、学生が3年間に渡る実習の中で得た知識や技術と統合できる思考的道筋を付け、学生一人ひとりの看護観形成の一助とすることを目的とする。諸看護理論の中でも、特にナイチンゲール思想に着目し、“人類の健康の実現”を目指す21世紀の科学思考と重なる点を学びつつ、さらにナイチンゲール思想と東洋医学思想の共通点に着目し、現代医療への適用の道を探り、新たな思考の修得を目指す。				

専門科目（看護の発展）

授業科目名	原著講読	開講時期	4 年次・後学期	必修／選択／自由	選択
担当教員名	金井 Pak 雅子	授業形態	演習	単位数／時間数	1 単位／30時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は、英語で書かれた看護学の研究論文を読み解くもので、自己の研究テーマに関連のある原著論文を選択し、その要約を英語にてまとめる。さらに、論文内容の理解のみならず、研究論文としてのまとめ方、概念枠組み、研究方法、統計処理、考察などについてクリティークを行う。選択した研究論文をまとめ、文献レビューとしてまとめる。				

専門科目（統合実習）

授業科目名	統合実習	開講時期	4 年次・前学期	必修／選択／自由	必修
担当教員名	金井 一薫 他	授業形態	実習 (共同)	単位数／時間数	4 単位／120時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は、各学生の看護実践探求の内容により実習部署を確定し、看護実践の基礎を活かしながら、その応用まで学習する。具体的には、看護実践を探求する分野を学生自身が選択し、看護基礎教育の最終学年として、それまでの知識・技術の統合を図るものである。 (金井 一薫・金井 Pak 雅子・浅田 庚子・前田 樹海・梶原 祥子・高橋 雪子・野口 京子・林 さとみ・平田 美和・山本 かほる・北島 泰子・22年度以降就任予定 8 名)				

専門科目（卒業研究）

授業科目名	卒業研究	開講時期	4 年次・通年	必修／選択／自由	必修
担当教員名	金井 Pak 雅子 他	授業形態	演習	単位数／時間数	2 単位／60 時間
授業の目的 および 到達目標	当該科目は、看護研究を通して、看護実践におけるさまざまな現象を科学的に探求する力を養う。臨地実習において深めるテーマを選択し、各自の研究テーマについて指導教員のもとで、文献検索、方法、データ収集・分析、結果、考察について、一連の研究プロセスを踏みながら、研究の基礎能力を養う。特に、文献に関しては、できるだけ広範囲にわたり検索を行うとともに、それぞれの文献に対して批判的にレビューできることを目指す。 （金井 一薫・金井 Pak 雅子・浅田 庚子・前田 樹海・梶原 祥子・山下 雅子・野口 京子・林 さとみ・平田 美和・山本 かほる・北島 泰子・22年度以降就任予定 6 名）				